

西暦年	月日	旧暦年	月日	日付の直後の天気欄記入事項と(関連するその他の事項)
1861年	1月1日	万延元年	11月21日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 ((銀3枚5人扶持御小姓組に等の人事異動、三ツ目内沢で盗伐・木と馬を捨て逃亡・木と馬は入札払い、武州者を泊めた宿等に過料等の罰)
1861年	1月2日	万延元年	11月22日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (人事異動)
1861年	1月3日	万延元年	11月23日	曇 今日雪降 一寸程積 25日から続く 役筋見分、去月4日飯詰朝組日沢村で縊死の者あり)
1861年	1月4日	万延元年	11月24日	曇 昨夜雪降 二寸程積 (御家老御用人大目付御目付が九時より医学館江籠り越し医業試いたし候、十三町湯前後今14日朝迄水閉二相成る、人事異動)
1861年	1月5日	万延元年	11月25日	曇 昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (南溜池に御家中の孫が落ち行方不明・水切り払いで死亡確認、昨24日朝堀越組福田村で出火・建家等焼失・火元呵置き稲草は 23日に続く
1861年	1月6日	万延元年	11月26日	曇 昨夜雪降 二寸程積 下から続く 火元御代官にて呵置、来春下向の節の御供廻り(武芸抜群?)を増やしている(何を恐れているのでしょうか)
1861年	1月7日	万延元年	11月27日	曇 卯の刻頃小雨降 則刻過(こう書いてあるのです)(医学館の名を「立成館」とする) 下から続く 5分・焼酎5升あり、去る26日大光組館山村で出火・居宅等焼失・ 上に続く
1861年	1月8日	万延元年	11月28日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (御献上鱈を御家老が見分、佐竹近江江下され候西洋砲入用トントロ5000発出来・部品?として徳利5本・玉子15・水銀55文目 上に続く
1861年	1月9日	万延元年	11月29日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 下から続く 津出御印代1俵:玄米25文目→35文目・白米と餅米27文目→37文目・白餅米29文目→39文目に申付ける)
1861年	1月10日	万延元年	11月30日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (奇特な在医に御賞(金100疋等)、秋田表江の大豆隠出で碇ヶ関町等の10人を揚屋入り・9人を町預け・預けられる名主が捕まっていた…… 上に続く
1861年	1月11日	万延元年	12月1日	晴 昨夜雪降 二寸程積 (当9月26日明け六時鯉ヶ沢沖合いに異国船が瀕懸・薪水与えると晦日松前箱館の方に出帆、江戸で人事異動)
1861年	1月12日	万延元年	12月2日	曇 (歩引き渡は続ける・高100石に付150目の御手当てを下さる、赤石組田野沢村前浜の朱之丸破船から沈米657俵を揚げる)
1861年	1月13日	万延元年	12月3日	晴
1861年	1月14日	万延元年	12月4日	曇 卯の刻頃より雨時々降 未之刻過止 (人事異動) 下から続く 150疋宛、昨夜九時頃青森町常光寺で寺廻り残らず焼失)
1861年	1月15日	万延元年	12月5日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (水練稽古出精の横岡愛太郎(幸太郎倅)等30人?に御賞(銀5両・7兩・3兩)・水練教授に金200疋、ハッテ一乗廻10人に御賞金 上に続く
1861年	1月16日	万延元年	12月6日	曇 今日雪降 三寸程積
1861年	1月17日	万延元年	12月7日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 今日雪少し降 今晩寅の刻過地震 (去月26日早瀬野間道を忍び入った男を碇ヶ関口送り返す、不明日に碇ヶ関町で塩引き6本等を抑え取り上げ・犯人逃亡)
1861年	1月18日	万延元年	12月8日	晴 昨夜雪降 一寸程積 (同行者の懐中から金子を盗んだと疑われた男が乞食小屋引回しの上生園送り返し)
1861年	1月19日	万延元年	12月9日	晴 今日雪少し降
1861年	1月20日	万延元年	12月10日	晴 昨夜雪少し降 (当年柄他邦米価高値、今泉鉄山がそれなりに動いているが金線りに苦労しているみたい)
1861年	1月21日	万延元年	12月11日	晴 今日雪少し降 (人事異動、合葉触れ売りの5人に家業御取り潰し御印札御取上げ過料銭18文目7分5厘宛・名主五軒組合にも申渡す、南溜池土居通りの木を盗伐するなどの触れ)
1861年	1月22日	万延元年	12月12日	曇 昨夜雪降 一寸程積
1861年	1月23日	万延元年	12月13日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (大豆隠し出で揚屋入りの内5人を無罪放免)
1861年	1月24日	万延元年	12月14日	曇 昨夜雪少し降 (多数の人事異動、射芸等に御賞(弦13筋・金100疋・鳥目300文など)
1861年	1月25日	万延元年	12月15日	晴 今日雪降 二寸程積 (不屈きな工藤某を隠居他出差留め・格段の沙汰で倅に金10兩4人扶持) 下から続く 申し付けた?、所々で盗み徒の男を揚屋入り)
1861年	1月26日	万延元年	12月16日	曇 昨夜雪降 三寸程積 (射芸・御蔵立会御蔵奉行に御賞(弦13筋・金100疋等)、当大豆出来作で1俵28・9文目迄下がる・秋田御領は不作で1俵43文目位に・適切な商売を 上に続く
1861年	1月27日	万延元年	12月17日	曇 今日雪少し降 (人事異動)
1861年	1月28日	万延元年	12月18日	曇 今日雪少し降 (人事異動)
1861年	1月29日	万延元年	12月19日	快晴 下から続く 者共喧嘩・怪我、1人が富田役所に呼び上げ詮議中に出奔・藤崎組深味村で縊死、江戸で人事異動、去月27日江戸で御献上の塩鱈見分)
1861年	1月30日	万延元年	12月20日	曇 巳の刻頃小雨降 則刻止 (殿様去月28日上使を以って御鷹の雁拝領、去月晦日大殿様を和泉守・殿様を越中守と尊称する、当8月飯詰組高野・柏木組五林平夕顔関村の 上に続く
1861年	1月31日	万延元年	12月21日	曇 (御賞(金700疋・100疋等)、人事異動、去月24日出火の堀越組福田村の上納御免:御収納米2石5斗9升5合・銭2匁8分3厘、大豆隠し出の件で鯉ヶ沢町奉行から 欄外(*)に続く
1861年	2月1日	万延元年	12月22日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、盗み徒の無宿2人を揚屋入り)
1861年	2月2日	万延元年	12月23日	曇 昨夜雪少し降
1861年	2月3日	万延元年	12月24日	曇 今日雪降 三寸程積 (交代即日勘定相済みの御中小姓・諸生教授方等に御賞(銀3両・金100疋)、南部鉄を盗賊同様にした男に過料1貫800文)
1861年	2月4日	万延元年	12月25日	晴 昨夜雪少し降 28日から続く 召抱える、当御参府付き添いの者共100人余に御手当て(金300疋・鳥目1貫500文・鳥目500文等))
1861年	2月5日	万延元年	12月26日	曇 下から続く 呵置く、人事異動、良く分からないが田舎を含め酒屋を封印しているらしい)
1861年	2月6日	万延元年	12月27日	晴 (芦刈担当の2人に御賞、高野村と五林平村の喧嘩が埒があかない揚屋入りの上嚴重に詮議、去る21日夜浦町組大野村で出火・建家等焼失・火元高無御代官にて 上に続く
1861年	2月7日	万延元年	12月28日	曇 辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (精勤者に銀1枚・御賞(金100疋)下し置かれる、人事異動、煙硝炊出し・花硫黄上納の奇特な男を60目2人扶持掃除小人に 25日に続く
1861年	2月8日	万延元年	12月29日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 巳の刻過止
1861年	2月9日	万延元年	12月30日	曇 昨夜雪少し降 (大豆隠し越で他出差留め親類預けが多く諸家様御人数通行に宿手配難しい・これも宿致すよう格別の……そのようにする)
1861年	2月10日	万延2年	正月1日	快晴 今日雪少し降 下から続く 1升は2文目5分1合売りは2分5厘に申付ける、12月16日に津軽越中守が侍従となる)
1861年	2月11日	万延2年	正月2日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (明3日御目見以上四ツ時以前に登城の触、当寒造本値段御定法では酒1升2文目4分06毛に相当(実際に〇と書いてある)・ 上に続く
1861年	2月12日	万延2年	正月3日	曇 今日雪少し降 (家中に侍従昇任を告げる、昨夜長坂町の家中の家が雪潰れ)
1861年	2月13日	万延2年	正月4日	曇 今日雪少し降
1861年	2月14日	万延2年	正月5日	曇 昨夜雪少々降 今日雪少々降
1861年	2月15日	万延2年	正月6日	快晴 昨夜雪少々降
1861年	2月16日	万延2年	正月7日	晴 (七種の御祝儀)
1861年	2月17日	万延2年	正月8日	曇 今日雪少し降 (最近毎日のように御家中が病死している)
1861年	2月18日	万延2年	正月9日	晴
1861年	2月19日	万延2年	正月10日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (薬種大間屋を決めるなど薬医学の集権が進んでいる)
1861年	2月20日	万延2年	正月11日	曇 今日雪少々降
1861年	2月21日	万延2年	正月12日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少々降
1861年	2月22日	万延2年	正月13日	快晴
1861年	2月23日	万延2年	正月14日	曇 巳の刻過より小雨降 午之刻過止
1861年	2月24日	万延2年	正月15日	快晴 (御弓師御矢師より例年の通り御弦御矢を差上げる・御祝儀として鳥目1貫文宛下し置かれる)
1861年	2月25日	万延2年	正月16日	曇 辰の刻頃より雨降 巳之刻過止
1861年	2月26日	万延2年	正月17日	晴 未之刻過より雨降 戌之刻過止 (藪を金木屋が一手に買い集めている)
1861年	2月27日	万延2年	正月18日	快晴
1861年	2月28日	万延2年	正月19日	快晴 昨夜雪少々降

(*)挨拶してから手入れをしるとの苦情が来ている)

1861年	3月1日	万延2年	正月20日	晴	(一昨17日藤代組三世寺村で出火・建家種籾等焼失・火元百姓を呵置く、人事異動)
1861年	3月2日	万延2年	正月21日	晴	(道中の路用増について1日120文宛下し置かれる、各組別の菜種蒔き付け面積は〆て518町6反6畝27歩・麦の蒔き付け面積は〆て381町5反7畝23歩)
1861年	3月3日	万延2年	正月22日	曇	
1861年	3月4日	万延2年	正月23日	晴	(江戸で人事異動) 下から続く 御払い依頼・東西にて6000俵の御印付1俵75・6文目立代金即納で御払い)
1861年	3月5日	万延2年	正月24日	晴	(去る10月29日下土手町出火の者の居下出人夫(意味不明)15か年の間御免を仰せ付ける(意味は知らない)、久渡寺境内に薪取り停止の触れ、勘定奉行から米10000俵 上に続く)
1861年	3月6日	万延2年	正月25日	曇	(去る11月28日拝領の雁肉を高岡江も御献備あそばされる)
1861年	3月7日	万延2年	正月26日	曇	
1861年	3月8日	万延2年	正月27日	曇	(トントロ製法出増にした懸合に御賞(金100疋・鳥目1貫500文)
1861年	3月9日	万延2年	正月28日	曇	今日雪少々降 (去る4日夜柏木組館野越村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓呵置く)
1861年	3月10日	万延2年	正月29日	晴	
1861年	3月11日	万延2年	2月1日	曇	今日雪少々降 (今某を長柄奉行格に等の多数の人事異動)
1861年	3月12日	万延2年	2月2日	快晴	昨夜雪少々降
1861年	3月13日	万延2年	2月3日	曇	下から続く 下し置かれる、人事異動)
1861年	3月14日	万延2年	2月4日	晴	(御名代の御家老中が剣術見分・大寄合以上見物、木8本を駄付けの者逃亡・入札払い、11月28日雁肉拝領の御祝儀として座当1688人に15文宛25貫320文・422文目 上に続く)
1861年	3月15日	万延2年	2月5日	曇	(菓を隠し売りの男に戸ノ15日・菓御取上げ・関係五軒組合にも罰、大豆買入で佐竹役人が来ている・断っている?)
1861年	3月16日	万延2年	2月6日	晴	
1861年	3月17日	万延2年	2月7日	晴	11日から続く 常光寺に仮葬、青森町の船廻り下に乞食様の男死去・役人が見分の上取り片付けする、三厩支配増川町の幸吉祖母が病死・これ迄の下された扶持は御引上げ)
1861年	3月18日	万延2年	2月8日	晴	(御名代の御家老中が剣術見分・大寄合以上見物、御賞、碇ヶ関の隠し越容疑の名主等を条件付で返す)
1861年	3月19日	万延2年	2月9日	晴	(多くの盗伐者を見継中に取り逃がした男に27鞭7里四方追放・関係者にも罰) 下から続く 類焼共3軒焼失・火元高無他村預け)
1861年	3月20日	万延2年	2月10日	曇	卯之刻過より小雨降 辰之刻過止 (当両都廻船3艘の見込み・上乘り去年の余り18人を差し引く等検討している、家中の病死者が多い、去る6日徳組堅田村で出火・ 上に続く)
1861年	3月21日	万延2年	2月11日	曇	今日雪少々降 午の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (子供18歳を6歳と申告し使役を逃れた御持鍵中間を押し込め、青森で紀州船で南部大畑の水主が病死・ 7日に続く)
1861年	3月22日	万延2年	2月12日	曇	昨夜よりの雨今晩丑の刻過止 (御名代の御家老中が剣術見分、人事異動、御賞、過伐の者共に過料錢1貫800文・庄屋にも、尾上村の在医が去る申年尾崎組等3組の極民に施業)
1861年	3月23日	万延2年	2月13日	晴	
1861年	3月24日	万延2年	2月14日	晴	(二ノ御丸並びに御北之丸西之御郭共三ヶ所御櫓数年に相成り朽損……)
1861年	3月25日	万延2年	2月15日	晴	(御名代の御家老中が剣術見分) (今日の御用当番が2度書かれている)
1861年	3月26日	万延2年	2月16日	快晴	戌之刻頃小雨降 即刻止
1861年	3月27日	万延2年	2月17日	曇	
1861年	3月28日	万延2年	2月18日	曇	(御名代の御家老中が剣術見分)
1861年	3月29日	万延2年	2月19日	快晴	
1861年	3月30日	万延2年	2月20日	快晴	(十三の有船の内御米小廻が済んでも5艘宛備置くよう仰せ付けられたが、2艘だけにして自由に使えるようにしてくれとの申し出あり)
1861年	3月31日	万延2年	2月21日	快晴	(進藤太郎左衛門が御留守詰め交代登り、御名代の御家老が剣術見分、人事異動)
1861年	4月1日	万延2年	2月22日	快晴	(今晚六時過ぎ新町で出火、去る10月大豆酒などを船で隠下げ逃亡の男に過料錢1貫800文、ケール細工場御取建てを仰せ付けられたが鉄砲師5人で年50挺であり……)
1861年	4月2日	万延2年	2月23日	曇	辰之刻過より小雨降 未之刻過止 (一昨年江戸で浄瑠璃語の文之助と申す女と馴合……) 下から続く 9合、去年は3月18日朝迄水明け当年は30日早く節に引合3日早い)
1861年	4月3日	万延2年	2月24日	曇	酉之刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (御名代の御家老が剣術見分、火災の上納御免;後湯組蓬田村の米3石5斗3升7合と錢3文目8分・木作新田館岡村の米1石5斗8升 上に続く)
1861年	4月4日	万延2年	2月25日	曇	昨夜より小雨今日ニ及 辰之刻過止 (昨晚六時頃新町で出火・類焼潰家共11軒・火元日雇入寺の上慎、去る22日広田組田川村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け)
1861年	4月5日	万延2年	2月26日	快晴	下から続く 貯籾数十俵盗取る・当人以外は大赦以前として御用捨)
1861年	4月6日	万延2年	2月27日	曇	酉之刻過より雨時々降 夜二入同断 (旧冬11月に木造新田から鱈ヶ沢に行った男が行方不明・去る22日広岡村の苗代に倒死で発見、一昨年以前に郷蔵の屋根破り 上に続く)
1861年	4月7日	万延2年	2月28日	曇	昨夜より雨 今日及 時々降 夜二入同断 (御名代の御家老が剣術見分、御家中の病死者が多い、頃日用心向き不宣・別段廻を御手廻・御馬廻の12人に仰せ付ける)
1861年	4月8日	万延2年	2月29日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降
1861年	4月9日	万延2年	2月30日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 申之刻過止 (御名代の御家老が和術見分) 下から続く (通ったことない)雪中になる恐れとして3月と9月に改めるお願いが認められる、御賞)
1861年	4月10日	万延2年	3月1日	晴	(多数の人事異動、去る10月12日?河津三郎太郎様より蝦夷地御陣屋付地所ス・領とシマコマキ領を御引渡し相済む、近年2月御暇10月御参府を小坂通道中が 上に続く)
1861年	4月11日	万延2年	3月2日	晴	(去月19日青森の水主が病死・蓮華寺に仮葬、人事異動、御本城御広庭口御門修復につき……)
1861年	4月12日	万延2年	3月3日	晴	(人事異動)
1861年	4月13日	万延2年	3月4日	曇	巳之刻頃雨降 則刻止 (諸手12番組足軽に福眞栄次郎あり・去月22日の火災で江戸町の家焼失御米1俵拝借)
1861年	4月14日	万延2年	3月5日	曇	今日雪少々降 (大豆の隠し津出対応で鱈ヶ沢町から舞戸に別段役を派遣・類似の件あり)
1861年	4月15日	万延2年	3月6日	快晴	
1861年	4月16日	万延2年	3月7日	快晴	(昨6日夜猿賀村で出火・建家穀物等焼失・火元を御代官にて呵置く、青森に住む箱館の男を女子勾引で揚屋入り)
1861年	4月17日	万延2年	3月8日	晴	(人事異動、隠し津出が疑わしい小橋村の男を揚屋入り、類焼のない出火は戸ノに及ばず・類焼がある節はこれまでの通り慎を申し付けることとする)
1861年	4月18日	万延2年	3月9日	晴	
1861年	4月19日	万延2年	3月10日	晴	(八幡宮熊野宮の下社家10軒に御米1俵宛下されたいとの願い・鳥目1貫文宛下し置かれる、刑法(鞭?)の後に又盗み徒の男に当分の内入牢、盗み徒の鍛冶町の子を揚屋入り)
1861年	4月20日	万延2年	3月11日	曇	巳の刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動、去る6日柏木組常高橋村で出火・建家隣家の小屋等焼失・火元大工他村預け、午前様御手元金は1か年200両宛)
1861年	4月21日	万延2年	3月12日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 夜二入同断 (7日記述の箱館の男が当月4日に松前江出帆・逃亡)
1861年	4月22日	万延2年	3月13日	晴	昨夜より之雨今晩寅之刻過止
1861年	4月23日	万延2年	3月14日	快晴	
1861年	4月24日	万延2年	3月15日	快晴	(御名代が外馬場で馬術見分、去る8日暁油川組田沢村で出火・建家外馬屋等焼失・火元庄屋を代官にて呵置く、五重塔皆出来、部少輔様より町奉行に川鱒1尺宛贈られる)
1861年	4月25日	万延2年	3月16日	快晴	(大豆隠越の男3人に大豆御取り上げの上15鞭居町徘徊はまで通り・関係五軒組合に過料錢1貫500文・名主取放の上戸ノ20日・多数の関係者にも罰)
1861年	4月26日	万延2年	3月17日	曇	卯之刻過より雨時々降 酉之刻過止 下から続く これからは能書(原本を見よ)に沿え値段を明示(大粒15粒(又は?)小粒30粒は金100疋・大粒8粒 欄外(*)に続く)
1861年	4月27日	万延2年	3月18日	晴	申の刻過より雨時々降 (当スツ・詰諸手足軽頭戸田某が20日出立、大豆隠越の儀に付碇ヶ関町奉行が御奉公遠慮伺いを出す、これまで一粒金丹の値段は不同だった・ 上に続く)
1861年	4月28日	万延2年	3月19日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 下から続く 御手筒にはこれまでの三ノ一渡すようにする(儀式のためかな?)
1861年	4月29日	万延2年	3月20日	曇	昨夜より雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 (外馬場で御名代が馬術見分・大寄合以上見物、御手弓御手筒御城付足軽がトントロ打二付火縄御引上之儀……御城付 上に続く)
1861年	4月30日	万延2年	3月21日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 巳之刻過止 今日雪少々降 (人事異動、横内組の山で盗伐179本を押さえる・御取上げ、当月2日赤石組鴨村の男が裡里村に・ 欄外(**)に続く)

(*)小粒15粒で金2朱)するようにする、来る26日御発駕と仰せ出される、去月28日で登城したら年号を文政と改元したことを知らされる、江戸で人事異動)

(**)死亡して見つかる、去る16日飯詰組高野村で出火・類焼共3軒焼失・火元百姓他村預け、昨20日朝東長町御制礼場江張紙様之者(物ではない)あり・役筋にて剥取持参)

1861年	5月1日	万延2年	3月22日	晴	(昨年刑法を行われ又盗み徒の男を当分の内入牢)
1861年	5月2日	万延2年	3月23日	快晴	(御家中附上芦の内から抜取り事件があり過料・御奉公遠慮)
1861年	5月3日	万延2年	3月24日	晴	(御名代が外馬場で馬術見分、深浦湊荷揚げ品の品目(刃鉄10貫目入り30箇など)あり)
1861年	5月4日	万延2年	3月25日	晴	(人事異動、去る21日夜青森下米町で出火・大町・米町・浜町・塩町・葎町・蜷貝町・大工町・博勞町で借家とも403軒焼失・他に潰家11軒・土蔵6ヶ所焼失)
1861年	5月5日	万延2年	3月26日	曇	卯之刻過より雨時々降 午之刻頃止
1861年	5月6日	万延2年	3月27日	曇	卯之刻過より雨時々降 夜二入同断 (大円寺五重塔御普請出来)
1861年	5月7日	万延2年	3月28日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻過止 (佐竹様御家中から大豆2000俵津出依頼・当面断っている)
1861年	5月8日	万延2年	3月29日	曇	辰之刻より雨時々降 酉之刻過止 今日霰降 (江戸で人事異動、当年柄道中筋諸色高値・1日60文宛御手下下し置かれる、交代下がり道中の行程表あり)
1861年	5月9日	万延2年	3月30日	晴	(外馬場で御名代が馬術見分・大寄合以上見物) 下から続く 喜良市村で出火・建て家等焼失・火元御代官にて呵置く)
1861年	5月10日	文久元年	4月1日	快晴	(人事異動、砲家・金?学生・蘭学生として多数を江戸等に送り込んでいる・寒暑の進物料を半減しないで……判らんが手当てしているらしい、去月25日夜金木組 上に続く)
1861年	5月11日	文久元年	4月2日	曇	(去月24日赤石組岩崎村領の山で久田村小又鬼半次郎組合5人が熊狩取る・胆は北岡太淳江差し遣わず、青森に売出米なし小売に差し支える・御蔵米3000俵拝借渡しとする)
1861年	5月12日	文久元年	4月3日	曇	下から続く 払底に付買戻させている)
1861年	5月13日	文久元年	4月4日	曇	今暁寅之刻頃より雨降 午之刻過止 (青森湊で加州船の能州の水主が病死・同所蓮心寺に仮葬、人事異動、在望望みの者共が約定の上売り出した大豆7830俵を 上に続く)
1861年	5月14日	文久元年	4月5日	曇	(開発下取扱の広須組出野里村の田方30人役御免引の人寄役・これに加え20人役御免引きとする、養蚕方を作った・9人が任命されている、石渡川岩木川落水通路相成る)
1861年	5月15日	文久元年	4月6日	晴	卯之刻頃雨降 則刻止 下から続く 上蘭3文目3分→4文目・中蘭2文目8分→3文目5分・下蘭2文目5分→3文目、去月26日に殿様が江戸御発駕)
1861年	5月16日	文久元年	4月7日	快晴	(御領内旅籠(銭)増:碇ヶ関より新城迄上360文→400文・中330文→380文・下290文→350文、その他三厩限りで上400文→440文・中370文→420文等々、蘭値段(1升): 上に続く)
1861年	5月17日	文久元年	4月8日	快晴	(外馬場で御名代が馬術見分、青森で小売米なく糶米(船の食糧)半減などの案が出ている、山の観音堂に寄進の灯籠100張が他入物差留めで碇ヶ関で留る・ 欄外(*)に続く)
1861年	5月18日	文久元年	4月9日	快晴	
1861年	5月19日	文久元年	4月10日	晴	(今日家老等が紙漉座見分) 下から続く 丑寅之御櫓大破・辰巳御櫓同様に修理したい・品代人部代の他643文目8分を要する?)
1861年	5月20日	文久元年	4月11日	曇	巳之刻頃小雨降 則刻止 (多数に漆小仕立を申付ける・御免引き10石など多数(100人に近い?)増・帯刀御免もある、今別町の13人に52俵拝借申付ける、二之御丸 上に続く)
1861年	5月21日	文久元年	4月12日	晴	(今日外馬場で御名代が源家古伝取術見分、漆掻き山頭等3人に10石宛の御免引き、今日昼八つ頃青森大工町松森町境川より出水・下大工町・松森町・下米町・ 欄外(**)に続く)
1861年	5月22日	文久元年	4月13日	曇	15日から続く 等の地名があり報告日と記述日の差が大きいことから鉄山の今泉近くか)で稀成高水、養蚕師指名2人・新たに養蚕で名字帯刀御免が5人)
1861年	5月23日	文久元年	4月14日	晴	(青森の御本陣村林屋が先だつての類焼で御印付米300俵拝借願ひ・御印付1俵96文目立て200俵拝借を仰せ付ける、一昨夜紺屋町の屋根に投げ火、座当共1人に付1貫文の御手当て)
1861年	5月24日	文久元年	4月15日	晴	(殿様九時過ぎ着城(通った部屋の順が書いてある)、(人名から)漁師頭が御魚1折差上げる、一昨3日夜半の頃未申之風大雨で昨4日五つ時頃より不明地(母沢川 13日に続く)
1861年	5月25日	文久元年	4月16日	晴	
1861年	5月26日	文久元年	4月17日	晴	下から続く 願ひ出・(多分)認められていない、今暁(4月9日)九時過ぎ横川御屋敷北御長屋より出火・すぐさま鎮火・出火原因その報告等あり)
1861年	5月27日	文久元年	4月18日	晴	(今暁作事方で金子盗み取られる、10日にかけ松前様が御国入り・下され物等あり、大鰐村久吉村から沢奥で田方本熟に至り兼ねるとして当年までの三ツ成を永久にとの 上に続く)
1861年	5月28日	文久元年	4月19日	快晴	
1861年	5月29日	文久元年	4月20日	曇	午之刻過小雨降 則刻止
1861年	5月30日	文久元年	4月21日	快晴	(碇ヶ関町の3人が頭取りで町中物共が山神堂に寄合う・町同心差し向け召捕り町預け・3人は戸外) 下から続く 24日御遠馬、佐竹様役人から町奉行へ大豆の配慮願ひ)
1861年	5月31日	文久元年	4月22日	曇	(昨年上納の下位の熊皮2枚が虫食いになる・下々位として狛師への御賞とするか検討・狛師の励みあいを失うので馬具師に売ること話がついたのかな?、亀甲御門より 上に続く)
1861年	6月1日	文久元年	4月23日	曇	卯之刻過小雨降 即刻止
1861年	6月2日	文久元年	4月24日	曇	卯之刻過小雨降 即刻止 (去る6日深浦濁口で17人乗り能州船が難船・海死6人、22日の佐竹役人への返書・承知した多少とも……、大鰐・大光寺・常盤・柏木組で579俵余を上納御免)
1861年	6月3日	文久元年	4月25日	晴	(旅籠高値に相成り路用増を考慮し日数にかかわらず御手当1貫文宛飛脚に下し置かれる)
1861年	6月4日	文久元年	4月26日	曇	(廣田某を寄合に等の人事異動)
1861年	6月5日	文久元年	4月27日	晴	(異風の頭巾一切冠などの公儀御書付の写が届く、去月21日夜四時頃青森出火・家414軒土蔵6ヶ所焼失と公儀へ報告)
1861年	6月6日	文久元年	4月28日	曇	(当御下向の節骨折りとして13人に御酒代下し置かれる)
1861年	6月7日	文久元年	4月29日	曇	(百沢下居宮並びに大堂御本尊御出汗・御神楽を仰せ付ける)
1861年	6月8日	文久元年	5月1日	晴	(人事異動)
1861年	6月9日	文久元年	5月2日	曇	辰之刻頃より小雨降 巳之刻過止 下から続く 是まで通り・関係する庄屋等に過料等の罰・出奔者3人は帰村次第召捕るようにする)
1861年	6月10日	文久元年	5月3日	快晴	(去る9月6日夜に破船して流れ着いた加州船に乱舩船具等盗み取りの24人に30鞭10里四方追放大場海岸村町御構い・容疑者を預かり逃げられた男に21鞭居村徘徊 上に続く)
1861年	6月11日	文久元年	5月4日	晴	(水車で調べた筒薬を武器奉行で試したら玉行きは劣るが……残らず水車調合とする) 下から続く 嵩の硫黄90俵の穿取りを認める)
1861年	6月12日	文久元年	5月5日	快晴	(当3月の青森大火に関する補助者に御賞) 下から続く 松前より煙硝注文・150貫目を目形10貫目に付御役銭10文目宛上納の上津出を申付ける、付木屋共に 上に続く)
1861年	6月13日	文久元年	5月6日	曇	卯之刻過小雨降 即刻止 (盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り) 下から続く 5分8厘になる・3厘御用捨の上(10文目)1挺を33文に5文目1挺を17文に申付ける、 上に続く)
1861年	6月14日	文久元年	5月7日	快晴	(今夜四時過ぎ新町で出火、御家中御払渡し蠟燭値段は去る天保の度10文目懸1挺を3分5厘・生蠟が払底し御買入値段が1斤に付8文目5分立て10文目懸1挺が 上に続く)
1861年	6月15日	文久元年	5月8日	晴	酉之刻過より雨時々降 夜二入同断 (去る11月25日新坂で1尺5歩位の脇差を拾う・先例の通り6ヶ月預り持主がなければ拾い主に渡す、昨夜五時半新町火災の 欄外(***)に続く)
1861年	6月16日	文久元年	5月9日	曇	昨夜より之雨今日及 巳の刻過止
1861年	6月17日	文久元年	5月10日	曇	
1861年	6月18日	文久元年	5月11日	快晴	
1861年	6月19日	文久元年	5月12日	曇	巳之刻過小雨降 即刻止 (スツ・詰物頭岩崎某が昨日帰着、金井ヶ沢沢廻船問屋から文政の頃のように金井ヶ沢に荷揚げ願ひ・断っている、飼料代が値上がりしている)
1861年	6月20日	文久元年	5月13日	曇	巳之刻過より小雨時々降 夜二入同断
1861年	6月21日	文久元年	5月14日	曇	昨夜より雨今日二及 卯之刻過止 (青森で加州の沖船頭が病死、御馬廻の倅を青森町年寄り村井某方に呼取(養子にすることらしい)縁談が不釣合いとして……)
1861年	6月22日	文久元年	5月15日	曇	巳之刻過より小雨時々降 (当時御家中御貸渡し皮製甲冑1領代:1貫980目9分1毛(その内容は理解不能))
1861年	6月23日	文久元年	5月16日	晴	(盗み徒の男に3鞭弘前御構い) 18日から続く 春日宮林に遊びに行った子供が拾う・去月16日夜作事方から盗まれたもの)
1861年	6月24日	文久元年	5月17日	晴	(行列方を通じて大豆の購入願ひ・延々と書いてあり判らん、昨年減石で飯料が差支えるとして諸細村々から13370俵余御米拝借願ひ・3421俵余を申付ける)
1861年	6月25日	文久元年	5月18日	曇	辰之刻過より小雨降 辰之刻過地震少々 (奇特な深浦町の(多分)商人に御酒御吸物等を下し置かれる、去る3日番附封印金10両包4ツと無印白紙包み金9両3歩を 16日に続く)
1861年	6月26日	文久元年	5月19日	晴	(岩木川出水・今五時頃より両船とも往來差止める)
1861年	6月27日	文久元年	5月20日	曇	(岩木川の通路相成る、平川出水・石川仮大橋往來差止、人事異動)
1861年	6月28日	文久元年	5月21日	晴	
1861年	6月29日	文久元年	5月22日	曇	午之刻過より小雨降 (十三町の船が(藩から借りた金で作ったにもかかわらず)小廻りをせず他国の荷物を運んでいる・不届きとした過料戸外)
1861年	6月30日	文久元年	5月23日	晴	(手段米の男に18鞭居村払い)

(*)荒物として通している、江戸で殿様御昇進に関する御祝儀(銀2枚・銀1枚・金300疋等)を下し置かれる、江戸で人事異動) (**)博勞町・下大町・堤町・蜷貝町・堤町通り 下に続く
迄一円人家迄水滲・夜五つ時頃落水) (***)類焼共6軒焼失潰れ家1軒、ケヘール稽古と鉄砲隊ともに早撃ちと目標30間にしている)

1861年	7月1日	文久元年	5月24日	曇	午の刻過より小雨降
1861年	7月2日	文久元年	5月25日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 (鯉ヶ沢に大豆2500俵買集めて御役銭1俵35文目立て津出を仰せ付けたが近国並びに秋田で大豆相場が下がり売れない)
1861年	7月3日	文久元年	5月26日	曇	
1861年	7月4日	文久元年	5月27日	曇	(御手船栄通丸合船に付き御賞(金200疋・金300疋・鳥目1貫700文)、岩木山硫黄平で附木屋共が硫黄90俵取り出す)
1861年	7月5日	文久元年	5月28日	曇	(種市某を御使番に等に多数の人事異動、夜宮の節人家近くで花火小筒等打ち放すなどの触れ、去月16日作事方に忍び入り御用金盗み取ったと疑われた男を釈放)
1861年	7月6日	文久元年	5月29日	晴	
1861年	7月7日	文久元年	5月30日	快晴	(来月4日立ちで江戸に金3000両と灰吹銀2貫目送る、江戸で人事異動、江戸で破牢・手錠で御国下がりなどあり)
1861年	7月8日	文久元年	6月1日	快晴	(今日四時日蝕に付き月並み登城御用捨、別段廻り12人に御賞)
1861年	7月9日	文久元年	6月2日	曇	午の刻過より雨降 申之刻頃止 (似せ暦並びに晴雨考開版・売払いの青森町の男共を戸ノ15日等、岩木山御室近くで大石噴出・飛散(火山活動?)したので御堂で重き御祈禱)
1861年	7月10日	文久元年	6月3日	曇	下から続く 導師報恩寺に銀1枚・寺庵4人に青銅7文目宛・所化1人に青銅5文目・小僧1人に青銅3文目・合計79文目(他の費用も含めて?)
1861年	7月11日	文久元年	6月4日	快晴	(去月29日暮れ六つ頃飯詰村で出火・類焼共4軒焼失・火元他村預け、人事異動、作事方御用金を盗まれた担当者の揚屋御免・遠方行き御差留め、報恩寺に御布施: 上に続く)
1861年	7月12日	文久元年	6月5日	快晴	
1861年	7月13日	文久元年	6月6日	晴	
1861年	7月14日	文久元年	6月7日	曇	卯之刻過より雨降 (青森御蔵米御印子紙1枚が商人の手違いで焼け潰れ・過料銀1枚で再発行?)
1861年	7月15日	文久元年	6月8日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 (人事異動、座当頭を召し放たれた大円寺門前の佐和一が早瀬野間道を忍び通り江戸表江罷登り……判らん)
1861年	7月16日	文久元年	6月9日	曇	
1861年	7月17日	文久元年	6月10日	晴	(御家中訓練並びに砲術高覧)
1861年	7月18日	文久元年	6月11日	快晴	(菜種買占めの者が動いている) 下から続く 大豆500俵代17貫500目)
1861年	7月19日	文久元年	6月12日	曇	(諸組足軽の訓練並びに砲術高覧、掃除小頭が江戸からの御用状を持って来ている) 15日から続く 火元高無阿置く、昨夜福嶋千之助が病死、鯉ヶ沢から津出の 上に続く
1861年	7月20日	文久元年	6月13日	曇	卯之刻過小雨降 則刻止 (御旗奉行館山某が病死) 下から続く 4月28日頃より5月21日・広須両組之外下宅在4月24日頃より5月25日頃)
1861年	7月21日	文久元年	6月14日	晴	(当年の田植え(始まりと仕舞):御近在4月21日頃より田植取付5月15日植仕舞・沢目通5月朔日頃より同27日・広須両組4月28日頃より5月21日・外ヶ浜通並びに赤石組共 上に続く)
1861年	7月22日	文久元年	6月15日	曇	(家老堀五郎右衛門の倅某が御留守居組頭に・山中某を用人兼帯に等多数の人事異動、御賞的な銀子3枚等あり、去る11日夜木造新田山田村で出火・建家等焼失・ 12日に続く)
1861年	7月23日	文久元年	6月16日	曇	(何かを手段した男に3鞭弘前町払い)
1861年	7月24日	文久元年	6月17日	曇	(二之御丸丑寅御櫓の屋根廻り糊草の葺替え皆出来)
1861年	7月25日	文久元年	6月18日	晴	(人事異動、禁裏御寺泉涌寺家来より手先を以って合薬売広め……禁裏も平出)
1861年	7月26日	文久元年	6月19日	晴	
1861年	7月27日	文久元年	6月20日	晴	(院内御本陣が焼失建替えて御金30兩拝借願い・格段の御沙汰を以って御金30兩御手当てとして下し置かれる:変な話だとは思いますが)
1861年	7月28日	文久元年	6月21日	曇	今暁丑之刻頃より雨時々降 卯之刻頃止 (人事異動)
1861年	7月29日	文久元年	6月22日	曇	
1861年	7月30日	文久元年	6月23日	曇	未之刻過より雨降 申之刻過止
1861年	7月31日	文久元年	6月24日	曇	辰刻過より雨降 申之刻過止 (昨夜四時過ぎ御旗警護が大組足軽に脇差で切られる)
1861年	8月1日	文久元年	6月25日	晴	(人事異動、去月15日箱館を出帆の越前船が鯉ヶ沢淵口で水船になる) 28日から続く 金子を盗み火をつけた疑いで仮牢に入っていた御箱持加勢が破牢行方不明)
1861年	8月2日	文久元年	6月26日	晴	(当正月4日寺内で博打の上傷害事件の神宮寺に慎・傷害犯は親の深砂宮下社家に帰す) 下から続く (家中扶持米8000・払い米2000・定例37250石)、江戸で人事異動)
1861年	8月3日	文久元年	6月27日	晴	(3貫目玉筒4挺を御廻船で下す浦賀御開所通行を願い出・即刻了承される、当年江戸廻米30000石(家中扶持米18000・払い米12000・定例53342石)・大坂廻米10000石 上に続く)
1861年	8月4日	文久元年	6月28日	快晴	(隠し駄下げ(ほとんどが大豆)で数十人が捕まっている・逃げた者も多数、碓ヶ関町奉行山上鉄太郎が御奉公遠慮伺い・御用捨となる、去々月8日夜浜町御屋敷から 25日に続く)
1861年	8月5日	文久元年	6月29日	快晴	
1861年	8月6日	文久元年	7月1日	快晴	(人事異動、横川御屋敷出火の際の働きに御手当て(金50疋・鳥目300文))
1861年	8月7日	文久元年	7月2日	快晴	(当2月21日夜新町染屋に盗人・玉藍8等が盗まれる・延々と続くが判らない・多分犯人不明、今泉鉄山からの鉄50箇出る・謝金を返す話が延々・盛山とは……)
1861年	8月8日	文久元年	7月3日	晴	
1861年	8月9日	文久元年	7月4日	曇	(3日八時頃南溜池で外瀬村の男が溺死)
1861年	8月10日	文久元年	7月5日	曇	(新町火災の被災者17軒に出入夫諸役共3~5年間御免とする)
1861年	8月11日	文久元年	7月6日	曇	辰の刻過小雨降 即刻止
1861年	8月12日	文久元年	7月7日	曇	
1861年	8月13日	文久元年	7月8日	晴	
1861年	8月14日	文久元年	7月9日	晴	下から続く 5日の内普光寺?境内で江戸大関陣幕梅ヶ枝等の興行・札銭は1人に付9分宛並びに上枝數5文目中枝數4文目下枝數3文目宛とする)
1861年	8月15日	文久元年	7月10日	快晴	申の刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 稽古を仰せ付けられたが今以って和砲のみ稽古の族多分あり・西洋流砲術を学べと仰せ付ける、13日より晴天 上に続く
1861年	8月16日	文久元年	7月11日	曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過止 (大鰐村より初穂差出す、紙漉き座御元金として1500両を差上げた工藤某を御目見以上留守居支配10人扶持とする、西洋流砲術 上に続く)
1861年	8月17日	文久元年	7月12日	晴	(黒石から家中扶持米を毎年1000俵だが壬月(閏月)があれば不足……:公式文書に壬が出た、ケエール銃は年に20挺充出来・内10挺は者頭以上10挺を一統に闡(くじ)で渡す)
1861年	8月18日	文久元年	7月13日	晴	
1861年	8月19日	文久元年	7月14日	晴	(石渡村野合で乗り打ちの男が鞭打ちされたまま逃げ去り落馬・死亡)
1861年	8月20日	文久元年	7月15日	快晴	(人事異動)
1861年	8月21日	文久元年	7月16日	晴	
1861年	8月22日	文久元年	7月17日	晴	(人事異動)
1861年	8月23日	文久元年	7月18日	晴	(砲術調蓮等に約40人に御賞(銀子1枚・金200疋・金100疋)・300人近くに御酒代(鳥目500文・700文))
1861年	8月24日	文久元年	7月19日	晴	(岩木川で御家中並びに御徒水練を高覧・大目付等見物)
1861年	8月25日	文久元年	7月20日	快晴	(昨年の新鱈差留め中に新鱈1本に付き1文目7分5厘宛で買入大坂船に売り……手段米等の悪人が沢山いるが後の処分がわからない)
1861年	8月26日	文久元年	7月21日	快晴	戌の刻過地震少し (神奈川より長崎箱館間の測量を英国に許す・上陸食物積み入れ等に取り計らうようにとの達)
1861年	8月27日	文久元年	7月22日	快晴	(人事異動、今泉鉄山に手段で米を送った男共に過料1貫500文等の罰) 下から続く 交代を公儀に報告、佐々木元俊に蕃書調所物産学出役にとの問い合わせ・断っている)
1861年	8月28日	文久元年	7月23日	曇	辰の刻過より小雨時々降 (去る13日御前様御逝去・鳴り物10日・普請作事7日・渡世の殺生5日・その他の殺生10日間停止、蝦夷地御固箱館の200人とスツ・の100人の 上に続く)
1861年	8月29日	文久元年	7月24日	快晴	(人事異動)
1861年	8月30日	文久元年	7月25日	快晴	(御家老御城代が御菓子差上げる)
1861年	8月31日	文久元年	7月26日	曇	未の刻過より小雨時々降

1861年	9月1日	文久元年	7月27日	曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々降 申の刻過止 (人事異動)
1861年	9月2日	文久元年	7月28日	曇	(当江戸廻米積みの御手廻(船?)栄通丸で抜手段・首犯は船中で病死)
1861年	9月3日	文久元年	7月29日	晴	
1861年	9月4日	文久元年	7月30日	快晴	(人事異動)
1861年	9月5日	文久元年	8月1日	快晴	
1861年	9月6日	文久元年	8月2日	快晴	(加州船に病死者・三厩町の庵に仮葬を申付ける、人事異動)
1861年	9月7日	文久元年	8月3日	快晴	
1861年	9月8日	文久元年	8月4日	快晴	(去月29日浦町組高田村で出火・建家等焼失・類焼4軒・火元百姓他村預け、朔日付けで昨日迄に水練稽古仕舞と達す、芦萱を勝手に買うな明蜜に調べて御払願を出せとの触れ)
1861年	9月9日	文久元年	8月5日	晴	(人事異動、松前志摩守参勤の動勢202人・貰い物や手配の様子が書いてある)
1861年	9月10日	文久元年	8月6日	曇	今暁子の刻過より小雨時々降 寅の刻過止 8日から続く 田を村で管理して……、佐々木元俊に蕃書調所物産学江出役の話がまた来ている)
1861年	9月11日	文久元年	8月7日	曇	(大鰐村加賀助兵左衛門より御初米差上げる。(翌日の記事)去年は4月19日植付7月20日鎌入で90日当年は5月7日植付8月朔日鎌入で84日目・当年は6日早く節に比較して遅速なし)
1861年	9月12日	文久元年	8月8日	快晴	戌の刻過より雨時々降 夜二入同段 (宇和野での内習・内々習に出精の御家中の俸等150人位に御賞(銀3両・金100疋)、人事異動、浪岡組の村で死絶・他散の者の 6日に続く
1861年	9月13日	文久元年	8月9日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過止
1861年	9月14日	文久元年	8月10日	曇	(不調法の御城付足軽を減俸の上御持鍵仲間(に役下げ)
1861年	9月15日	文久元年	8月11日	晴	(今日宇和野で両組頭の内習高覧)
1861年	9月16日	文久元年	8月12日	晴	
1861年	9月17日	文久元年	8月13日	晴	
1861年	9月18日	文久元年	8月14日	曇	午の刻過より小雨降 未の刻過止 (普光寺?(普光院とすれば廃寺)境内で軽技興業・1人前4分宛、人事異動)
1861年	9月19日	文久元年	8月15日	晴	(去る10月田野沢村前浜における朱之丸船の破船対応で金井ヶ澤湊目付等に御賞(金500疋・金300疋)・御酒代(1貫500文・1貫600文)、人事異動)
1861年	9月20日	文久元年	8月16日	晴	(昨夜九時頃より古学校御門より南の方(御用長屋等)残らず焼失) 下から続く 35文目→30目立に申し付ける)
1861年	9月21日	文久元年	8月17日	晴	申の刻過より小雨降 即刻止 亥の刻過より雨時々降 (御備え立ちで御目見以下御留守居支配機岡某等に御賞(金50疋)、人事異動、味噌津出御役銭2斗入り1樽に付 上に続く
1861年	9月22日	文久元年	8月18日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 夜二入同段 (東海岸台場高覧)
1861年	9月23日	文久元年	8月19日	曇	昨夜より之雨辰の刻過止
1861年	9月24日	文久元年	8月20日	曇	亥の刻より雨降 子の刻頃止 (米価高値で難洪の小者共に補助米を差出した深浦町役共に御賞、去る6日砂ヶ森村に水船1艘・去月21日に鰻ヶ沢から蝦夷に向かったもの・5人死亡)
1861年	9月25日	文久元年	8月21日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 (北之丸御櫓皆出来、去月15日箱館詰の御持鍵仲間が出奔、青森御飯屋の修復相済む、三馬屋湊に病死の水主を乗せた船が入津・仮葬)
1861年	9月26日	文久元年	8月22日	曇	(田野沢村前浜の朱之丸船の破船対応で御中小姓格に昇格等の人事異動、去る7日夜金木組長富村で出火・建家建馬等焼失・御代官にて呵置く、田舎館組東光寺村に大規模な盗賊)
1861年	9月27日	文久元年	8月23日	快晴	(江戸で金子を盗み取り捕まり破牢した際の牢番の御給分召し上げ永の暇)
1861年	9月28日	文久元年	8月24日	快晴	(御本城近辺で頃日狐鳴く・御館神で軽御祈禱)
1861年	9月29日	文久元年	8月25日	曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同段 (人事異動)
1861年	9月30日	文久元年	8月26日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 夜二入同段 28日から続く 火事で火消が死亡・御手当銭100目下し置かれる、篠崎進が御鉄砲師を連れて江戸表えミニエール筒稽古に登る)
1861年	10月1日	文久元年	8月27日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過止 (江戸で人事異動、御前様御逝去に付座当共えの御配当を先例の通り申し入れる・415人に15文宛6貫225文・103匁7分5厘)
1861年	10月2日	文久元年	8月28日	曇	(人事異動、秋田久保田の子供を二人連れた浪人?が深浦に来る・紛らわしき者で大間越から送り返す、雇小人新規召抱え・2人扶持動料銭60目、去る15日の古学校の 26日に続く
1861年	10月3日	文久元年	8月29日	曇	(君沢形船(ロシアのブチャーチンが帰国の際に君沢郡戸田(へた)村で作ったへた号の同形船:後の青森丸)が1艘出来・江戸大阪松前等への廻船が認められる、人事異動、御賞)
1861年	10月4日	文久元年	9月1日	晴	
1861年	10月5日	文久元年	9月2日	快晴	(式之御九子の御櫓御手入皆出来、人事異動)
1861年	10月6日	文久元年	9月3日	曇	未之刻過より小雨降 申の刻過止 (田井隼人一家が江戸に転居)
1861年	10月7日	文久元年	9月4日	晴	(人事異動)
1861年	10月8日	文久元年	9月5日	快晴	(赤石組の廃田の再開発?の検地なのかな・数値があるが分からない、本の名前かなホールレーシク・ケヲロキーあり)
1861年	10月9日	文久元年	9月6日	曇	巳の刻過より雨時々降 夜二入同段
1861年	10月10日	文久元年	9月7日	曇	今朝岩木山二初雪見ゆる 昨夜より雨今日ニ及 未之刻頃止 (大手先御用所御長屋御門番……)
1861年	10月11日	文久元年	9月8日	曇	(油川別段等が吸入りの米1斗8升5合を見当てる・背負っていた男行方不明・米は入札払い、町同心が魚2樽(カレイ285枚入り)取押える・この売り払い代銭22文目8分)
1861年	10月12日	文久元年	9月9日	晴	
1861年	10月13日	文久元年	9月10日	曇	巳の刻過より雨降 夜二入同段
1861年	10月14日	文久元年	9月11日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻頃止 未の刻過小雨降 即刻止 (青森丸高覧:初めての遠海乗り廻しとあり君沢形洋式帆船)
1861年	10月15日	文久元年	9月12日	晴	(御台場検分から今日八時御帰城)
1861年	10月16日	文久元年	9月13日	快晴	
1861年	10月17日	文久元年	9月14日	快晴	(新酒仮値段1升到付2文目2分7厘・1合売りを2分2文に申し付ける)
1861年	10月18日	文久元年	9月15日	快晴	(八幡宮祭礼・三之丸物見で通御等を高覧)
1861年	10月19日	文久元年	9月16日	快晴	
1861年	10月20日	文久元年	9月17日	曇	
1861年	10月21日	文久元年	9月18日	晴	今暁丑之刻過地震 (青森丸には松前方役人2人も乗り組む・浦々等での御改め時の想定問答・禄高50石等あり)
1861年	10月22日	文久元年	9月19日	晴	
1861年	10月23日	文久元年	9月20日	快晴	(歩引き渡し継続宣言、人事異動) 下から続く 作事方より金を盗みの容疑者(御家中)を親類見繼とする)
1861年	10月24日	文久元年	9月21日	曇	午の刻頃雨降 即刻止 (昨18日夜赤田組板屋野木村で出火・類焼共建家35軒土蔵8ヶ所小木屋馬屋共20ヶ所貯米105俵等焼失・火元絞油家業他村預け、当4月16日夜 上に続く
1861年	10月25日	文久元年	9月22日	快晴	
1861年	10月26日	文久元年	9月23日	快晴	(当6月23日夜の喧嘩の切りつけた方を役下げ切られた方は憤み・見て止める等をしなかった足軽目付も役下げ)
1861年	10月27日	文久元年	9月24日	快晴	(五重塔御手入で御賞・御酒代(金500疋・400疋・鳥目1貫文・2貫文・500文)) 下から続く (28人?)に警告し過料・トメ等の軽い罰)
1861年	10月28日	文久元年	9月25日	曇	(当月10日より30日間の売出来相場で割合すると酒1升到付2文目2分7厘に相当する、1升到付2文目3分7厘・1合売りは2分2文に申し付ける、菜種を隠れて売買した者共 上に続く
1861年	10月29日	文久元年	9月26日	曇	今暁丑之刻頃より雨降 未之刻過止 下から続く 94文目1分、他に8文目(鉛の重さが8匁の球形の弾丸:直径17.2mm)小銃・6文目(直径16・0mm)騎銃・8文目騎銃あり)
1861年	10月30日	文久元年	9月27日	晴	(今日外馬場で御立駒見分、御家中御貸し渡しの西洋砲の値段×608文目1分:西洋砲6文目小銃1丁代330目・同台銃具(銃剣等?)184文目・同皆具(ベルトなど一式) 上に続く
1861年	10月31日	文久元年	9月28日	曇	(人事異動、松前に女を送り込んだ者共・女の親共に何故か軽罪、関連して病死の夫婦の人別に入って別人になった例あり、尾太山で人員削減・昨年39人減らし当時人数残161人)

1861年	11月1日	文久元年	9月29日	曇	(娘の拘引が2件あり・何故か軽罪)
1861年	11月2日	文久元年	9月30日	曇	
1861年	11月3日	文久元年	10月1日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 午の刻過止
1861年	11月4日	文久元年	10月2日	晴	(前田野目村領沢内よりチャン(漚青)が湧出・試しにこの度の能徳丸御手入れに塗立を申し付ける、江戸で人事異動・病死者3人)
1861年	11月5日	文久元年	10月3日	晴	
1861年	11月6日	文久元年	10月4日	快晴	(去年の御収納が早かった代官・手代に御賞・御酒代(金1歩仁朱・同1歩・鳥目700文・同500文)、焼失の常府の面々に御手当(15両~3両))
1861年	11月7日	文久元年	10月5日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 夜二入同段 8日から続く 荷物切り落とされ逃げ去る・刻印を入れ入札払い、各組・町別に百沢寺・大円寺の勘化(かんげ)銭……意味不明)
1861年	11月8日	文久元年	10月6日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 (一昨4日夜浪岡組杉沢村で出火・類焼とも3軒焼失・火元他村預け・焼失稲草は手代が検分上納御免)
1861年	11月9日	文久元年	10月7日	曇	昨夜より之雨今日巳の刻過止 (笹某を目付役に等の人事異動、新穀津出御印代(1俵):玄米30目・白米と餅米32文目・白餅米34文目に申し付ける)
1861年	11月10日	文久元年	10月8日	曇	今日卯の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (人事異動、水油1升13文目5分にと申出・1升到付10文目1合売り1文目に申し付ける。無刻印の検2尺位証5100枚見当てる・ 5日に続く)
1861年	11月11日	文久元年	10月9日	快晴	今暁丑の刻頃地震少し (当7月13日に乗打の男を見咎め鞭打・切り傷で死亡と判明・先年も斉藤某に怪我させ死亡させている・この子勘定人は御目見以下御留守居支配江役下げ)
1861年	11月12日	文久元年	10月10日	曇	今日申の刻頃より雨時々降 今暁丑の刻頃止(このように書いてある・時間経過はおかしい)
1861年	11月13日	文久元年	10月11日	曇	今日午の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (人事異動、剣術高寛、青森大火の酒造屋に3ヶ年御役銭御免)
1861年	11月14日	文久元年	10月12日	晴	(安い米と入れ替えて?駄下げした飯詰組高野村の馬頭に過料1貫500文、菜種の買い占め者に過料300文)
1861年	11月15日	文久元年	10月13日	快晴	15日から続く 入り1樽30目→25文目・白酒2斗入り1樽9文目→8文目・酢2斗入り1樽これまで通り2文目
1861年	11月16日	文久元年	10月14日	曇	今日午の刻頃小雨降 即刻止 (去る11日夜四時頃増館組福左内村で出火・建家等焼失・火元御代官にて呵置く・稲草は役筋検分)
1861年	11月17日	文久元年	10月15日	曇	(昨年まで1年間の御蔵奉行等に御賞(金200疋・銀3両・鳥目700文)、津出御印代・御役銭:酒・醬油2斗入り1樽これまで通り7文目・糶4斗入り1俵8文目→7文目・味噌2斗 13日に続く)
1861年	11月18日	文久元年	10月16日	曇	(酌取りに雇われ売女同様の山役人警固の娘2人を弘前より3里四方追放・同様の未亡人は里元返し他出差留め・里元の大組足軽は御城付足軽に役下げ、類似例さらにあり)
1861年	11月19日	文久元年	10月17日	曇	今日辰の刻頃地震少し 未ノ刻過小雨 即刻止 下から続く 御前通ヤケールヒス御筒・同様カラヘイン御筒並びにこの御筒台作成にも金200疋下し置かれる)
1861年	11月20日	文久元年	10月18日	曇	今日雪少し降 (人事異動、一昨年御前通御筒並びに昨年御筒共御出来仰せ付けられ候に付御酒御吸物並びに銀子1枚・金100疋・金200疋を下し置かれた者がある・ 上に続く)
1861年	11月21日	文久元年	10月19日	曇	
1861年	11月22日	文久元年	10月20日	曇	今日辰の刻過小雨降 則刻止 (去月18日板屋野木村火災の被災者20人に御手当米1俵宛下し置かれる)
1861年	11月23日	文久元年	10月21日	晴	(3月の青森大火で仮屋住まいの者共の御物成上納御免、去る19日夜浪岡村で出火・類焼とも13軒焼失・火元高無他村預け・稲草は役筋が見分)
1861年	11月24日	文久元年	10月22日	曇	
1861年	11月25日	文久元年	10月23日	曇	今日卯の刻頃より雨時々降 丑の刻頃止
1861年	11月26日	文久元年	10月24日	曇	
1861年	11月27日	文久元年	10月25日	快晴	(米一番相場平均81文目1分3厘3毛(3ヶ所平均82匁3分3厘3毛内1文目2分が御定役引き)、禪宗の揉め事が書いてあるが分からん)
1861年	11月28日	文久元年	10月26日	曇	今暁卯の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止
1861年	11月29日	文久元年	10月27日	曇	(いくつかの御蔵立ち会い・奉行に御賞金100疋・別段締り役に銀3両・俵俵え頭に御賞鳥目300文)
1861年	11月30日	文久元年	10月28日	快晴	11月2日から続く 鳥目3貫文下々位の熊皮1枚下し置かれる、盗みの幼年の娘の親に買い銭3貫600文)
1861年	12月1日	文久元年	10月29日	曇	亥の刻頃より雨時々降 下から続く 縊死者あり・庄屋等にも罰)
1861年	12月2日	文久元年	11月1日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同段 (明光院様御位牌御下がり、人事異動、昨年?8月2日五林平・夕顔関・常海橋・高野4か村で喧嘩・19人に過料・出奔者 上に続く)
1861年	12月3日	文久元年	11月2日	曇	昨夜よりの雨今日二及 夜二入同段 (御賞、人事異動、駒越組川原平村・尾崎組広船村・駒越組村市村・赤石組松原村の獵師が熊皮5・4・3枚上納・1人に 10月28日に続く)
1861年	12月4日	文久元年	11月3日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同段 (最近日記の文字の大きさが1行おきに大小ある)
1861年	12月5日	文久元年	11月4日	曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻頃止 (御献上の鯛を御名代が見分、西洋馬具一通り5両2歩で買い入れる) 下から続く 役筋見分、唐牛某の弟を召し捕るよう仰せ付ける)
1861年	12月6日	文久元年	11月5日	曇	酉の刻過より雨時々降 夜二入同段 (人事異動、去る朔日茂森町で富田村の男が切られ負傷、去月25日夜油川組石神村で出火・類焼共4軒焼失・焼失稲草取調べの上 上に続く)
1861年	12月7日	文久元年	11月6日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 未の刻頃止 下から続く 当年大豆格別不作・当分津出と納豆仕込方御差留、水油は御定法で1升12文目4分5厘1合売り1文目2分5厘に申付ける)
1861年	12月8日	文久元年	11月7日	曇	今日雪降 二寸程積 (去る3日夜金木村で出火・類焼共60軒他焼失・火元他村預け・稲草は役筋見分、……西之郭御樽・二之丸丑寅御樽並びに北之丸子之御樽……、 上に続く)
1861年	12月9日	文久元年	11月8日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少し降 (昨夜初雪に付御家老等御機嫌伺い、去月20日夜青森別段役が2人を見かけ逃亡される・白米2斗入り1俵・モツリ(雪草鞋?) 欄外(*)に続く)
1861年	12月10日	文久元年	11月9日	晴	
1861年	12月11日	文久元年	11月10日	曇	今暁午の刻頃よりみそ連(曇)降 夜二入同断
1861年	12月12日	文久元年	11月11日	曇	昨夜よりのみそ連(曇)今暁丑の刻頃止 (黒石町仲買が弘前相場より2~3文目値段を上げて米を買い集めている)
1861年	12月13日	文久元年	11月12日	晴	(何かの事件の調査が始まっているのか他出差し留め見継の親類名が出ている)
1861年	12月14日	文久元年	11月13日	曇	
1861年	12月15日	文久元年	11月14日	晴	下から続く 御手廻某が富田村の男に切付け(5日に記述)の節切付けられた方の同行者3人が手ひどく抵抗打撃し不屈きとして揚屋入り)
1861年	12月16日	文久元年	11月15日	曇	今日巳の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (金木組尾別村の庵主と止宿のの庄内者を胡乱の者として揚屋入り、隠しあげの男を取押え売払い代銭御取り上げ、去る朔日 上に続く)
1861年	12月17日	文久元年	11月16日	曇	
1861年	12月18日	文久元年	11月17日	曇	下から続く 抱え山に切り株があった男に過料銭600文宛)
1861年	12月19日	文久元年	11月18日	晴	昨夜雪少し降 (去月19日夜の浪岡村の出火で御収納米30石8升3合と高懸銀銭32文目9分6厘の上納御免・去月朔日の金木新田芦野村等についても同様、人事異動、 上に続く)
1861年	12月20日	文久元年	11月19日	曇	
1861年	12月21日	文久元年	11月20日	曇	
1861年	12月22日	文久元年	11月21日	曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻頃止 (萱町でいずれの者が落馬・養生を加えたが死亡・足軽目付見分の上仮葬)
1861年	12月23日	文久元年	11月22日	曇	今日卯の頃刻(こう書いてある)より雨降 午の刻頃止 (茶畑町北裏(14軒)並びに古堀町西裏(49軒)を御家中町に仰せ付けられる(ここでの町の記述は庁))
1861年	12月24日	文久元年	11月23日	曇	
1861年	12月25日	文久元年	11月24日	曇	今日雪降 三寸程積 下から続く 青銅7文目宛・長老2人に青銅5文目宛))
1861年	12月26日	文久元年	11月25日	曇	昨夜雪降 七寸程積 (15日の揚屋入りの内1人が他出差留め親類見継として揚屋出、5日に親預けの唐牛某が出奔、革秀寺に御布施(導師革秀寺に銀1枚・和尚10人に 上に続く)
1861年	12月27日	文久元年	11月26日	晴	
1861年	12月28日	文久元年	11月27日	晴	(去る20日夜金木組中里村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓呵置く稲草の儀は見分方申し付ける)
1861年	12月29日	文久元年	11月28日	曇	(酒1升を2文目6分との申し出・2文目5厘に申し付ける)
1861年	12月30日	文久元年	11月29日	曇	今日雪少し降
1861年	12月31日	文久元年	12月1日	曇	(歩引きを続け高100石に100目の御手当との宣言あり、人事異動、尾別村の庵にいた胡乱の男は秋田で盗みも・揚屋出入牢)

(*)桐油1枚等を取り上げ入札払い)

1862年	1月1日	文久元年	12月2日	曇	今日雪降 四寸程積 (当年作躰豊熟……)
1862年	1月2日	文久元年	12月3日	晴	昨夜雪降 九寸程積 (10月25日原子村で盗みの男に3鞭居村徘徊これまで通り)
1862年	1月3日	文久元年	12月4日	曇	今日雪少し降
1862年	1月4日	文久元年	12月5日	曇	昨夜雪降 三尺程積 今日雪少々降
1862年	1月5日	文久元年	12月6日	曇	9日から続く 角場で高島流砲術を御名代が見聞、去月21・27・28日に江戸で御家中が病死、9月24日江戸の津梁院の井戸で袋宮寺の弟子が死亡)
1862年	1月6日	文久元年	12月7日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 五寸程積 (去る18日青森別段役が白餅米1斗3升5合を押さえる・背負い男逃亡・御取り上げの上入札払い)
1862年	1月7日	文久元年	12月8日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 二寸程積 (品物の買い占めなどの庵主を寺に永預け、去る6日暮大鱈組乳井村で出火・建家等焼失・火元百姓呵置く)
1862年	1月8日	文久元年	12月9日	曇	今日雪少々降 (横川御殿御普請に付御時服・銀子・御賞などを下し置かれる。禁裏も近衛様も平出、青森丸が去る22日江戸に着岸、江戸で人事異動、柳島御屋敷 6日に続く
1862年	1月9日	文久元年	12月10日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 四寸程積 (横川御殿御普請に付御時服・銀子・御賞などを下し置かれる)
1862年	1月10日	文久元年	12月11日	曇	昨夜雪降 一尺二寸程積 今日雪降 九寸程積
1862年	1月11日	文久元年	12月12日	曇	今日雪少々降 (田沢村と夏井田村の端で米2俵見当てる・取押えの者に下し置かれる、鱒ヶ沢で漁師頭と漁師が漁法・漁場の件でもめている)
1862年	1月12日	文久元年	12月13日	晴	
1862年	1月13日	文久元年	12月14日	曇	昨夜雪少し降
1862年	1月14日	文久元年	12月15日	曇	今日雪少し降 (御徒目付横岡勝次郎の弟仁右衛門に2人扶持等多数の人事異動、武芸出精として御賞(銀子1枚・金150疋)、金木村の焼失60軒中52軒に御手当52俵を下し置かれる)
1862年	1月15日	文久元年	12月16日	曇	今日雪少し降 (証文に文字を加えた男に3鞭居村徘徊これまで通り) 下から続く 下し置かれる、去月朔日2日大川水で芦萱流散)
1862年	1月16日	文久元年	12月17日	曇	辰之刻過小雨降 即刻止 (去る13日夕大鱈組島田村で出火・建家馬3疋等焼失・火元百姓を代官にて呵置く、津軽屋三右衛門の御用相済む・6日出立の手代に金15両 上に続く
1862年	1月17日	文久元年	12月18日	晴	(去月25日夜油川組山上村で出火・類焼とも4人の者ども居宅等焼失・御手当米4俵を申し付ける。金子を掠め取った男2人を揚屋入り)
1862年	1月18日	文久元年	12月19日	曇	(大赦あり・山田登や加藤清兵衛の塾居御免等あり) 下から続く 森岡民部・福島頼母の塾居等が許されたのかどうか読み切れない・罪名が判決より丁寧な書いてある)
1862年	1月19日	文久元年	12月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (百沢御本社普請に御手当て) 下から続く 下し置かれる、青森大火の焼失者に杖・木舞御払い仰せ付ける、棟方晴吉・ 上に続く
1862年	1月20日	文久元年	12月21日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日小雨少し降 (今泉鉄山吹方骨折りの御目見今村某に3人扶持、江戸勤学登りの御家中の倅が出奔) 下から続く 常府永御詰御手当て 上に続く
1862年	1月21日	文久元年	12月22日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (乞食が御關所を通る際布袋を背負い間道を通る決まり・秋田久保田の乞食が町人姿で碇ヶ関を通っている・胡乱の乞食を入れるなど指示、 上に続く
1862年	1月22日	文久元年	12月23日	曇	
1862年	1月23日	文久元年	12月24日	曇	昨夜雪降 一尺二寸程積 今日雪降 五寸程積 (人事異動)
1862年	1月24日	文久元年	12月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1862年	1月25日	文久元年	12月26日	曇	今日雪降 二寸程積 下から続く 銀179文目8分5厘の上納御免、町目付手先目明の者共江御手当……、御下浜逗留(殿様が見分に行った)の関係者に御酒代等下し置かれる)
1862年	1月26日	文久元年	12月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (一町田左門を大寄合格に等の人事異動、当水練・ハツテラ教授等多数に御賞、去月3日金木村の被災者の御収納米164石7斗7升8合と 上に続く
1862年	1月27日	文久元年	12月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、所々の御蔵立会・御蔵奉行・拵え頭等に御賞(金150疋・金100疋・鳥目500文等)、桑小仕立9人に帯刀御免苗字も許す、 欄外(*)に続く
1862年	1月28日	文久元年	12月29日	曇	今日雪少し降
1862年	1月29日	文久元年	12月30日	曇	
1862年	1月30日	文久2年	正月1日	快晴	
1862年	1月31日	文久2年	正月2日	晴	今日雪少し降 (歩引き継続高100石に金1両2歩の御手当てを下し置かれるとの口達、江戸で人事異動)
1862年	2月1日	文久2年	正月3日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (今晚御詔初め・能役者に銀子1枚と認め(したため・書いて位の意)金200疋渡す)
1862年	2月2日	文久2年	正月4日	曇	今日雪少し降 (大鱈より七種差し上げる)
1862年	2月3日	文久2年	正月5日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積
1862年	2月4日	文久2年	正月6日	快晴	昨夜雪降 二寸程積
1862年	2月5日	文久2年	正月7日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1862年	2月6日	文久2年	正月8日	快晴	昨夜雪降 二寸程積
1862年	2月7日	文久2年	正月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積
1862年	2月8日	文久2年	正月10日	晴	昨夜雪少し降
1862年	2月9日	文久2年	正月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 五寸程積
1862年	2月10日	文久2年	正月12日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降
1862年	2月11日	文久2年	正月13日	晴	
1862年	2月12日	文久2年	正月14日	晴	今日雪少し降
1862年	2月13日	文久2年	正月15日	曇	昨夜雪吹強し 雪四寸程積 今日雪吹強し 雪三寸程積 (後藤門之丞を物頭格に等の人事異動、御矢・御弦を差し上げた御弓師・御矢師5人に御祝儀1貫文充て下し置かれる)
1862年	2月14日	文久2年	正月16日	晴	
1862年	2月15日	文久2年	正月17日	曇	今日雪降 二寸程積
1862年	2月16日	文久2年	正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1862年	2月17日	文久2年	正月19日	晴	今日雪少し降
1862年	2月18日	文久2年	正月20日	晴	(人事異動)
1862年	2月19日	文久2年	正月21日	晴	(江戸の大工に勤料増の人事異動) 下から続く 帰ってきたが10日間押し込め、11月3日金木大火の対応について庄屋・手代等多数に罰)
1862年	2月20日	文久2年	正月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (佐竹領虹川野合いで御羽織の者が百姓躰の者に傷害?・町目付1人差し遣わず、青森町新組足軽が昨年5月家出・ 上に続く
1862年	2月21日	文久2年	正月23日	曇	昨夜雪降 一尺二寸程積 今日雪降 四寸程積
1862年	2月22日	文久2年	正月24日	晴	申の刻過地震少し
1862年	2月23日	文久2年	正月25日	曇	(海岸村々の者共も難破船の節仕癖倉からず……引援?帯刀役を決め乱暴しないようにする)
1862年	2月24日	文久2年	正月26日	曇	今日雪少し降 下から続く 箱館ハルク形御船江戸江乗廻に付船足米1000石……)
1862年	2月25日	文久2年	正月27日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積 (工藤某を青森町奉行に等の人事異動、旧冬23日十三大雪吹・吹き倒れ男1人・救助された者もある、江戸で人事異動、 上に続く
1862年	2月26日	文久2年	正月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動、青森丸の製造に骨折りの大和田権作?を勤料2人扶持増御馬廻格に・担当の寺田慶次郎・小山才八に銀子2枚宛・ 欄外(**)に続く
1862年	2月27日	文久2年	正月29日	快晴	
1862年	2月28日	文久2年	正月30日	曇	卯の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (町中の土地(の住民税?)を寅年(今年は戌年)まで位下げ、江戸で人事異動)

(*)10月10日夜など青森別段役が大活躍・取り上げたものを渡すとしていたが勤務でありいやだという・頂けるのであれば御賞をというので銀3両等の御手当てを下し置かれる)
 (**)勘定人・山役人等にも関連して御賞・御酒代下し置かれる、旧臘隠津出で捕まった男が腰縄付きで親類共に預け・偽役人が来て縄を切解き自分で封印し金5両差し出せば 下に続く
 網目差し許すという・偽役人を町同心手で捕え入牢とする)

1862年	3月1日	文久2年	2月1日	晴	今日雪少し降 (人事異動、御賞、昨年シマコマキ(嶋小牧?)・シツ・(スツ?)詰め合いの足軽等の一部に御酒代、金木御蔵の拵え頭と巻の者に御酒代)
1862年	3月2日	文久2年	2月2日	快晴	昨夜雪少し降 (去月29日夕赤石組舞戸村で出火・類焼とも11軒の他2軒潰家・火元鍛冶職他村預け、人事異動)
1862年	3月3日	文久2年	2月3日	曇	今日雪降 八寸程積 (常々不動の御持筒足軽を長柄の者に役下げ)
1862年	3月4日	文久2年	2月4日	晴	(人事異動)
1862年	3月5日	文久2年	2月5日	曇	今日雪少し降 (申の10月より去る9月中(今年は戌年)伐り荒しを見出した山役人達に鳥目5貫500文などを下し置かれる、人事異動)
1862年	3月6日	文久2年	2月6日	快晴	
1862年	3月7日	文久2年	2月7日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、米1俵に付5分位充て高値で買入れしていた和徳町の男を戸ノ30日)
1862年	3月8日	文久2年	2月8日	快晴	昨夜雪降 三寸程積 (去る11月金木村の大火対応に關して御酒代を下し置かれる、稽古用トントロ等が出来・火移り宣からず多分不発勝ち・4400発分の葉付直し・担当者詮議)
1862年	3月9日	文久2年	2月9日	快晴	下から続く 船大工多数に御酒代鳥目2貫500文宛等下し置かれる・関係する釘金物つくり等にも御酒代を下し置かれる)
1862年	3月10日	文久2年	2月10日	曇	(人事異動) 下から続く 乗廻し方共指南方申し付け青森町同心次席に申付ける、箱館表で箱館丸製造の青森町船大工棟梁等に御酒代金2両・青森丸製造を含め? 上に続く
1862年	3月11日	文久2年	2月11日	晴	昨夜雪降 四寸程積 (大円寺門前の座当佐和一が座当頭召し放たれて残念として兵庫ノーという座当と……) 下から続く 下し置かれ君沢形御製造並びに 上に続く
1862年	3月12日	文久2年	2月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (青森丸製造に御酒代、青森丸船頭加藤栄次郎が箱館で箱館丸製造の節稽古仰せ付けられ教授しながら江戸に登る・2人扶持 上に続く
1862年	3月13日	文久2年	2月13日	晴	
1862年	3月14日	文久2年	2月14日	曇	今日雪少し降
1862年	3月15日	文久2年	2月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1862年	3月16日	文久2年	2月16日	晴	
1862年	3月17日	文久2年	2月17日	快晴	(昨年大間越勤番時に庄内船破船対応が良かった足軽目付等多数に御酒代鳥目3貫文等を下し置かれる)
1862年	3月18日	文久2年	2月18日	快晴	(秋田駅々から他払い馬願い・延々と払えない事情があり格段の沙汰で大館より久保田までの宿々に駒50疋御払い申し付ける)
1862年	3月19日	文久2年	2月19日	曇	(去る4月16日の作事方に盗賊が忍びこみ金子盗み取られた際の泊り番を役下げ・他の関係者にも罰)
1862年	3月20日	文久2年	2月20日	晴	(久渡寺境内山に薪取り大勢が雪船で不法に入り込み見咎めれば却って悪口・取押えて可との触、別役並びに町同心共が取り押さえた品物と担当者のリストあり)
1862年	3月21日	文久2年	2月21日	快晴	
1862年	3月22日	文久2年	2月22日	曇	辰之刻頃小雨降 即刻止 (明後24日御家中総登城の触、人事異動)
1862年	3月23日	文久2年	2月23日	快晴	
1862年	3月24日	文久2年	2月24日	曇	((総登城で)流儀に拘らず面仕合稽古(辞書にはないが練習用武器を相手に当てる稽古?)をするようにとの(殿様の)自筆書を拝見)
1862年	3月25日	文久2年	2月25日	曇	未の刻頃より雨降 夜に入同断 (人事異動)
1862年	3月26日	文久2年	2月26日	曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止 申の刻頃より雨降 夜二入同断
1862年	3月27日	文久2年	2月27日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻頃止 (今日剣術高覧・大寄合以上見物) 下から続く 御手当てを下し置かれる、壹を語り取った男に贖銭15貫文)
1862年	3月28日	文久2年	2月28日	曇	今日卯の刻過より雨時々降 巳の刻頃雪少し降 午の刻過止 (人事異動、去月29日赤石組舞戸村の火災の類焼11軒に御米1俵充て・潰家2軒に2斗充て都合12俵の 上に続く
1862年	3月29日	文久2年	2月29日	曇	今日雪少し降 下から続く 乞食様の年齢30歳位の者倒死・犬に食われ……)
1862年	3月30日	文久2年	3月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (山田永之助等を御小姓組(銀3枚5人扶持)に等の人事異動、武芸・武器関連で勤料1人扶持・銀子2枚等を下し置かれる、住吉宮境内稲荷宮拝殿床下に
1862年	3月31日	文久2年	3月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1862年	4月1日	文久2年	3月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動、今3日夜五時過ぎ蠟燭御蔵御役所より出火・御役所焼失)
1862年	4月2日	文久2年	3月4日	快晴	(佐々木元俊が提案し北岡太淳が認めた種痘館を造るために御金150両の拝借を仰せ付ける・種痘の手続きも決める)
1862年	4月3日	文久2年	3月5日	晴	(本多某を御使番に等の人事異動、種痘を行うので希の族は医学館にとの触れ)
1862年	4月4日	文久2年	3月6日	曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同断
1862年	4月5日	文久2年	3月7日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻過止 (納豆隠し作り売りの男に過料銭30日・名主五軒組合にも戸ノ・過料、人事異動)
1862年	4月6日	文久2年	3月8日	晴	(今日剣術和術高覧、米高値で東照宮・新明宮下社家4軒に御手当て鳥目1貫文宛下し置かれる)
1862年	4月7日	文久2年	3月9日	快晴	(昨年9月留守後に女房が大阪の船頭と不義いたし候を見あて米10俵で内済にした上米を隠し揚げた男に6鞭米御取り上げ・関係者にも罰)
1862年	4月8日	文久2年	3月10日	晴	
1862年	4月9日	文久2年	3月11日	晴	
1862年	4月10日	文久2年	3月12日	晴	(人事異動)
1862年	4月11日	文久2年	3月13日	快晴	
1862年	4月12日	文久2年	3月14日	快晴	
1862年	4月13日	文久2年	3月15日	晴	(今日槍術高覧、人事異動)
1862年	4月14日	文久2年	3月16日	曇	(去る3日蠟燭御蔵役所焼失時の担当者2人に慎・押込)
1862年	4月15日	文久2年	3月17日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過止 西南の風強し (殿様の添書き・御印鑑金子等を盗み取られたと騒いでいる・胡散臭い、人事異動)
1862年	4月16日	文久2年	3月18日	快晴	(スツ・詰者頭が明後20日出立・御自筆拝見、御雇小人80人を新規採用)
1862年	4月17日	文久2年	3月19日	曇	(偽役人で当正月22日吟味中の者の腰縄を切り解くなどの男(正月28日記述)に30鞭・10里四方追放大場御構と取上御仕置場で申し渡す)
1862年	4月18日	文久2年	3月20日	晴	(人事異動)
1862年	4月19日	文久2年	3月21日	快晴	(面仕合稽古をしるとの命があったが稽古具が必要らしい・御流儀稽古具の内15通並びに緞竹(竹刀?)300本皮鐙お預け……:意味が分らず読んでいます)
1862年	4月20日	文久2年	3月22日	曇	
1862年	4月21日	文久2年	3月23日	快晴	下から続く 永詰め御手当て、イギリス形ミニール筒但劍付三ツ股玉取添え1挺に付代8両1歩と110文同鑄型1膳に付代銀25文目・フランス形ミニール筒簡1両安い値段あり)
1862年	4月22日	文久2年	3月24日	快晴	(祈禱をした御寺に御賞(銀子2枚・銀子1枚・金100疋・銀5両)、人事異動) 下から続く 禁裏を台頭としているのかな・違うな、江戸で人事異動、江戸の家中に 上に続く
1862年	4月23日	文久2年	3月25日	晴	(無刻印の木品を持っていた大工に贖銭4貫200文・木品御取り上げ・関係名主等にも罰、篠崎下に下管根甲斐守砲術稽古の世話をするようにとの御呼び出しあり、初めて 上に続く
1862年	4月24日	文久2年	3月26日	晴	
1862年	4月25日	文久2年	3月27日	晴	(今日槍術高覧、不筋の御持槍警固2人を御持槍仲間役に役下げ)
1862年	4月26日	文久2年	3月28日	曇	昨夜戌の刻過より雨降 寅の刻頃止 (今日長刀高覧、人事異動)
1862年	4月27日	文久2年	3月29日	晴	(人事異動)
1862年	4月28日	文久2年	3月30日	晴	
1862年	4月29日	文久2年	4月1日	快晴	
1862年	4月30日	文久2年	4月2日	快晴	(去る9月に森山村前浜で庄内藩が雇った船が破船した際の対応に感謝の手紙と御礼金が届いている)

1862年	5月1日	文久2年	4月3日	晴
1862年	5月2日	文久2年	4月4日	曇 今暁寅の刻頃より小雨時々降 今日に及 午の刻過止 (人事異動)
1862年	5月3日	文久2年	4月5日	晴
1862年	5月4日	文久2年	4月6日	快晴 (古金を盗んだのが買ったのか関係ないのか分からないが不屈の男に3鞭居村徘徊これまで通り)
1862年	5月5日	文久2年	4月7日	快晴 (昨年御金を拝借して合船した十三町の船頭が5か年の拝借金を返した・御賞を鳥目1貫500文下し置かれる、面仕合稽古道具:面小手・同15歳以下用・皮罽・級竹を師範家に貸し渡す)
1862年	5月6日	文久2年	4月8日	晴 (武芸方役の文通式お聞き届け・御触(表に示されている):意味は分からない)
1862年	5月7日	文久2年	4月9日	晴 下から続く 外ヶ浜通り海岸御締方の儀は5か年已来(以来)在方に引擔御締(国民皆兵?)仰せ付けられたが……励合として沢山に申請されたが130人に御賞)
1862年	5月8日	文久2年	4月10日	曇 昨夜戌の刻過より雨時々降 今日に及 申の刻頃止 (農地を買い畑に開発したいと申し出たら不法に楮畑にされている・抗議に弘前に大勢で罷り上ったのも含め過料、 上に続く)
1862年	5月9日	文久2年	4月11日	曇 卯の刻過より小雨時々降 巳の刻過止
1862年	5月10日	文久2年	4月12日	晴
1862年	5月11日	文久2年	曇 卯の刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 捕える・格段の沙汰を持って兄預け他出留め)	
1862年	5月12日	文久2年	4月14日	曇 昨夜よりの雨今日に及 時々降 戌の刻頃より西南の風強し 寅の刻過止 雨申の刻過止 (去年8月17日唐内坂後通りで往来の女共をとらへ強淫の犯人らしい者を 上に続く)
1862年	5月13日	文久2年	4月15日	晴 (本庄から小泊村の牛牝牝入交200疋買い入れ申込み・100疋他払い申し付ける、去る5日揚屋入りの男が雪隠の板取放し逃げ去る・去る11日久栗坂村で召捕る・担当町同心に慎)
1862年	5月14日	文久2年	4月16日	晴
1862年	5月15日	文久2年	4月17日	快晴 (隠商売の男に過料30日・関係する名主と五軒組合にも戸ノと過料30日)
1862年	5月16日	文久2年	4月18日	快晴
1862年	5月17日	文久2年	4月19日	曇
1862年	5月18日	文久2年	4月20日	曇 寅の刻過より雨時々降 夜二入同断
1862年	5月19日	文久2年	4月21日	曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止
1862年	5月20日	文久2年	4月22日	快晴 下から続く 御製造等で人事異動、石郷岡島がこの度の師匠勝麟太郎殿航海御用に付外国渡海に同行したいと申し出仰せ付けられる)
1862年	5月21日	文久2年	4月23日	曇 寅の刻頃より小雨時々降 未の刻過止 (勝麟太郎が箱館御用で香港並びにハタヒヤ(バタバヤでしょうな)に行く・健順丸の乗員2・3人を募集してきた、異船形船青森丸 上に続く)
1862年	5月22日	文久2年	4月24日	曇 辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 (殿様大鯉の湯治より帰城、人事異動)
1862年	5月23日	文久2年	4月25日	晴 (人事異動)
1862年	5月24日	文久2年	4月26日	晴
1862年	5月25日	文久2年	4月27日	曇 (人事異動)
1862年	5月26日	文久2年	4月28日	快晴 (医者になるステップが書いてある・、隠石切り2人の石切道具と石を御取り上げ・戸ノ)
1862年	5月27日	文久2年	4月29日	曇 今日卯の刻過より小雨降 則刻止
1862年	5月28日	文久2年	4月30日	快晴
1862年	5月29日	文久2年	5月1日	晴 (人事異動)
1862年	5月30日	文久2年	5月2日	曇 巳の刻頃より雨降 午の刻過止
1862年	5月31日	文久2年	5月3日	晴
1862年	6月1日	文久2年	5月4日	曇 卯の刻過より小雨降 午の刻頃止
1862年	6月2日	文久2年	5月5日	快晴 (乞食共近年に至り平人同様之振合で蕎麦屋並びに酒屋共江腰打懸食事いたし候儀尚又……)
1862年	6月3日	文久2年	5月6日	晴
1862年	6月4日	文久2年	5月7日	快晴
1862年	6月5日	文久2年	5月8日	快晴 (箱館表で質商売をして不埒な青森安方町の後家に5日押込?)
1862年	6月6日	文久2年	5月9日	快晴
1862年	6月7日	文久2年	5月10日	快晴 (揚屋の雪隠の板取放し逃げ去った秋田男を入牢)
1862年	6月8日	文久2年	5月11日	快晴
1862年	6月9日	文久2年	5月12日	快晴
1862年	6月10日	文久2年	5月13日	快晴
1862年	6月11日	文久2年	5月14日	快晴 (十三御蔵の米拵え実寅の男たちに御賞、昨13日屋八つ頃沖館村の郷蔵が雷火で屋根廻り焼失・蔵之内も燃え上がる:当然錠が懸っており中に手を入れられないのだ)
1862年	6月12日	文久2年	5月15日	快晴 (去月27日江戸発の本多東作が昨日到着、目屋野出流木掛け合いに精勤の御目見以下御留守居支配と勘定人に御賞金300疋・担当の掃除小人等に御酒代)
1862年	6月13日	文久2年	5月16日	快晴
1862年	6月14日	文久2年	5月17日	曇 巳の刻過より雨時々降 夜二入同断 (青森丸製造に格別出精として深浦町の船大工に御酒代鳥目1貫文下し置かれる)
1862年	6月15日	文久2年	5月18日	曇 昨夜よりの雨今日に及 時々降 亥の刻頃止
1862年	6月16日	文久2年	5月19日	曇
1862年	6月17日	文久2年	5月20日	快晴
1862年	6月18日	文久2年	5月21日	曇 午の刻頃より雨降 申の刻過止 (昨年4月12日秋田大久保蛇川駅辺りの野合いで殿様の人数の内に乗打ちし傷を付けられたものがあるらしいが・担当者不明)
1862年	6月19日	文久2年	5月22日	晴
1862年	6月20日	文久2年	5月23日	快晴
1862年	6月21日	文久2年	5月24日	快晴
1862年	6月22日	文久2年	5月25日	晴 (9軒(山田・山田・武田・浅利・唐牛・成田・小山・今・白鳥)の(剣術)道場に24通の(面小手等代?)4貫230文2分2厘を下し置かれる?・武田恒弥は(すでに行っているの?)除く)
1862年	6月23日	文久2年	5月26日	曇 申の刻頃より雨降 夜二入同断
1862年	6月24日	文久2年	5月27日	曇 昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止 (人事異動、隠し揚げの鯉215匹の男の鯉取り上げ過料錢1貫200文)
1862年	6月25日	文久2年	5月28日	快晴
1862年	6月26日	文久2年	5月29日	晴
1862年	6月27日	文久2年	6月1日	快晴 (人事異動)
1862年	6月28日	文久2年	6月2日	快晴
1862年	6月29日	文久2年	6月3日	晴
1862年	6月30日	文久2年	6月4日	曇 (人事異動)

1862年	7月1日	文久2年	6月5日	快晴
1862年	7月2日	文久2年	6月6日	曇
1862年	7月3日	文久2年	6月7日	曇 午の刻過より雨降 酉の刻過止 (青田の内笛吹くなどの触れ、人事異動)
1862年	7月4日	文久2年	6月8日	晴 下から続く 諸手警固の子が村人の名代として出る・出た男は他出差留め親預け出した男は過料1貫800文)
1862年	7月5日	文久2年	6月9日	快晴 (昨年11月朔日覚仙町で町民?に切り懸け打漏らし多数の町民に取り押さえられた御家中(御手廻)を隠居・取押えた町民も18鞭弘前払い等の罰、スツ・詰郷夫に 上に続く
1862年	7月6日	文久2年	6月10日	快晴 下から続く とでも読むのでしょうか・煩はこうと読み大筒の意)1挺と十一扨唐銅ハント臼礮(最後の臼砲以外不明)1挺を附属品とも浦賀御関所を通す手続き完了)
1862年	7月7日	文久2年	6月11日	曇 卯の刻頃より小雨時々降 未の刻過止 (野稽古の節敵族・腰差族(腰族)との用語あり・分からない) 下から続く 払米2000)、三斤唐銅山迦農煩(山キヤノンこう 上に続く
1862年	7月8日	文久2年	6月12日	曇 (宇和野で大組者頭の野稽古高覧、当戌年江戸廻米30000石但し定例米53342石(家中扶持米18000・払米12000)・大坂廻米10000石但し定例37250石(家中扶持米8000・ 上に続く
1862年	7月9日	文久2年	6月13日	曇
1862年	7月10日	文久2年	6月14日	曇 巳の刻過より雨降 申の刻過止
1862年	7月11日	文久2年	6月15日	快晴
1862年	7月12日	文久2年	6月16日	晴 午の刻過より西南の風吹強 申の刻過止 (昼四半時過下土手町で出火・九時過鎮火)
1862年	7月13日	文久2年	6月17日	快晴
1862年	7月14日	文久2年	6月18日	曇 辰の刻頃雨降 即刻止 (高倉某が孫の高800石をもらい孫は嫡子並に、昨16日下土手町の類焼半焼半潰共67軒焼失・火元種物花火家業を入寺の上憤)
1862年	7月15日	文久2年	6月19日	晴
1862年	7月16日	文久2年	6月20日	曇 辰の刻過より雨降 巳の刻過止 (秋田久保田より大豆買越し望みを取り下げ?の飛脚) 下から続く 小刀で喉を突く殺人事件)
1862年	7月17日	文久2年	6月21日	曇 子の刻頃より雨降 未の刻頃止 (御目見以上登城・上衫弾正大弼様よりの書状を拝見・内容は寛永以来の將軍上洛?、天朝(初見かな?)に平出、去月朔日青森浦で 上に続く
1862年	7月18日	文久2年	6月22日	晴
1862年	7月19日	文久2年	6月23日	晴
1862年	7月20日	文久2年	6月24日	快晴 (殿様が大鰐に湯治に行ったらしい・その警備の碇ヶ関町同心警固等100人位に御賞・御酒代(金200疋・金150疋・銀5両・鳥目500文・400文・300文・250文等)を下し置かれる)
1862年	7月21日	文久2年	6月25日	快晴
1862年	7月22日	文久2年	6月26日	快晴 (勤め方宜しからず同役不和合の御箱持を御持槍仲間役に役下げ)
1862年	7月23日	文久2年	6月27日	快晴
1862年	7月24日	文久2年	6月28日	快晴 (相馬某を深浦町奉行にとの人事異動、出精の鉄砲隊大筒隊の数十人に御賞銀3両・御酒代鳥目700文)
1862年	7月25日	文久2年	6月29日	快晴
1862年	7月26日	文久2年	6月30日	快晴
1862年	7月27日	文久2年	7月1日	晴
1862年	7月28日	文久2年	7月2日	曇 今暁子の刻頃雨時々降 夜二入同断
1862年	7月29日	文久2年	7月3日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く こんなことで盗み徒になっている・常々の悪者と違い……(土地持ち百姓の小作人化が進んでいる?)
1862年	7月30日	文久2年	7月4日	曇 昨夜よりの雨今日二及 巳の刻過止 下から続く 売払い此の節は当作勝之者計(ばかり)に付秋に至り候而は御収納差除く他七八割は重立共に相納候躰…… 上に続く
1862年	7月31日	文久2年	7月5日	曇 (去る11月金木組尾別村の庵寺に胡乱の者止宿・佐竹領で大金(今は20両余所持)を盗んだ者で生国庄内に渡す、……在方小者共先祖より持伝?之田畑を追々重立共に 上に続く
1862年	8月1日	文久2年	7月6日	快晴
1862年	8月2日	文久2年	7月7日	快晴
1862年	8月3日	文久2年	7月8日	曇 今暁丑の刻頃より小雨時々降 酉の刻過止 (人事異動、不実の商人8人に過料・戸々30日等の罰)
1862年	8月4日	文久2年	7月9日	晴 (この度武州川口宿鑄物師次郎に鑄立申し付ける:唐銅ホート微愼煩?・唐銅六斤輕迦農煩?・唐銅三斤山迦農煩?、去る朔日近衛入道様が還俗・関白宣下:宣下も平出又は欠字)
1862年	8月5日	文久2年	7月10日	快晴 (人事異動)
1862年	8月6日	文久2年	7月11日	快晴 (人事異動)
1862年	8月7日	文久2年	7月12日	快晴 (去月24日居宅類焼の鱒ヶ沢町の男が手伝い人に鑼で傷をつけ死亡させて揚屋入り、北岡・湯浅某等の医師に御薬代)
1862年	8月8日	文久2年	7月13日	晴
1862年	8月9日	文久2年	7月14日	晴
1862年	8月10日	文久2年	7月15日	曇 昨夜戌の刻頃よりの雨今日二及 巳の刻過止
1862年	8月11日	文久2年	7月16日	曇
1862年	8月12日	文久2年	7月17日	晴 昨夜よりの雨今暁丑の刻頃止 (鱒ヶ沢町同心共が流行病で働けない・同心共が出勤迄2人雇い入れる)
1862年	8月13日	文久2年	7月18日	晴 (人事異動)
1862年	8月14日	文久2年	7月19日	快晴
1862年	8月15日	文久2年	7月20日	快晴 (昨年より箱館汐首御台場詰の長柄之者石田某と御持鍵仲間が村方の願により荒熊打留める・御酒代鳥目3貫文宛下し置かれる)
1862年	8月16日	文久2年	7月21日	晴
1862年	8月17日	文久2年	7月22日	晴
1862年	8月18日	文久2年	7月23日	快晴 (御留守居支配館美文内親三郎儀尾上村西野某方より金子掠め取り……沢山の人が色々やって分からない)
1862年	8月19日	文久2年	7月24日	快晴 (不調法の御目見以上支配を諸手足輕に役下げ、江戸詰め合い中不行状の大組足輕を動料25俵差引長柄之者に役下げ・江戸登り松前詰を差し留める)
1862年	8月20日	文久2年	7月25日	曇 午の刻頃より雨降 申の刻頃止
1862年	8月21日	文久2年	7月26日	晴 (外馬場で駒寄高覧)
1862年	8月22日	文久2年	7月27日	晴
1862年	8月23日	文久2年	7月28日	曇 辰の刻頃より小雨時々降 申の刻頃止
1862年	8月24日	文久2年	7月29日	曇
1862年	8月25日	文久2年	8月1日	曇 卯の刻頃より雨降 巳の刻過止 ((御目見以上を集めて)質素儉約を申付ける、工藤某を旗奉行に等の人事異動)
1862年	8月26日	文久2年	8月2日	晴
1862年	8月27日	文久2年	8月3日	曇 昨夜亥の刻頃より雨時々降 夜二入同断 下から続く 大坂御館入中原某の知行高500石を俵に下し置かれる)
1862年	8月28日	文久2年	8月4日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻過止 (……例年献上の塩鱒が近年不漁・干狗脊(干し薇)を代りに献上する、箱館詰200人スツ・詰100人の交替との公儀報告、 上に続く
1862年	8月29日	文久2年	8月5日	曇
1862年	8月30日	文久2年	8月6日	曇 申の刻頃より雨降 夜二入同断
1862年	8月31日	文久2年	8月7日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断

1862年	9月1日	文久2年	8月8日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 辰の刻過止 (人事異動)
1862年	9月2日	文久2年	8月9日	曇	
1862年	9月3日	文久2年	8月10日	曇	卯の刻過より雨時々降 午の刻過止 (大行院に麻疹安全の御祈禱を仰せ付ける)
1862年	9月4日	文久2年	8月11日	晴	(殿様御麻疹御座なされ候に付……、京都東本願寺より使僧が13日に来る)
1862年	9月5日	文久2年	8月12日	曇	卯の刻過より小雨時々降 未の刻頃止
1862年	9月6日	文久2年	8月13日	曇	
1862年	9月7日	文久2年	8月14日	曇	昨夜酉の刻過より雨降 今日ニ及 時々降 (人事異動)
1862年	9月8日	文久2年	8月15日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 辰の刻過止 (御初米を加賀助兵左衛門より差し上げる、殿様御麻疹で八幡宮で御祈禱、あちこちで麻疹のご祈禱、東本願寺の使送が来て周りがうろうろ)
1862年	9月9日	文久2年	8月16日	晴	
1862年	9月10日	文久2年	8月17日	晴	(人事異動)
1862年	9月11日	文久2年	8月18日	曇	辰の刻過より雨時々降 巳の刻頃止 (今日殿様麻疹御順快・御老女に金300疋・御末に銀3両・板之間之者に錢400文等々の御祝儀)
1862年	9月12日	文久2年	8月19日	曇	今暁寅の刻過より雨降 辰の刻過止
1862年	9月13日	文久2年	8月20日	曇	午の刻過より雨時々降 酉の刻頃止
1862年	9月14日	文久2年	8月21日	晴	下から続く 関係者多数に3鞭・過料・押込、逃げ去った手段米の男の1人は倒死、偽手紙を相談め店先に持参して諸品語り取った木挽きの子(字を書け読める)に3鞭弘前払い)
1862年	9月15日	文久2年	8月22日	曇	卯の刻過より雨時々降 未の刻頃止 下から続く この仲間に18鞭以下同じだが格段の御沙汰で家財は妻子に・仲間8人に3鞭ツツ居村徘徊これまで通り・ 上に続く
1862年	9月16日	文久2年	8月23日	曇	午の刻過より雨時々降 夜二入同断 (昨年12月17日夜南部船に手段米積み込み中に見つかり手ひどく抵抗した男に24鞭居村払い外ヶ浜4ヶ組並びに浦々住居御構い・ 上に続く
1862年	9月17日	文久2年	8月24日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 辰の刻過止
1862年	9月18日	文久2年	8月25日	晴	(昨夜御家老大道寺族之助が病死・3日の内鳴物停止)
1862年	9月19日	文久2年	8月26日	曇	今暁寅の刻頃より雨降 卯の刻過止
1862年	9月20日	文久2年	8月27日	曇	
1862年	9月21日	文久2年	8月28日	曇	下から続く 侍屋敷7軒・町屋66軒・駅場役所1ヶ所・土蔵8ヶ所・人馬怪我なし)
1862年	9月22日	文久2年	8月29日	曇	(昨年2月に手ひどく暴行した青森の男に6鞭親に引渡し他出差留め、風呂敷等を語り取った男に3鞭弘前御構い、去々月16日昼四半時頃の土手町出火の公儀報告: 上に続く
1862年	9月23日	文久2年	8月30日	晴	
1862年	9月24日	文久2年	閏8月1日	曇	(人事異動、日記物書き等に御賞)
1862年	9月25日	文久2年	閏8月2日	晴	(侍従様御不快・高岡で御祈禱)
1862年	9月26日	文久2年	閏8月3日	晴	
1862年	9月27日	文久2年	閏8月4日	曇	昨夜酉の刻過より雨降 今日ニ及 時々降 夜二入同断 (人事異動、このたび江戸表で悪病流行・南部秋田辺りまで伝遷(伝染?))
1862年	9月28日	文久2年	閏8月5日	曇	昨夜より之雨卯の刻過止
1862年	9月29日	文久2年	閏8月6日	曇	巳の刻過小雨降 戌の刻過止
1862年	9月30日	文久2年	閏8月7日	晴	
1862年	10月1日	文久2年	閏8月8日	晴	(南部で捕まった殺人犯久左衛門の引き渡しを申し入れている)
1862年	10月2日	文久2年	閏8月9日	曇	
1862年	10月3日	文久2年	閏8月10日	曇	
1862年	10月4日	文久2年	閏8月11日	晴	(スツ・詰の武器嗜み宜しく御賞金200疋)
1862年	10月5日	文久2年	閏8月12日	曇	巳の刻過より雨時々降 酉の刻過止 (大道寺族之助への香典白銀30両下し置かれる)
1862年	10月6日	文久2年	閏8月13日	曇	
1862年	10月7日	文久2年	閏8月14日	晴	(久左衛門の迎えの定め(役禄をどう答えるかなど)いろいろあり)
1862年	10月8日	文久2年	閏8月15日	曇	(桜庭某を寄合に等の人事異動)
1862年	10月9日	文久2年	閏8月16日	曇	
1862年	10月10日	文久2年	閏8月17日	曇	午の刻過より雨降 申の刻過止
1862年	10月11日	文久2年	閏8月18日	曇	(人事異動)
1862年	10月12日	文久2年	閏8月19日	曇	
1862年	10月13日	文久2年	閏8月20日	曇	申の刻過より小雨降 酉の刻過止 (当大坂御廻船に中抜米ありと訴えた上乘下乗に御酒代(鳥目5貫文・4貫文)下し置かれる)
1862年	10月14日	文久2年	閏8月21日	曇	(人事異動)
1862年	10月15日	文久2年	閏8月22日	曇	(古学校武芸稽古所出来) 下から続く 夜八時頃箱館口江向け艀行、江戸で人事異動)
1862年	10月16日	文久2年	閏8月23日	曇	(当7月10日夕七時頃御領分外ヶ浜上磯宇鉄村前濱江松前口之方より三本櫓の蒸気船1艘が颯来碇泊の処翌11日昼異人14人上陸・船道具が痛損で止むなく泊まった・ 上に続く
1862年	10月17日	文久2年	閏8月24日	晴	(当御発駕日限を来月27日と仰せ出される、人事異動、他領名目で船を乗り回す者あり・これまでの分は用捨するから刻印を打てとの申し付け)
1862年	10月18日	文久2年	閏8月25日	曇	
1862年	10月19日	文久2年	閏8月26日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1862年	10月20日	文久2年	閏8月27日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 午の刻頃止
1862年	10月21日	文久2年	閏8月28日	晴	(人事異動、湯屋で着類を盗んだ?掃除小人を召捕り揚屋入り)
1862年	10月22日	文久2年	閏8月29日	快晴	(生垣が道に出ている等で乱暴した5人に3鞭宛居村徘徊これまで通り・乱暴された3人に過料1貫800文宛・他の関係者にもそれなりの罰)
1862年	10月23日	文久2年	9月1日	快晴	
1862年	10月24日	文久2年	9月2日	晴	今暁丑の刻過より雨降 寅の刻過止 (人事異動)
1862年	10月25日	文久2年	9月3日	曇	
1862年	10月26日	文久2年	9月4日	曇	卯の刻過より雨時々降 未の刻過止
1862年	10月27日	文久2年	9月5日	曇	
1862年	10月28日	文久2年	9月6日	曇	午の刻過より雨時々降 未の刻頃止
1862年	10月29日	文久2年	9月7日	曇	辰の刻頃より小雨時々降 午の刻頃止
1862年	10月30日	文久2年	9月8日	曇	
1862年	10月31日	文久2年	9月9日	快晴	

1862年	11月1日	文久2年	9月10日	快晴	
1862年	11月2日	文久2年	9月11日	晴	下から続く 緩める、一間所を度々押破った男を揚屋入り、殺人容疑の元寺町の久左衛門が昨11日到着・入牢)
1862年	11月3日	文久2年	9月12日	曇	今晩寅の刻頃より雨降 辰の刻過止 (藤堂和泉守・立花飛騨守・宗対馬守・佐竹右京大夫・津軽越中守に上意・武備充実・海軍を起こす・このため参勤の在府日数を 上に続く
1862年	11月4日	文久2年	9月13日	曇	
1862年	11月5日	文久2年	9月14日	曇	辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 (内々合葉売り出しの油川村の浄満寺に慎)
1862年	11月6日	文久2年	9月15日	曇	(去月10日夜青森塩町出火の類焼の者江御手当米1人に2俵又は1俵下し置かれる)
1862年	11月7日	文久2年	9月16日	曇	辰の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (碓ヶ関を昨年9月晦日朝7時半に宿の案内で出ようとし仙家中が早すぎるとめめたらしい・事前の連絡がなかったからかな?)
1862年	11月8日	文久2年	9月17日	曇	(人事異動)
1862年	11月9日	文久2年	9月18日	晴	
1862年	11月10日	文久2年	9月19日	曇	(当6月鯉ヶ沢町七ツ石町の出火類焼の節人を打擲死亡させた男を気狂い(直接の死亡原因は打擲ではない・死亡者に親類共よりの願もあり)として揚屋出一間所入り)
1862年	11月11日	文久2年	9月20日	曇	(戸田清左衛門を御持筒頭に等の人事異動)
1862年	11月12日	文久2年	9月21日	晴	
1862年	11月13日	文久2年	9月22日	曇	
1862年	11月14日	文久2年	9月23日	曇	
1862年	11月15日	文久2年	9月24日	曇	昨夜雪少し降 (昨夜初雪にて御家老等がご機嫌伺い申し上げる、人事異動、大坂館入の炭屋某に御召し御紋等を下し置かれる)
1862年	11月16日	文久2年	9月25日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (森岡民部が倅の高300石を下し置かれ御馬廻組頭御用人兼帯に等の人為異動)
1862年	11月17日	文久2年	9月26日	晴	
1862年	11月18日	文久2年	9月27日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1862年	11月19日	文久2年	9月28日	曇	(海軍方修行登りに指名:笹森銀蔵小寺文蔵(測量学)・神連之助葛西宗四郎佐藤弥六(船具軍用学)・樋口左馬之助永野邦助(蒸気機関学)、人事異動)
1862年	11月20日	文久2年	9月29日	曇	今日雪少し降
1862年	11月21日	文久2年	9月30日	曇	未の刻頃小雨降 即刻止
1862年	11月22日	文久2年	10月1日	曇	(無住の誓願寺に鯉ヶ沢法王寺から)
1862年	11月23日	文久2年	10月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積
1862年	11月24日	文久2年	10月3日	曇	
1862年	11月25日	文久2年	10月4日	曇	昨夜より之雨今日辰之刻過止 下から続く 海軍方修行登りの旅費は御目見以下もあるが全員御留守居御目見以上支配扱いとする、人事異動)
1862年	11月26日	文久2年	10月5日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻頃止 巳之刻よりみぞれ降(曇昨夜より(合字)の雨今日二及辰の刻頃止巳之刻より(合字)みぞれ降) (精勤の庄屋3人に御酒代、 上に続く
1862年	11月27日	文久2年	10月6日	曇	巳の刻過より雨時々降 申の刻過止
1862年	11月28日	文久2年	10月7日	曇	
1862年	11月29日	文久2年	10月8日	曇	卯の刻過より雨降 午の刻過止 (自分物入りで西洋兵学砲術を詮索に登り学問所師範同様に教授の岩田某を御手廻組に仰せ付ける、御賞、星弘道を御国に入れた男を召捕る)
1862年	11月30日	文久2年	10月9日	曇	下から続く 久左衛門を町中引廻しの上取上御仕置場で磔、この度公辺(こうへん:幕府)より熨斗目長袴御止メ御触出)
1862年	12月1日	文久2年	10月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (来春は常府の面々が御国下がりになるだろうから長屋を手入れを手配し始めている) 下から続く 余を欺き取った 上に続く
1862年	12月2日	文久2年	10月11日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (加藤某を御使番に等の人事異動、去月晦日屋赤石組岩崎村で雷火・建家穀物等焼失、野辺地村の船頭を殺害し金子60両 上に続く
1862年	12月3日	文久2年	10月12日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1862年	12月4日	文久2年	10月13日	曇	
1862年	12月5日	文久2年	10月14日	曇	
1862年	12月6日	文久2年	10月15日	曇	昨夜より之雨今日二及 巳の刻過止 (人事異動、殿様向後3年目毎二春中御在府仰せ出され候に付……)
1862年	12月7日	文久2年	10月16日	曇	今日雪少し降
1862年	12月8日	文久2年	10月17日	曇	昨夜雪少し降 (大手先御用屋敷御長屋仰せ付けられ……)
1862年	12月9日	文久2年	10月18日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1862年	12月10日	文久2年	10月19日	曇	昨夜雪少し降
1862年	12月11日	文久2年	10月20日	曇	(先々代の殿侍従様のお見舞いに森岡民部が江戸に、細川様からの医者田中某が来るらしい・料理等を書いてある)
1862年	12月12日	文久2年	10月21日	曇	申の刻過より小雨降 夜二入同断 (細川様の見舞いの医者は町同心が三之丸杉大橋先まで・その後は目付が案内・二之丸中辻番所手前で下乗……)
1862年	12月13日	文久2年	10月22日	曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止 巳の刻過より雨時々降 午の刻頃止
1862年	12月14日	文久2年	10月23日	曇	今日雪降 二寸程積
1862年	12月15日	文久2年	10月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1862年	12月16日	文久2年	10月25日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (相馬某を勘定奉行にとの人事異動、鍛冶町で交通事故(女性が牛に蹴られた?)かな?)
1862年	12月17日	文久2年	10月26日	曇	今日雪降 二寸程積 29日から続く 大赦以前なのか預かった者達等への具体的罰はなし)
1862年	12月18日	文久2年	10月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 下から続く 罪状も分らず対処に迷っている)
1862年	12月19日	文久2年	10月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (11日に貼り付けになった久左衛門の持ち品(ちやうな・曲尺・かんなど)が南部表から届く、弘化4年に入牢の男が重い麻疹・ 上に続く
1862年	12月20日	文久2年	10月29日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 二寸程積 (米287俵余と銭6貫621文目余を取り立て過ぎ(私腹を肥やした)元庄屋が預けから逃亡・家財田畑とも闕所(財産没収)・ 26日に続く
1862年	12月21日	文久2年	11月1日	曇	昨夜雪少々降 (人事異動)
1862年	12月22日	文久2年	11月2日	曇	今日雪降 四寸程積 (18日立道中7日振りの飛脚到着・18日晩子の中刻侍従様御逝去・鳴物停止30日間・月代剃らない(御目見以上等の区別あり)・殺生停止等々の触れ、人事異動)
1862年	12月23日	文久2年	11月3日	晴	昨夜雪少し降
1862年	12月24日	文久2年	11月4日	曇	今晩寅の刻過地震少々 今日雪少々降 (去月6日江戸出立の神某が今日到着・川崎長門出来のミニヘール筒(解りません)5挺と木苗・庄三郎出来のミニヘール筒1挺を持参する)
1862年	12月25日	文久2年	11月5日	曇	昨夜戌之刻頃より雨降 今晩寅の刻頃止 今日雪少し降
1862年	12月26日	文久2年	11月6日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪少し降
1862年	12月27日	文久2年	11月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (昨29日夜平館村で出火・馬屋馬1疋稲草少々焼失)
1862年	12月28日	文久2年	11月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (菓子名:難波かん・山茶花)
1862年	12月29日	文久2年	11月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1862年	12月30日	文久2年	11月10日	晴	昨夜雪少し降
1862年	12月31日	文久2年	11月11日	曇	午の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 (喜多村監物の与力12人を残らず引取りり御留守居当分支配とする・10月24日病死・鳴物停止3日間の触れ)

1863年	1月1日	文久2年	11月12日	晴	
1863年	1月2日	文久2年	11月13日	晴	
1863年	1月3日	文久2年	11月14日	曇	
1863年	1月4日	文久2年	11月15日	曇	(人事異動)
1863年	1月5日	文久2年	11月16日	曇	
1863年	1月6日	文久2年	11月17日	曇	(御家中の甲冑並びに鉄砲馬具等を調べる、北村監物死亡に対する香典は白銀30両)
1863年	1月7日	文久2年	11月18日	曇	21日から続く 御賞・御酒代を下し置かれる、駒越組川原平村の狛師孫六・赤石組黒崎村の狛師若吉・同組金沢村の狛師源十郎に鳥目3貫文と下々位の熊皮下し置かれる)
1863年	1月8日	文久2年	11月19日	晴	昨夜雪少し降 下から続く 去る9月に本郷村の男を打擲の黒石男は無罪・双方の願出による、侍従様御逝去に伴う座頭共への配当1人に付15文宛103文目7分5厘申し付ける)
1863年	1月9日	文久2年	11月20日	曇	昨夜雪降 二寸程積 (去る14日夜油川組十三森村熊野宮社地で殺人の男2人を召捕り入牢・男達は袖乞で妻子計8人・家族は村端に仮小屋取り建て入置き手当させる、 上に続く)
1863年	1月10日	文久2年	11月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 午の刻過地震少し 今日雪降 四寸程積 (添田有方を御家老職手伝い・西館宇膳を御用人兼常仰せつける、去年の勘定が早かった代官・手代に 18日に続く)
1863年	1月11日	文久2年	11月22日	曇	昨夜雪降 三寸程積
1863年	1月12日	文久2年	11月23日	曇	昨夜雪降 六寸程積
1863年	1月13日	文久2年	11月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (人事異動、去る18日暁14日の殺人者(20日に記述)2人が逃げ去る)
1863年	1月14日	文久2年	11月25日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (上田某の高100石を50石加増の人事異動、江戸表で震災大風で破損の御屋敷御普請に1000両上納の松山某等の20人に奇特として干菓子等を下し置かれる)
1863年	1月15日	文久2年	11月26日	晴	下から続く 不明日に駒越組桜庭村庄屋方で乱暴し棒締で村送り中樋口村御代官役所で男が死亡・締め付けた庄屋等は御用の外他出留、不屈きな足軽2人を役下げ)
1863年	1月16日	文久2年	11月27日	曇	今日雪少し降 (細川様から派遣の医者に御茶代等(田中某に銀50枚但し3歩積り御茶代銀10両同断・弟子若堂に金2000疋宛・仲間2人に錢18貫文宛)を下し置かれる、 上に続く)
1863年	1月17日	文久2年	11月28日	曇	今暁丑ノ刻頃より雨降 辰の刻頃止 (葛西某を碓ヶ関町奉行に等の人事異動、百沢御普請担当者に御手当(金2歩・銀9兩等)
1863年	1月18日	文久2年	11月29日	晴	(年来仕癖が悪い青森御蔵廻の者共を一統取り放ししようとしたら……、江戸での侍従様(寛廣(クワンクハウ)院殿從四位下侍從出羽守進達(ジンタツ)了義大居士) 欄外(*)に続く)
1863年	1月19日	文久2年	11月30日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 午の刻過止
1863年	1月20日	文久2年	12月1日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 一寸程積 (津軽凶書を御手廻組頭に等の人事異動、明後3日御目見以上並びに惣与力麻上下で登城の触れ)
1863年	1月21日	文久2年	12月2日	曇	昨夜雪少し降
1863年	1月22日	文久2年	12月3日	曇	昨夜雪少し降 (総登城で自筆を見せた内容が武備に相努めよ・歩引き残らず返す……後に家老の口達もあり本当に返すのか不明、人事異動)
1863年	1月23日	文久2年	12月4日	曇	昨夜雪少し降 (この度公辺御改革に付御献上品御止仰せ付けられ候に付両御殿御登らせ鮭の儀勘定奉行より申出候の間本当に止めて良いか悩んでいる)
1863年	1月24日	文久2年	12月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (佐々木某を青森町奉行にとの人事異動、御目見以下お留守居支配横岡幸太郎からお暇願・35俵2人扶持を倅登太郎?二下し置かれる)
1863年	1月25日	文久2年	12月6日	曇	
1863年	1月26日	文久2年	12月7日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 四寸程積 (人事異動、新屋敷御長屋手入れに関して5人に1貫483文目拝借申し付ける)
1863年	1月27日	文久2年	12月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動)
1863年	1月28日	文久2年	12月9日	曇	今日雪少し降
1863年	1月29日	文久2年	12月10日	曇	今日雪降 一寸程積
1863年	1月30日	文久2年	12月11日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 五寸程積 (今日報恩寺と長勝寺で寛廣院様の御法事・殿様御不例に付御名代を派遣)
1863年	1月31日	文久2年	12月12日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪少し降 (殺人逃亡の2人の妻子を預かった十三森村から苦情・御片付け迄の内1人に付黒米4合8夕雑用錢として5分5厘宛を下さるよう申し立て了承される)
1863年	2月1日	文久2年	12月13日	晴	
1863年	2月2日	文久2年	12月14日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 二寸程積
1863年	2月3日	文久2年	12月15日	快晴	(この度取建の大手先武芸所で今日劍術稽古初め、盗人の庄内男を乞食小屋元引回し領外追放・これを泊め揚屋入りの男を格段の沙汰で居村引渡し・多数の関係者にも御用捨)
1863年	2月4日	文久2年	12月16日	曇	今日子之刻頃よりみぞれ降 即刻止む (後瀧組奥内村の者共が松盗伐1000本余・代官が御奉公遠慮、18日明七半時頃宮脇から出火の十腰内村権現堂の社司長見某を社職遠慮)
1863年	2月5日	文久2年	12月17日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (三ノ御丸御蔵御取建の御雇人夫1人に付2文目1分5厘立(日雇いの日当かな?)、十三森村の殺人逃亡者の家族を野内口から送り返す)
1863年	2月6日	文久2年	12月18日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (松前箱館に乱心男・町同心手で引き揚げ揚屋入り、一昨15日浪岡組柳久保村で青森町同心が乱心者に出会い手傷を受ける)
1863年	2月7日	文久2年	12月19日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1863年	2月8日	文久2年	12月20日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (教授方・山上與惣太(鉄太郎倅)等の成績優秀な生徒?に御賞)
1863年	2月9日	文久2年	12月21日	曇	今日雪少し降 (御台所用流木は東御門外まで馬で来てそこから掃除小人が背負っていた・北ノ丸橋先まで馬で運ぶようにする・炭も類似)
1863年	2月10日	文久2年	12月22日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (この度献上物御免と幕府が言った・御鷹は禁裏江御進献するので続けてほしいとの老中からの達・禁裏も平出、人事異動)
1863年	2月11日	文久2年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 者ではないが早速送り返す、人事異動、去る15日柳久保領で箱館の男の脇差を奪い取った男を召捕る・翌日の記事で揚屋入り)
1863年	2月12日	文久2年	12月24日	曇	今日雪少し降 (親方町の湯屋で湯入り人の着類を盗んだ男を揚屋入り、人事異動、星弘道の宿を世話した男を揚屋出、門外村庵寺に住む男が丹後出生・胡乱の 上に続く)
1863年	2月13日	文久2年	12月25日	曇	今日雪少し降 (御賞)
1863年	2月14日	文久2年	12月26日	曇	昨夜雪少し降 (御従目付横岡勝次郎を作事吟味役格に等の人事異動、・礫になった元寺町久左衛門を連れてきた者達等に御賞・御酒代)
1863年	2月15日	文久2年	12月27日	晴	(多くの御蔵立会と奉行に御賞、去月12日深浦前浜で目形3貫260目鉛1枚拾取る・去る亥年(今年は戌年:11年前?)破船した御廻船の荷物・拾い主に御酒代鳥目600文下し置かれる)
1863年	2月16日	文久2年	12月28日	晴	(御家中に砲術稽古に励めとの口達、御賞・御酒代、人事異動)
1863年	2月17日	文久2年	12月29日	晴	
1863年	2月18日	文久3年	正月1日	曇	今日雪少し降 (常府の面々年割で明春より御国引取りの口達)
1863年	2月19日	文久3年	正月2日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積
1863年	2月20日	文久3年	正月3日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1863年	2月21日	文久3年	正月4日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積
1863年	2月22日	文久3年	正月5日	曇	今日雪少降
1863年	2月23日	文久3年	正月6日	晴	
1863年	2月24日	文久3年	正月7日	晴	(今日七種の御祝儀)
1863年	2月25日	文久3年	正月8日	曇	今日辰の刻頃地震少し 午の刻過より雨降 即刻止
1863年	2月26日	文久3年	正月9日	晴	昨夜よりの雨今暁虎の刻頃止
1863年	2月27日	文久3年	正月10日	晴	
1863年	2月28日	文久3年	正月11日	晴	(大道寺鞆負を長柄奉行に等の人事異動)

(*)の葬送の様子あり、道中7日振りの御飛脚福眞万次郎等が4日4時延着で慎・こんな例沢山)

1863年	3月1日	文久3年	正月12日	晴	今暁寅の刻過より雨降 卯の刻過止		
1863年	3月2日	文久3年	正月13日	晴			
1863年	3月3日	文久3年	正月14日	曇	今日辰の刻頃小雨降 午の刻過止 (今辰の上刻久渡寺観音堂一宇が山中鳴動御堂一円潰損・翌日の記述で五山に祈禱を久渡寺では別段重キ御祈禱を仰せ付ける)		
1863年	3月4日	文久3年	正月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、御賞、御矢・御弦を差し上げた御弓師御矢師5人に御祝儀鳥目1貫文宛)		
1863年	3月5日	文久3年	正月16日	曇			
1863年	3月6日	文久3年	正月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積		
1863年	3月7日	文久3年	正月18日	晴			
1863年	3月8日	文久3年	正月19日	晴			
1863年	3月9日	文久3年	正月20日	晴			
1863年	3月10日	文久3年	正月21日	晴			
1863年	3月11日	文久3年	正月22日	曇	未の刻過より雨時々降 夜に入同断 (我が低で不法な藤代組青女子村の百姓を当分の内入牢)		
1863年	3月12日	文久3年	正月23日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 下から続く 付きで差し引くとの御触れ、人事異動)		
1863年	3月13日	文久3年	正月24日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過止 (春の参勤交代を夏にしてもらった、この度御家中本渡を仰せ付けられる・軍用金並びに御守り札料を定めを通りその他も条件 上に続く)		
1863年	3月14日	文久3年	正月25日	曇	(人事異動、両町御廻船40艘の見込み)		
1863年	3月15日	文久3年	正月26日	曇	今日巳の刻過より雨時々降 夜に入同断 (杉山八兵衛を馬廻組頭に等の人事異動)		
1863年	3月16日	文久3年	正月27日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 (目屋野沢出流木が年々の様に流失・御試に山師共手で直流し仰せつける(昔もやったような気がするが……)・樋口矢来近辺に立ち入るなどの触れ)		
1863年	3月17日	文久3年	正月28日	曇	昨夜雪少降 (人事異動)		
1863年	3月18日	文久3年	正月29日	晴			
1863年	3月19日	文久3年	2月1日	晴	(御目見以下御留守居支配横岡愛太郎を御馬廻与力に等の人事異動、大円寺境内仁王尊御出汗)		
1863年	3月20日	文久3年	2月2日	晴			
1863年	3月21日	文久3年	2月3日	曇	今日雪少し降		
1863年	3月22日	文久3年	2月4日	晴	(去月12日吉村真右衛門が江戸表で家老職との人事異動(黒石のことかな?))		
1863年	3月23日	文久3年	2月5日	晴	(牧野左次郎を御手廻組頭に等の人事異動)		
1863年	3月24日	文久3年	2月6日	晴	(御家中?の妻今暁変死・御徒目付が見分し別条なし)		
1863年	3月25日	文久3年	2月7日	晴	(大組・御持筒・諸手足軽頭申出:12丁火消組の内1組宛月番附属仰せつけられ候に付……)		
1863年	3月26日	文久3年	2月8日	曇	今日午の刻過より雨降 (今朝五時前御家中?宅で療治中の妻が咽気管を突き通し即死(6日付の報告))		
1863年	3月27日	文久3年	2月9日	曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止 (大手先武芸所で今日砲術稽古、森田村に田屋所を持つ伊藤忠作(御家中?)が御用向きを親類に申合せて家内引越し・仕付方手配をしたい・了)		
1863年	3月28日	文久3年	2月10日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (今日槍術高覧、一昨年秋田虻川駅で殺人の疑いがある諸手足軽は同道者の中申出もあるが白状しない・入牢の上拷問を伺っている)		
1863年	3月29日	文久3年	2月11日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (人事異動)		
1863年	3月30日	文久3年	2月12日	曇	子の刻頃地震少し 未の刻過雨少し降		
1863年	3月31日	文久3年	2月13日	晴	(魚買い入れに悪金?を使った秋田の男を揚屋入りしようとしたら17日の記事で逃げられた?)		
1863年	4月1日	文久3年	2月14日	曇	午の刻過より雨降 同刻地震少し		
1863年	4月2日	文久3年	2月15日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過止 (御目見以上惣与力まで登城・勅書の写:要するに攘夷・平出は沢山あるがまだ台頭なし、笹森某等を御使番に等の人事異動)		
1863年	4月3日	文久3年	2月16日	曇			
1863年	4月4日	文久3年	2月17日	曇	巳の刻過より雨降 午の刻過止		
1863年	4月5日	文久3年	2月18日	晴	(人事異動、昨年の湊目付・別段締役に御賞)		
1863年	4月6日	文久3年	2月19日	曇			
1863年	4月7日	文久3年	2月20日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過止 同刻地震少し (人事異動)		
1863年	4月8日	文久3年	2月21日	晴	(日記役手伝を御馬廻格御代官にとの人事異動)		
1863年	4月9日	文久3年	2月22日	晴			
1863年	4月10日	文久3年	2月23日	曇	戌の刻過より雨降 夜に入同断 下から続く 46人を指名する・女中等残らず御暇)		
1863年	4月11日	文久3年	2月24日	曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止 (松前シツ・詰め之長柄之者病死・松前表で病死に付勤料そのまま下し置かれ(子に)即役) 下から続く 引越の面々山鹿某等		上に続く
1863年	4月12日	文久3年	2月25日	曇	(長年(21・23年)務めた庄屋3人に御賞(鳥目700文宛)の上庄屋御免) 下から続く 船製造方早速詮索の上罷下るよう仰せ付ける、2月13日將軍上洛?、この度御国		上に続く
1863年	4月13日	文久3年	2月26日	晴	下から続く 手伝御城代格にとの人事異動、去る7日西洋形御船製造方御用に付工藤勝也等2人を御国下がりとす・尤も12ホント位之大砲打方相成り候觸權付の		上に続く
1863年	4月14日	文久3年	2月27日	晴	(御奉公見習を申し出た成田某の倅の芸術(武芸のこと)を三組頭が見分・未熟に見受けられ今暫く稽古の上申し出るよう仰せ付ける、去る11日江戸で森岡民部を御家老職		上に続く
1863年	4月15日	文久3年	2月28日	晴			
1863年	4月16日	文久3年	2月29日	曇	未の刻過より時々雨降 夜に入同断 下から続く 歩引き渡しがなくなったので(御家中が雇う)上仲間110文目中仲間95文目下仲間80目小者55文目に戻すようにする)		
1863年	4月17日	文久3年	2月30日	曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻頃止 (格別精勤の海岸締方懸合4人に御酒代鳥目3貫文宛下し置かれる、御献上と御用鱈御用の漁師が献上がなくなり……、御家中の		上に続く
1863年	4月18日	文久3年	3月1日	晴	(非常に多数の人事異動、横岡勝次郎倅藤之助が御目見)		
1863年	4月19日	文久3年	3月2日	晴	(秋田領で盗み当領に逃げ込み盗みの男が白状・町同心が付き添い碓ヶ間江送り返す)		
1863年	4月20日	文久3年	3月3日	曇	今日雪少し降 (来月6日御発駕と仰せ出される、小山内某を郡奉行手伝いに等の人事異動、箱館詰めの節畑を開発させた小山才八に銀1枚下し置かれる)		
1863年	4月21日	文久3年	3月4日	晴	(不正の扱いがあった藤代組手代を手代役取放の上慎50日)		
1863年	4月22日	文久3年	3月5日	晴	(富田御屋敷跡で水車を用いて筒薬を作っている・同所近辺に野火付け次第によっては人命に拘る・水車場所3町内外に入り込まないよう御目付触)		
1863年	4月23日	文久3年	3月6日	快晴	(昨年8月朔日暮六時頃和徳町で搦構敷(搦すりがましき)振舞の御家中を御目見以下御留守居組に役下げ・乱暴をしたその二男に他出差留め預け)		
1863年	4月24日	文久3年	3月7日	快晴	(昨暮外南御門江放れ馬1疋駆込む御門番人が取押え・馬主不明、常府御家中御国引越しの御手当:禄400石で金50両……御目見以下の最少で金2両、上洛の		欄外(*)に続く
1863年	4月25日	文久3年	3月8日	快晴	(人事異動)		
1863年	4月26日	文久3年	3月9日	曇			
1863年	4月27日	文久3年	3月10日	曇			
1863年	4月28日	文久3年	3月11日	晴	(人事異動、昨5日夜四時半頃大間越湊支配松神村で出火・類焼とも17軒建馬1疋焼失)		
1863年	4月29日	文久3年	3月12日	快晴	(後藤門之丞の郡奉行御免、宇和野で着具の上内習・甲冑取持ちの旗を遊軍隊に申し付ける?、人事異動)		
1863年	4月30日	文久3年	3月13日	快晴			

(*)山中兵部に属する面々の氏名あり、浜町の御殿は来る晦日御引き払い)

1863年	5月1日	文久3年	3月14日	晴	(人事異動)
1863年	5月2日	文久3年	3月15日	晴	下から続く 回答なければ船将の職掌を尽し……、これに関し非常士大将山中兵部に知らせ情報が入り次第出張を仰せ付ける、表医者は外科を見なかったが兼業を申付ける)
1863年	5月3日	文久3年	3月16日	晴	(大殿様(江戸にいる先代の殿様)が御下向遊ばされる旨仰せ出され候間……、この度神奈川江渡来の英国数艘の軍艦が重大な書簡を渡す:来る8日(3月?)迄に 上に続く
1863年	5月4日	文久3年	3月17日	曇	(何人かの江戸詰合登りを見合わせている) 下から続く 米価諸品高値で困っている・この度限り1人に付500文宛御手当(銭高441文目6分6厘)を下し置かれる)
1863年	5月5日	文久3年	3月18日	晴	(御発駕を来月6日としてきたが体調不良で日延べ、野火を付けた者は見当て次第召捕るとの触れ、人事異動(条件に合っていないが砲術皆伝等であり)、座当どもが 上に続く
1863年	5月6日	文久3年	3月19日	曇	今日辰の刻頃より風時々強し(大殿様御下向に付御迎え急登りを仰せ付ける、定めがなかった足軽実戦の節法被を着用するようにする)
1863年	5月7日	文久3年	3月20日	曇	昨夜より之風今日に及 時々降 申の時過止(人事異動(武芸格別等を優遇)) 下から続く 75文目や戸、御藏え忍び入り御米盗みの男を召捕り吟味中入牢)
1863年	5月8日	文久3年	3月21日	曇	今暁寅の刻過より雨時々降 巳の刻過止(去る5日夜松神村の出火の17軒に1俵充都合17俵下し置かれる) 下から続く 合葉隠し売りの男・関係者に過料銭 上に続く
1863年	5月9日	文久3年	3月22日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過(止を書いていないのか?) (来る26日内習の節甲冑取持ちの族望み次第遊軍に心得15人が罷り出:今となっては玩具の兵隊、他領の 上に続く
1863年	5月10日	文久3年	3月23日	晴	
1863年	5月11日	文久3年	3月24日	曇	(御賞、一間所に入れて逃げ入牢し昨年7月出牢の男をまた入牢願っている)
1863年	5月12日	文久3年	3月25日	晴	(大殿様御迎えに27日出立の西館宇膳が挨拶、人事異動、江戸からの引越しの手当等が書いてある)
1863年	5月13日	文久3年	3月26日	晴	(今日宇和野で両組頭甲冑で内習・帰陣の行軍を三之丸御物見処で高覧)
1863年	5月14日	文久3年	3月27日	晴	(盗まれた馬を人相書き?で探している・鹿毛駄一定当亥(今年が亥年)拾四歳丈尺四寸、掃除小人が喧嘩?で怪我している)
1863年	5月15日	文久3年	3月28日	晴	(去る17日昼相沢村の稲荷宮が野火で焼失、南溜池北側土居下通御用地に立ち入るなどの触れ)
1863年	5月16日	文久3年	3月29日	晴	(昨年8月和徳町の湯屋で帯など盗んだ男に鞭刑3鞭弘前払い)
1863年	5月17日	文久3年	3月30日	晴	
1863年	5月18日	文久3年	4月1日	曇	(多数の人事異動(今別町奉行格3人・御台所頭格20人等々))
1863年	5月19日	文久3年	4月2日	曇	午の刻頃雨降 未の刻過止(人事異動)
1863年	5月20日	文久3年	4月3日	晴	(昨年7月8日付並びに8月8日付の秋田様家中より箱館館の書状を隠して届けなかった碇ヶ関の男に鞭刑6鞭居町払い・関係者に戸)
1863年	5月21日	文久3年	4月4日	晴	
1863年	5月22日	文久3年	4月5日	晴	
1863年	5月23日	文久3年	4月6日	晴	
1863年	5月24日	文久3年	4月7日	晴	(人事異動)
1863年	5月25日	文久3年	4月8日	曇	昨夜酉の刻頃より小雨時々降 今日二及 辰の刻過止(この度諸組格役仰せ付けられ候者追って芸道熟達のは申し立てにより三組足軽並びに御城付足軽江繰り上げることとする)
1863年	5月26日	文久3年	4月9日	晴	(江戸で去(3月)7日等多数の人事異動、去る14日大殿様が津梁院江御参詣:まだ江戸にいた、唐銅ライフル加農煩(煩はこうと読み大筒)3挺を川口宿で鑄立てる)
1863年	5月27日	文久3年	4月10日	晴	
1863年	5月28日	文久3年	4月11日	晴	(御目見以下役々小使に至る迄御人実数を落ちなく早速取り調べるよう申し付けている・他役より加勢の者並びに鉄砲心得のものも20日迄に出すよう求めている)
1863年	5月29日	文久3年	4月12日	晴	(人事異動)
1863年	5月30日	文久3年	4月13日	晴	
1863年	5月31日	文久3年	4月14日	快晴	(樋口村領に魚を取りに行き流木矢来に傷をつける者あり)
1863年	6月1日	文久3年	4月15日	快晴	(蝦夷地に行っていた田中村の娘?かんと腰縄付きで12日に村役預けとする・松前にも受け取ったと謝礼を送る、晴天続きで護国神・新明宮で風雨順時の御神楽を申付ける)
1863年	6月2日	文久3年	4月16日	晴	
1863年	6月3日	文久3年	4月17日	曇	申の刻過より雨降 夜二入り断
1863年	6月4日	文久3年	4月18日	曇	昨夜より之雨今日二及 卯の刻頃止(宇和野で内習の節在町の者どもが見物に集まる・入り込まないように注意している)
1863年	6月5日	文久3年	4月19日	晴	(宇和野で大砲試し打ちを御家老が見分) 下から続く 関係者にも過料等の罰)
1863年	6月6日	文久3年	4月20日	晴	(人事異動) 下から続く 色々乱妨・樋口村の駒越代官所手代が食事等の世話をせず棒縛で届けられた男が死亡・番人に口止めもした・手代取扱?之上30日押込・ 上に続く
1863年	6月7日	文久3年	4月21日	晴	(釜蓋福次郎を長柄奉行に役料90俵との人事異動、昨19日昼大罫組石川村で出火・類焼とも34軒焼失・火元高無他村預け、去る12月18日夜桜庭村庄屋方で鍛冶町の男が 上に続く
1863年	6月8日	文久3年	4月22日	曇	(昨21日貞昌寺末庵徳増寺出火・天徳寺園城寺が類焼・火元禁足)
1863年	6月9日	文久3年	4月23日	快晴	(送り返しの秋田領出生の男に付き添っていた町同心が取り逃がし憤み・宿は戸)
1863年	6月10日	文久3年	4月24日	快晴	(御備立内習に関し御賞御酒御吸い物を下し置かれる、不明日(後日の記述で21日)に横内組宮田村で出火・類焼とも34軒焼失・後は代官が調べて報告する)
1863年	6月11日	文久3年	4月25日	快晴	
1863年	6月12日	文久3年	4月26日	快晴	
1863年	6月13日	文久3年	4月27日	曇	辰の刻過小雨降 則刻止
1863年	6月14日	文久3年	4月28日	快晴	(大手先武芸所で剣術稽古見分、照り続きに付五山に風雨順時重き御祈禱を申付ける)
1863年	6月15日	文久3年	4月29日	晴	
1863年	6月16日	文久3年	5月1日	曇	辰の刻過より小雨時々降 申の刻頃止(一昨年スツ・詰合之処御領(藩領)ならびに御調役長谷川儀三郎預場所之和人並びに土人共種痘に罷越悉皆施薬致し候に付御賞)
1863年	6月17日	文久3年	5月2日	晴	(今日五半時の御供揃えで大手先武芸所に御出、松平春嶽様(殿様の大叔父)政事総裁職御免御還塞・御家中御用のほか他出差しとどめる、去る15日江戸の本所 欄外(*)に続く
1863年	6月18日	文久3年	5月3日	晴	(勘定人の妻等が分限不相応の衣服・慎仰せ付けられる)
1863年	6月19日	文久3年	5月4日	晴	(長勝寺に風雨順時の重き御祈禱を仰せ付ける)
1863年	6月20日	文久3年	5月5日	晴	(昨晩暮六時過ぎ抜き身を持つ男が御家中間宮某宅に乱入・数人が重傷翌朝1人死亡、19日の石川村の火災は焼失34軒潰家3軒・駅としての人を出せないことを認める)
1863年	6月21日	文久3年	5月6日	晴	(御目見以下御留守居支配伊東某・大組足軽深堀某を町同心手にて召捕り揚屋入り)
1863年	6月22日	文久3年	5月7日	快晴	(間宮宅で負傷した傷の見分結果あり)
1863年	6月23日	文久3年	5月8日	曇	(21日の寺の出火で町火消が怪我・御手当銭50目下し置かれる、火消しの装束持参道具などを注意している)
1863年	6月24日	文久3年	5月9日	曇	寅の刻過より小雨時々降 巳の刻過止
1863年	6月25日	文久3年	5月10日	晴	(4日暮六時過ぎ蔵主町の間宮宅で狼藉が疑われた大組足軽は子細なしとして釈放) 下から続く 1枚焼失に付御定め通り過料銀1枚)
1863年	6月26日	文久3年	5月11日	曇	今日辰の刻頃雨降 則刻止(去月21日宮田村の火災の34軒に34俵・去月19日石川村の火災の35軒に35俵の御手当米を下し置かれる、石川村の火元の桶屋は御印札 上に続く
1863年	6月27日	文久3年	5月12日	曇	昨夜亥の刻過より雨降 今日二及時々降(人事異動、多くの盗み火付けの男を揚屋から入牢)
1863年	6月28日	文久3年	5月13日	曇	昨夜より之雨今日午の刻過止 下から続く 大赦で田中勝衛等の牢揚屋出8人?・他出御免等10人程)
1863年	6月29日	文久3年	5月14日	曇	(御備組御用に付御目見以上の面々の誰の門人かその稽古は等を20日までに書き出せと申し遣わす、本馬1疋1貫60文・軽尻1疋681文・人夫1人に付491文宛増とする、 上に続く
1863年	6月30日	文久3年	5月15日	曇	昨夜戌の刻過よりの雨今暁寅の刻過止 今日午の刻過より小雨時々降 夜二入り断(西館宇膳到着、毛内有右衛門を留守居組頭に等の人事異動)
					(*)吉田丁小笠原元屋敷の浪人200余人中4・5人を酒井繁之丞様等の御人数3・4000人で召捕る、江戸で人事異動、去る12日大殿様迎えの西館宇膳が到着・大殿様御下向を 下に続く 当分見合わせるとともに100人位の御国下がり仰せ付けられる)

1863年	7月1日	文久3年	5月16日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 今日辰の刻頃より小雨時々降 巳の刻過止 下から続く 江戸で人事異動、10万石以上に京警衛の指示、禁裏も平出)
1863年	7月2日	文久3年	5月17日	曇	卯の刻過より小雨時々降 巳の刻頃止 (神奈川江渡来の軍艦応接で指図次第出張のはずの山中兵部の代わりに楠見荘司とする、3月4日(将軍が)二条御城に御着座、 上に続く
1863年	7月3日	文久3年	5月18日	晴	(慈雲院庭廻りで鉄砲を打ったり小衫の皮を剥ぐ者あり心得違いと触れる)
1863年	7月4日	文久3年	5月19日	曇	今暁丑の刻頃よりの雨寅の刻頃止 卯の刻過より小雨時々降 未の刻頃止
1863年	7月5日	文久3年	5月20日	曇	(稽古出精の大筒隊鉄砲隊の19人に御賞) 22日から続く 22人の氏名あり)
1863年	7月6日	文久3年	5月21日	曇	辰の刻過より小雨時々降 未の刻過止 (勘定奉行の2人を大寄合格用人手伝いと的人事異動、去る4日暮六時頃間宮宅で3人を殺傷した伊東某を御給分召し上げ御片付けまで入牢)
1863年	7月7日	文久3年	5月22日	曇	午の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 (京都表守衛に10人頭分1人他に近衛様御警衛に10人頭分1人を登らせる・宿舎等も手配・武芸所は稲荷宮御取払いの上…… 20日に続く
1863年	7月8日	文久3年	5月23日	晴	(当3月4日朝五時過ぎ新町橋下で暴れた馬に乗り御家中に慮外のことをした雇仲間鞭刑18鞭居町払い、輸送中に抜芦の男2人に鞭刑6鞭宛居村徘徊これまで通り)
1863年	7月9日	文久3年	5月24日	曇	(黒滝主殿を帰参依子100俵勘定奉行に等的人事異動)
1863年	7月10日	文久3年	5月25日	晴	酉の刻頃より雨降 夜二入同断 (人事異動、京都行の服装・禄高の回答等が書いてある・多分禄高は2・3倍だろうな) 下から続く との触れ、去る8日深浦町同心が出奔)
1863年	7月11日	文久3年	5月26日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻過止 申の刻過より雨降 夜二入同断 (境内の杉伐り荒しの白虎寺を取木は御取り上げの上禁足) 下から続く 不埒の者あり・教育しろ 上に続く
1863年	7月12日	文久3年	5月27日	晴	昨夜よりの雨今暁子の刻頃止 丑の刻頃より雷鳴 卯の刻頃止(日照部分?記述なし) (今日五時半大手先武芸所に御出、寺社夜宮の節面体を隠し花火持参し群衆に投込む 上に続く
1863年	7月13日	文久3年	5月28日	曇	
1863年	7月14日	文久3年	5月29日	晴	
1863年	7月15日	文久3年	5月30日	快晴	(京都における提灯の印など御定めている、一昨25日晚青森町同心の母が酒狂いで同町の妻に手傷を負わせる)
1863年	7月16日	文久3年	6月1日	快晴	(一戸某の勘定奉行御免等的人事異動) 下から続く 済んでいない又は男子なき族は松前詰と同様仮養子名前封書にて銘々支配頭に差し出させる)
1863年	7月17日	文久3年	6月2日	快晴	亥の刻過より雨時々降 (大暑中御用向出仕:御用人五時・御家老中五時半時・四時半時退下、諸書付は五時より四時迄に差し出すよう申し遣わず、京都詰で悴の御目見が 上に続く
1863年	7月18日	文久3年	6月3日	曇	昨夜よりの雨の刻頃止 (京都の玉葉トントロ管はさしあたり10000放位を江戸表の内より運送)
1863年	7月19日	文久3年	6月4日	快晴	(今日五時半大手先武芸所江御出、人事異動、12月25日に熊嶋村で拾った脇差を拾得した町同心警固江下し置かれる)
1863年	7月20日	文久3年	6月5日	曇	今日午の刻過より雨降 酉の刻過止 (人事異動) 下から続く 大筒らしい用語としてフランスホート筒・アメリカホートあり、ミニエール筒は小銃?)
1863年	7月21日	文久3年	6月6日	曇	今日午の刻過より雨降 申の刻過止 8日から続く 22人の氏名あり、人事異動、小銃は江戸より3挺京都江登らせ後は京都で出来仰せ付ける・大筒も準備する・ 上に続く
1863年	7月22日	文久3年	6月7日	晴	(武術に出精として多数に人事異動・御賞(金150疋)御酒代(鳥目2貫文)、花火の投込み等に関し花火家業にも規制?、京都で用いる差物の図等がある)
1863年	7月23日	文久3年	6月8日	曇	今日辰の刻過より雨時々降 未の刻過止 午の刻過雷鳴 即刻止 (京都表江御守衛並びに御警衛登りの面々芙蓉の間で御目見・御酒御吸い物を下し置かれる、 6日に続く
1863年	7月24日	文久3年	6月9日	曇	申の刻過より雨降 今日巳の刻過止
1863年	7月25日	文久3年	6月10日	晴	
1863年	7月26日	文久3年	6月11日	快晴	(人事異動)
1863年	7月27日	文久3年	6月12日	晴	(水練教授方出精として御賞(銀5両・金100疋)、人事異動、用水不足で植え付けできない田畑が少なからずある)
1863年	7月28日	文久3年	6月13日	曇	申の刻過より小雨降 夜二入同断
1863年	7月29日	文久3年	6月14日	曇	昨夜よりの雨今辰の刻過止 (去る11月大手先より拾った短刀を拾った者に下し置かれる)
1863年	7月30日	文久3年	6月15日	曇	今日巳の刻過より雨時々降 夜二入同断 (花田某を町奉行に等的人事異動)
1863年	7月31日	文久3年	6月16日	曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止
1863年	8月1日	文久3年	6月17日	曇	卯の刻過より雨降 辰の刻過止 下から続く 江戸の?一番手二番手の氏名(60人位)あり)
1863年	8月2日	文久3年	6月18日	曇	(金某を碇ヶ関町奉行にと的人事異動、禁裏御所御守衛等の大砲は御国表より登らせケール筒3挺は江戸よりケール筒18挺は京都で出来仰せ付ける、非常御備え 上に続く
1863年	8月3日	文久3年	6月19日	晴	
1863年	8月4日	文久3年	6月20日	快晴	(人事異動)
1863年	8月5日	文久3年	6月21日	快晴	(祢婦た之儀大振りにするな・手の込んだ細工をするな・喧嘩口論するなどの触れ、禁裏付組頭差物等の図がある(7日の図と同じかもしれない))
1863年	8月6日	文久3年	6月22日	快晴	
1863年	8月7日	文久3年	6月23日	曇	巳の刻頃より雨降 申の刻過止
1863年	8月8日	文久3年	6月24日	晴	
1863年	8月9日	文久3年	6月25日	快晴	(人事異動、田屋所見継のためと称して御家中の隠居・子弟が店を出している例がある・これまでの不埒は許すが何町で何業をしているかを有体に申し出るよう申し付ける)
1863年	8月10日	文久3年	6月26日	快晴	(松前に届けなしに出で殺人の疑いを持たれた田中村のかんは殺人の疑いは晴れ他領出で12鞭親引き渡し)
1863年	8月11日	文久3年	6月27日	快晴	(足軽増に伴う多数の人事異動) 下から続く 扶持米8000・払米7000・定例37250石)
1863年	8月12日	文久3年	6月28日	曇	今日辰の刻過小雨降 即刻止 (江戸で人事異動、去年廻米の幕府への報告:江戸20000石(家中扶持米18000・払米2000・定例53342石)・大阪15000石(家中 上に続く
1863年	8月13日	文久3年	6月29日	晴	
1863年	8月14日	文久3年	7月1日	快晴	(人事異動、去月11日江戸で釜落某を御用人にと的人事異動)
1863年	8月15日	文久3年	7月2日	快晴	
1863年	8月16日	文久3年	7月3日	快晴	
1863年	8月17日	文久3年	7月4日	晴	戌の刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動)
1863年	8月18日	文久3年	7月5日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 未の刻頃より雨降 酉の刻過止
1863年	8月19日	文久3年	7月6日	快晴	
1863年	8月20日	文久3年	7月7日	快晴	
1863年	8月21日	文久3年	7月8日	快晴	(西館宇膳を家老職手伝い城代格に等的人事異動、殿様から御麻疹後脚気として参勤猶予を申し出ている) 下から続く 明細に書くよう仰せ出される)
1863年	8月22日	文久3年	7月9日	晴	(殿様が来年4月より6月までの京都警衛中在京(この場合は京都のこと?)を仰せ付けられた) 下から続く 奉公を厭い男子出生しても病死・女子と書出す例がある・ 上に続く
1863年	8月23日	文久3年	7月10日	曇	午の刻過雨降 申の刻過止 (山田登・笠原虎之助を諸手足軽頭に等的人事異動、福島金太郎の称号下し置かれ(津軽姓に戻る)高200石御加増、御給人の子弟が割付 上に続く
1863年	8月24日	文久3年	7月11日	曇	午の刻頃小雨降 即刻止 (殿様が来月18日発駕と仰せ出される、成田某を御使番に等的人事異動)
1863年	8月25日	文久3年	7月12日	晴	(南溜池で釣するなどの触れ)
1863年	8月26日	文久3年	7月13日	快晴	
1863年	8月27日	文久3年	7月14日	晴	
1863年	8月28日	文久3年	7月15日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (10日の人事異動に伴う?大幅な屋敷の変動、茶畑町の常府引越長屋の町割で街道幅を2間半に申しあげたが往来雪下等を考慮し3間幅にする)
1863年	8月29日	文久3年	7月16日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻過止
1863年	8月30日	文久3年	7月17日	快晴	
1863年	8月31日	文久3年	7月18日	快晴	(銅銭と銚銭(せんせん:鉄銭かと思うが)が取り交じり様に通用していたが……銅銭1文は2文に文銭(裏面の上部に文の字がある寛永通宝)1文は3文に通用させることとする)

1863年	9月1日	文久3年	7月19日	曇	申の刻頃より雨降 夜二入同断
1863年	9月2日	文久3年	7月20日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 夜二入同断 (御代官加勢に御賞(金300疋・200疋))
1863年	9月3日	文久3年	7月21日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及時々降 夜二入同断 (今朝六時の御供揃えで高岡に御参詣)
1863年	9月4日	文久3年	7月22日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 辰の刻過止 (西館丑太郎が平馬と改名)
1863年	9月5日	文久3年	7月23日	晴	(青物買い集め忍び売りの諸手足軽・御持筒足軽の妻に慎、類似の町民の青物御取り上げ戸ノ、これらの仲買人?に過料(銭1貫文・1貫800文))
1863年	9月6日	文久3年	7月24日	晴	
1863年	9月7日	文久3年	7月25日	晴	(杉山八兵衛を手廻組頭用人兼帯・山野角次郎を馬廻組頭に等の人事異動、昨年スツ・詰の伊東広之進(医者?)病気差合いもなく精勤に付御賞金200疋下し置かれる)
1863年	9月8日	文久3年	7月26日	曇	辰の刻過より雨時々降 午の刻過止 (近衛様御警衛登りの面々に大殿様御目見のつもりだったが代理有方)
1863年	9月9日	文久3年	7月27日	曇	今暁寅の刻過より雨降 辰の刻過止 (人事異動)
1863年	9月10日	文久3年	7月28日	曇	(三之丸御馬場で射芸高覧)
1863年	9月11日	文久3年	7月29日	曇	
1863年	9月12日	文久3年	7月30日	曇	未の刻過より小雨降 申の刻頃止
1863年	9月13日	文久3年	8月1日	曇	(御初米頂戴の御礼を御家老等が申しあげている:記載はないが数日前に差上げたということ、学問所惣司に津軽図書等を等の人事異動)
1863年	9月14日	文久3年	8月2日	曇	辰の刻過より小雨降 午の刻過止 (御徒の選考をしている、御制禁の衣類を着ていた女の夫の兄が30日間の戸ノ)
1863年	9月15日	文久3年	8月3日	晴	
1863年	9月16日	文久3年	8月4日	晴	(御賞)
1863年	9月17日	文久3年	8月5日	曇	(人事異動、御賞、近衛様より早々の上京を勧める直書あり) 下から続く 鳥目3貫文700文等を下し置かれる)
1863年	9月18日	文久3年	8月6日	曇	未の刻小雨降 即刻止 (黒滝主殿を長柄奉行格勅定奉行にとの人事異動、水練稽古教授片御徒7人に御賞銀5両宛、その他(昨日の直書持参等)に御賞200疋・御酒代 上に続く
1863年	9月19日	文久3年	8月7日	晴	10日から続く 借金は家内より上納させる)
1863年	9月20日	文久3年	8月8日	曇	辰の刻過より小雨降 未の刻過止 (屋敷替え、山田登を御持筒頭に等の人事異動、山田登と黒滝主殿の動向不束の儀有之候間御役御召し放たれ御沙汰中慎み仰せ付けられる)
1863年	9月21日	文久3年	8月9日	曇	(馬植段年増高値・13両限りに申し付ける、人事異動、昨8日森岡民部が御役職召し放たれる:8日の記述は?、山田登・黒滝主殿とも人事異動直後ののに)
1863年	9月22日	文久3年	8月10日	曇	今暁子の刻過より雨降 寅の刻頃止 (御手船英通丸が不埒な他領廻り・船頭の倅を6月13日取逃がす・船頭は病死し水主8人に1貫200文宛過料・出奔の八太郎(何者?)の 7日に続く
1863年	9月23日	文久3年	8月11日	曇	
1863年	9月24日	文久3年	8月12日	曇	巳の刻頃より雨降 申の刻過止 (山野角次郎を用人兼帯・山田豊吉を持鍵奉行に等多数の人事異動)
1863年	9月25日	文久3年	8月13日	晴	(八幡宮祭礼の通り筋にあたる戸ノの4人を免許)
1863年	9月26日	文久3年	8月14日	曇	申の刻頃より雨降 夜二入同断 (当二才駒寄は御止め・来年7月に三歳の面々……) 下から続く 馬沓400足・明松4800本を廻船便を以って御登らせ申し付ける)
1863年	9月27日	文久3年	8月15日	曇	昨夜よりの雨今暁子の刻過止 卯の刻過小雨降 即刻止 (八幡宮御祭礼・五時過ぎ三之丸御物見所江御出) 下から続く 8000足・秣1万8千貫(20疋分)・大豆36石・ 上に続く
1863年	9月28日	文久3年	8月16日	晴	(人事異動、御賞、当御参府御供登の面々は上京御供も仰せ付けられるはず……甲冑・陣笠・脊旗等は……) 下から続く 3か月の駐在で米1440石・味噌72石・草履 上に続く
1863年	9月29日	文久3年	8月17日	晴	今暁子の刻過より雨降 寅の刻過止 (青森町の星場は農事並びに往來に差障ると苦情・御仮屋星場を手入れの上砲術稽古を申付ける、京都御警衛の御人数大数800人・ 上に続く
1863年	9月30日	文久3年	8月18日	晴	(今日四時過ぎ殿様御駕籠)
1863年	10月1日	文久3年	8月19日	曇	今暁子の刻過より雨降 辰の刻過止
1863年	10月2日	文久3年	8月20日	曇	午の刻過より雨降 夜二入同断
1863年	10月3日	文久3年	8月21日	晴	昨夜よりの雨卯の刻過止 (大湯朝五郎を御旗奉行に等の人事異動)
1863年	10月4日	文久3年	8月22日	曇	巳の刻過より雨時々降 夜二入同断 (御賞、人事異動)
1863年	10月5日	文久3年	8月23日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 申の刻過止
1863年	10月6日	文久3年	8月24日	曇	今暁丑の刻過より雨降 未の刻過止 (文久永宝・鉄4文銭等の換算に関する記述あり・分らない)
1863年	10月7日	文久3年	8月25日	晴	(人事異動)
1863年	10月8日	文久3年	8月26日	曇	今暁丑の刻頃より雨降 未の刻過止 下から続く 手伝い御城代格に等の人事異動)
1863年	10月9日	文久3年	8月27日	曇	今日岩木山二雪初に見ゆる 辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (丹後者詮索送り返しの触れ、時疫流行・大行院で退散の御祈禱を行う、去る8日西館宇膳を御家老職 上に続く
1863年	10月10日	文久3年	8月28日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 (館山某を諸手足軽頭に等の人事異動)
1863年	10月11日	文久3年	8月29日	快晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 (御国引越日割:8月25日立3人・同28日3人・9月朔日2人・同4日2人・7日3人・10日2人・13日2人・16日2人・19日1人)
1863年	10月12日	文久3年	8月30日	快晴	(人事異動)
1863年	10月13日	文久3年	9月1日	快晴	
1863年	10月14日	文久3年	9月2日	曇	午の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (多数の御徒見習い等を採用する、浜手より直買魚の男2人に過料1貫200文・900文)
1863年	10月15日	文久3年	9月3日	曇	
1863年	10月16日	文久3年	9月4日	曇	
1863年	10月17日	文久3年	9月5日	晴	(人事異動)
1863年	10月18日	文久3年	9月6日	快晴	
1863年	10月19日	文久3年	9月7日	快晴	(喰川村の類焼共26軒中6人が難洪・1人に付1俵宛御手当米下し置かれる)
1863年	10月20日	文久3年	9月8日	快晴	(御賞・御酒代、人事異動)
1863年	10月21日	文久3年	9月9日	曇	申の刻頃雨降 即刻止 (人事異動)
1863年	10月22日	文久3年	9月10日	曇	卯の刻過小雨降 即刻止 (昨年御収納の節米拵(こしらえ:俵に作ること)格別として8人に御酒代鳥目700文宛下し置かれる、人事異動、当2月28日江戸で御門限破り・御奉公遠慮)
1863年	10月23日	文久3年	9月11日	曇	未の刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 他領者と姦通として9鞭居町徘徊これまで通り・この男は二度と立ち入りないよう申し付け碇ヶ関口送り返し・ 欄外(*)に続く
1863年	10月24日	文久3年	9月12日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 卯の刻過止 (人事異動、表医者の母姉妹の他出差留) 下から続く 下旬宿元に帰り旅費を払えず当5月男に傷をつけられた女に他領出・ 上に続く
1863年	10月25日	文久3年	9月13日	曇	(隣人の妻に傷をつけた青森町同人の母に24鞭だが女であり15鞭と残りを贖銭(12貫文)の上納を申付ける、一昨年11月無届で蝦夷地に渡り秋田大館の男と一緒に4月 上に続く
1863年	10月26日	文久3年	9月14日	曇	辰の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (御国引越の御家中の到着の日計り膳料並びに炭流木下し置かれる・階級によるが御目見以下は銭14文目・炭炭2俵・流木5文目代)
1863年	10月27日	文久3年	9月15日	晴	昨夜よりの小雨今暁丑の刻頃止 (この度格段の御省略に付御賞渡し物は炭・流木・芦・綿・味噌並びに当節必要な鉄砲のみとする、質に入っていた長勝寺の 欄外(**)に続く
1863年	10月28日	文久3年	9月16日	快晴	
1863年	10月29日	文久3年	9月17日	曇	卯の刻頃より雨降 酉の刻過止
1863年	10月30日	文久3年	9月18日	曇	辰の刻頃より雨時々降 巳の刻過止 (去月25日江戸発御国引越の3人が到着、八木橋某が大きき不明(300目筒か)の大砲を70両で巻立て2度目以降は40両とすることで買入れる)
1863年	10月31日	文久3年	9月19日	晴	

(*)関係者に戸ノ等の罰、密通した妾を殺した以前早道の者を永牢・関係者は非常大赦の前としてご容赦)

(**)盗品を返したら又質に持ち込んだという変な話・深見村の庵主が逃げ去る)

1863年	11月1日	文久3年	9月20日	快晴 (去月28日江戸発御国引越の2人が到着) 下から続く 隊長に300疋兵士に200疋宛頂戴、近衛様御警衛も同様の(26日京都着等)報告あり、江戸で人事異動)	
1863年	11月2日	文久3年	9月21日	晴 (この度浜町御屋敷焼失に付嘉永7年柳島小屋敷類焼の前例で対処) 下から続く 26日三条様より御呼出で参殿・28日馬揃え御覧・去る晦日禁裏御所より御守衛の	上に続く
1863年	11月3日	文久3年	9月22日	快晴 下から続く 箱館スツ・詰(計300人)御人数交代が済んだと公儀報告、(9月8日)殿様千住御発駕御老中様方御廻の上御着府、7月15日に御守衛の面々京都着・	上に続く
1863年	11月4日	文久3年	9月23日	曇 卯の刻過より小雨時々降 夜二入同断 (江戸で人事異動、今(9月)5日晩九時頃江戸馬喰町辺町家より出火・浜町御中屋敷江飛び火・御殿向き並びに御長屋2棟御焼焼、	上に続く
1863年	11月5日	文久3年	9月24日	曇 昨夜よりの雨今暁丑の刻頃止 (御国引越の御家中が続々届く、この度在方帯刀役江鉄砲稽古を仰せ付けられ候に付……)	
1863年	11月6日	文久3年	9月25日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1863年	11月7日	文久3年	9月26日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1863年	11月8日	文久3年	9月27日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1863年	11月9日	文久3年	9月28日	曇 今暁丑の刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動)	
1863年	11月10日	文久3年	9月29日	曇 昨夜よりの雨今暁丑の刻過止	
1863年	11月11日	文久3年	10月1日	曇 今暁寅の刻頃より雨降 夜二入同断 (人事異動)	
1863年	11月12日	文久3年	10月2日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻頃止	
1863年	11月13日	文久3年	10月3日	曇	
1863年	11月14日	文久3年	10月4日	曇 ((書いてないが)去月21日暁松森町で出火・類焼あり・火元松木屋入寺の上慎)	
1863年	11月15日	文久3年	10月5日	快晴 下から続く 江戸で門限破りあり他出差し留め等の罰)	
1863年	11月16日	文久3年	10月6日	曇 申の刻過より小雨時々降 夜二入断 (勤向き我俣として坊主小頭格表坊主を掃除小人に役下げ) 下から続く 京都の大砲は大坂から回さず御国表の物が届く、	上に続く
1863年	11月17日	文久3年	10月7日	曇 昨夜よりの小雨今日二及 午の刻過止 (人事異動、銅銭312匁目金に直し3000両……) 下から続く 稽古に乗船願いが認められる、去々22日江戸で人事異動、	上に続く
1863年	11月18日	文久3年	10月8日	晴 酉の刻頃より雨降 夜二入同断 (野火入り隠炭焼きがある山方警固を呼上げる、この度公儀軍艦臨丸を浦賀で修復し長崎江御廻・船具拵方詮索並びに航海術	上に続く
1863年	11月19日	文久3年	10月9日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 未の刻頃止	
1863年	11月20日	文久3年	10月10日	快晴 (人事異動) 下から続く 主殿の50俵召上げ慎み御免塾居俸は御目見以上御留守居支配に・森岡民部の慎み御免塾居俸に高600石御使番退役御留守居組にとの人事異動)	
1863年	11月21日	文久3年	10月11日	曇 (北原某を大寄合格御用人手伝いに等の人事異動、十三水戸口開き直し以前の水戸江切り開くこととする、山田登の慎み御免塾居俸は御手廻退役御留守居組に・黒滝	上に続く
1863年	11月22日	文久3年	10月12日	晴	
1863年	11月23日	文久3年	10月13日	曇	
1863年	11月24日	文久3年	10月14日	快晴	
1863年	11月25日	文久3年	10月15日	快晴 (人事異動)	
1863年	11月26日	文久3年	10月16日	曇 午の刻頃より雨降 夜二入同断 下から続く 召捕る、他領者を止宿させた男に注意・似た事件沢山)	
1863年	11月27日	文久3年	10月17日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 (40年間出精の庄屋に御酒代鳥目2貫文・31年間の五人組に500文下し置かれる、人参を盗み取られたという男が胡乱なので	上に続く
1863年	11月28日	文久3年	10月18日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 (人事異動、二之丸に馬を差し上げた男2人に金10両宛下し置かれる、去月29日夕三厩湊領上宇鉄村に寄船・中物預け置)	
1863年	11月29日	文久3年	10月19日	曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 下から続く 関係者に戸丿、所々で盗徒の御持槍の祖父等8人に6鞭宛、笠原虎之助の半知召上げ塾居・俸を高50石御留守居組に)	
1863年	11月30日	文久3年	10月20日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 23日から続く 通り、御蔵より御米6俵を盗み取った鯉ヶ沢町の男に3鞭居町徘徊これまで通り・御蔵立会・御蔵奉行に御奉公遠慮	上に続く
1863年	12月1日	文久3年	10月21日	快晴 (人事異動) 下から続く 庄屋が不案内と法事に心を入れ御免、大赦・碇ヶ関口より送り返し・行方不明者の居村徘徊御免・野火が入った46ヶ村の御締まり向き御免等々)	
1863年	12月2日	文久3年	10月22日	曇 巳の刻過より雨降 申の刻過止 (不明日に柏木組中泉村の飯子が橋を渡る際に川に落下・もう一人の飯子が助けに入り共に溺れ死ぬ・見分なしの片付け不法だが	上に続く
1863年	12月3日	文久3年	10月23日	曇 (当6月13日夜浪岡村川原地の硝石焚出小屋で?博奕の5人に3鞭宛居村徘徊これまで通り、当6月24日明七時刻隠米2俵の男の米と馬を御取り上げ6鞭居村徘徊これまで	20日に続く
1863年	12月4日	文久3年	10月24日	晴 下から続く 不時金200兩を預ける、道中の駅で行き違い次第引き返し仰せ付ける)	
1863年	12月5日	文久3年	10月25日	晴 下から続く 之儀は覚束なく是迄と時勢替り……、多分江戸で人事異動、この度御手廻10人鉄砲組20人を御登りの道中より引返させる。(これに関し)15日立の家中に	上に続く
1863年	12月6日	文久3年	10月26日	曇 今日雪降 一寸程積 下から続く 並びに御武器御運送成されそうらえどもすでに長州にて兵端開き候儀なれば外夷来航の仕儀により追々600里余之海路無事着岸	上に続く
1863年	12月7日	文久3年	10月27日	晴 (自分物入り以外の少し分の開発御止めの提案?) 29日から続く 先々代の位牌が何時か届く……、京都御守衛の儀に付これまで大阪江御廻米の姿を以て兵糧	上に続く
1863年	12月8日	文久3年	10月28日	快晴 (今日武場で種田流槍術御名代が見分・大寄合以上見物、公儀御同心2人が町居村の男を召捕る・この警備?に町同心が出て役向きとして羽織着用・羽織が不法?としてもめている)	
1863年	12月9日	文久3年	10月29日	曇 (境内の木を伐り荒らした寺院から伐った木を御取り上げ禁足) 下から続く 御上京は御免の上箱館御警衛及び御領分御防衛御専務二心得るようとの書付を貰う、	27日に続く
1863年	12月10日	文久3年	10月30日	曇 今日雪少し降 下から続く 山迦農煩(山カノン砲?)3挺同モンテンイ煩6挺を武州川口宿で鑄造して・去る6日に御用番水野和泉守に御届書を差し出す、殿様の明年	上に続く
1863年	12月11日	文久3年	11月1日	曇 (千葉周助を御長柄奉行に等の人事異動、ケヘル台出来方出精……) 下から続く 江戸柳島御屋敷で非常一番手御人数の御備立内習を御家老中が見分、唐銅	上に続く
1863年	12月12日	文久3年	11月2日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御留守居組野呂某の不行跡の姉が当4月嵩で患者寄合博奕・他出差留め慎み親類見継とする・この患者共に押込・戸丿過料等の罰、	上に続く
1863年	12月13日	文久3年	11月3日	曇 昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積	
1863年	12月14日	文久3年	11月4日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (今日武場で家老が槍術見分、人事異動) 下から続く (誰にかはわからない・記述の流れから京都に派遣したメンバー?)戻す)	
1863年	12月15日	文久3年	11月5日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (31年実貞の庄屋に御酒代鳥目1貫500文、硝石250斤を差上げの申出に御買上とする、罷り登りの面々に御用状を持たせ行違い次第	上に続く
1863年	12月16日	文久3年	11月6日	曇 (内意書に加筆が不届きとして勘定入加勢引取り慎み・関係者に30日押込め)	
1863年	12月17日	文久3年	11月7日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (武芸引擔(引っ担ぎ?)・ひっかつぎ)取扱格別として3人に銀子3枚宛下し置かれる・関係者にも銀子金300疋御酒御吸い物等、人事異動)	
1863年	12月18日	文久3年	11月8日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 (今日武場で家老が長刀見分、去月20日夜松森町焼失の者4人難渋・居下出人夫20日間御免)	
1863年	12月19日	文久3年	11月9日	晴	
1863年	12月20日	文久3年	11月10日	晴 (今日武場で家老が長刀見分、去る8月俸に嫁取りの唐竹村の漆役が三味線など引き鳴らし賑はかし(賑すの津軽弁?)候・不埒として漆役取放、不埒な面改めに過料銭1貫800文)	
1863年	12月21日	文久3年	11月11日	快晴 (当8月浜田村を遊山姿で太鼓を打ち鳴らしながら往来した男に15日押込め太鼓御取り上げ、人事異動) 下から続く 消えてからとする・28日振りの計画・	欄外(*)に続く
1863年	12月22日	文久3年	11月12日	曇 今暁寅の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 (去月8日殿様は上京御免の上箱館御警衛及び御領分御防衛御専務になる、当御下向道中は極寒の時節……女中は明春雪	上に続く
1863年	12月23日	文久3年	11月13日	曇 昨夜雪強 雪二寸程積 今日雪降 三寸程積	
1863年	12月24日	文久3年	11月14日	曇 昨夜雪強 雪一寸程積 今日雪少し降 (人事異動)	
1863年	12月25日	文久3年	11月15日	曇 今日雪降 五寸程積 (人事異動、個人的に船を雇い内陸の者が渡海して鮮場稼ぎに行くことを禁じている)	
1863年	12月26日	文久3年	11月16日	曇 昨夜雪降 九寸程積 (今日武芸所で家老が槍術見分)	
1863年	12月27日	文久3年	11月17日	快晴 (牢内で大病の長柄の者の親を宿下がり)	
1863年	12月28日	文久3年	11月18日	曇 今日雪少し降	
1863年	12月29日	文久3年	11月19日	曇	
1863年	12月30日	文久3年	11月20日	曇 今日雪降 五寸程積	
1863年	12月31日	文久3年	11月21日	曇 今日雪少し降 (去る15日夕八時半頃寝月エカミ崎に2本柱の秋田様御手船難船・乗員無事)	

(*)行列の人数あり、御所御守衛の人数が返されたので近衛様御警衛の増に仰せ付けられる、幡籠丸?(幕府の西洋式帆船であろう)に樋口某と小寺某を乗り組ませる)

1864年	1月1日	文久3年	11月22日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (鉄砲手入れ方精勤の青森町同心に御酒代鳥目500文下し置かれる)
1864年	1月2日	文久3年	11月23日	曇	下から続く 御廻船に振分けて国下がりとする、鉄砲師・台師・工場を国に作れとの提案あり、人事異動)
1864年	1月3日	文久3年	11月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (人事異動、この度上京使用予定の砲(ライフル砲3挺・米ホート砲3挺・仏ホート砲3挺・山加農3挺)を御国表御旗本御備配・ 上に続く
1864年	1月4日	文久3年	11月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (雇薦8人採用、殿様の江戸発駕を御不例にて日延べ・来月上旬とする)
1864年	1月5日	文久3年	11月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1864年	1月6日	文久3年	11月27日	曇	今日雪降 二寸程積 (今日退出より翰師町江御取立てに相成り候鉄砲寄合?細工所を見分)
1864年	1月7日	文久3年	11月28日	快晴	昨夜雪降 三寸程積 (並木松等を徒伐りするなどの触れ)
1864年	1月8日	文久3年	11月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (杉山八兵衛が譜代の家来2人(20石3人扶持と20石)を召抱える) 下から続く 坊主を乞食手で取り押さえ揚屋入り)
1864年	1月9日	文久3年	12月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積 (小山内清之丞を御徒頭格に等の人事異動、御賞金150疋・御酒代2貫文2貫500文) 下から続く 太刀打村出生の浄土 上に続く
1864年	1月10日	文久3年	12月2日	晴	(悪戸村の警女(こせ・盲目の遊芸?者)が産神の託宣に託し種々妄言人気動揺・師匠元で業具取り上げ他出差留め、女こきん(こきん刺し)等々を盗んだ秋田出生と称する 上に続く
1864年	1月11日	文久3年	12月3日	快晴	酉の刻頃より雨時々降 夜二入断続 6日から続く 暮六つ時頃蔵主町間宮宅で殺人の元御目見以下御留守居支配伊藤某を(牢前で)斬罪、盗み米蔵に火付男を斬罪)
1864年	1月12日	文久3年	12月4日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 今日雪少し降 (人事異動) 下から続く 100枚に付1文目1分5厘(意味不明で書く)、牢屋から御仕置場への通路は決まっていなかったみたい)
1864年	1月13日	文久3年	12月5日	晴	(紙漉の手順とその値段:御国楮にて漉立並半紙1帖に付6分3厘・並楮では1帖に付7分1厘8毛・楮漉並半切100枚に付1文目8分・反古漉下半切100枚に付1文目6分下々半切 上に続く
1864年	1月14日	文久3年	12月6日	曇	今日雪降 八寸程積 (薬師堂村の者共と山争いで殺人?の乳井村の男が傷寒で宿下がり、申年(今年は亥年)10月22日に殺人の男を村中引廻し刎首獄門、5月4日 3日に続く
1864年	1月15日	文久3年	12月7日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1864年	1月16日	文久3年	12月8日	晴	昨夜雪降 一寸程積
1864年	1月17日	文久3年	12月9日	曇	今日雪降 三寸程積
1864年	1月18日	文久3年	12月10日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積
1864年	1月19日	文久3年	12月11日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (去月29日酔った友人を助け起こす際に金子を取った?男を揚屋入り)
1864年	1月20日	文久3年	12月12日	晴	
1864年	1月21日	文久3年	12月13日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 一寸程積
1864年	1月22日	文久3年	12月14日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (足軽代目付を本役に勤料増との人事異動)
1864年	1月23日	文久3年	12月15日	曇	(人事異動)
1864年	1月24日	文久3年	12月16日	快晴	
1864年	1月25日	文久3年	12月17日	晴	昨夜雪少し降 (大筒隊鉄砲隊奇銃隊御家老と力御手廻と力大組と力は月2度・一度に10放の訓練をしる・4月より9月の間その玉薬(10放の内4放は鉛玉6放は鉄玉)を下し置かれる)
1864年	1月26日	文久3年	12月18日	曇	今日雪少し降 (この度鉄払床・鍛冶共の稼業成り立ちがたい・南部方面に手をまわして……)
1864年	1月27日	文久3年	12月19日	曇	昨夜雪降 一寸程積 下から続く 同じはずだが最近見ないな)合船仰せ付けられ製造方心得の石郷岡某を御国表に御国下がり申し付ける・和船5艘も作る計画あり)
1864年	1月28日	文久3年	12月20日	曇	(青森の類焼の内の2軒の御物成を一年間御免、明年君澤村(2本櫓の西洋式帆船:原型はロシア使節ブチャーチンが帰国時に戸田の船大工に作らせたもの:青森丸も 上に続く
1864年	1月29日	文久3年	12月21日	晴	
1864年	1月30日	文久3年	12月22日	曇	今日雪少し降 (人事異動)
1864年	1月31日	文久3年	12月23日	曇	今日雪降 一寸程積 25日から続く 口利きの男も同様、江戸で人事異動、去る12月類焼の道中白沢駅の御本陣から御金拝借願・手当金5両下される)
1864年	2月1日	文久3年	12月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積 (人事異動、日雇い頭6人を仰せ付ける、箱館で召捕った男を連行した町目付等に御賞金100疋・御酒代鳥目1疋宛)
1864年	2月2日	文久3年	12月25日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (去月28日殿様が御国許江御暇を貰う、十八神道という用語がある、藤崎八幡宮夜宮で不埒な衣類の男に押込30日・捕えた目目に 23日に続く
1864年	2月3日	文久3年	12月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (福土豊蔵と間山広吉を海軍方稽古登りとする・篠崎進の申出、6月14日に藤崎八幡宮夜宮で不埒な衣類の男を取り押さえ 欄外(*)に続く
1864年	2月4日	文久3年	12月27日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積 (去る戌年(今年は亥年)の御収納納定が早かった代官に御賞(金150疋・二番三番が100疋)・手代にもお酒代、3人を他出差し留め)
1864年	2月5日	文久3年	12月28日	晴	(相馬棒を諸手足軽頭に等の人事異動、大砲と鉄丸を手堅く出来上納の八木橋某に御賞金300疋、足軽目付や町同心があちこちで闇物資を捕え売払った4ヶ1(25%のこと)を貰っている)
1864年	2月6日	文久3年	12月29日	晴	(人事異動)
1864年	2月7日	文久3年	12月30日	曇	(医者2人に御薬代1歩宛下し置かれる) 下から続く これ以上は100石に1挺宛増・御差引はこれまで通り)
1864年	2月8日	文久4年	正月1日	曇	今日雪少し降 (松前御陣屋あての水油と偽って……樽に入った品は確認しにくい・対策を採っている、高100石より190石迄の御家中の族に西洋砲の内1挺宛御貸渡し・ 上に続く
1864年	2月9日	文久4年	正月2日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 午の刻過より雨雪降 酉の刻過止 (御国入差留の越後の薬屋が土手町に来た・大凡200両位薬種代貸付残なのだそう)
1864年	2月10日	文久4年	正月3日	曇	昨夜吹雪強 今日吹雪強 雪三寸程積
1864年	2月11日	文久4年	正月4日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1864年	2月12日	文久4年	正月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 下から続く 等の御目付け触れ、江戸で人事異動)
1864年	2月13日	文久4年	正月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 下から続く 御軍艦にて御上浴遊ばされる・御留守中御家中の面々並びに又者に至迄猥二他出致さざる儀並びに火の元注意 上に続く
1864年	2月14日	文久4年	正月7日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 一寸程積 (七種の御祝儀) 下から続く 12月15日より江戸の周りの関所の調べが厳しくなった?、公方様今27日五半時御供揃え 上に続く
1864年	2月15日	文久4年	正月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 下から続く 仮葬とする、去月晦日八幡崎村の明道庵が出火・類焼等なし、去月27日江戸発道中8日振りの飛脚が今日到着、 上に続く
1864年	2月16日	文久4年	正月9日	晴	昨夜雪少し降 (秋田茂屋村の男を村送りで旋ヶ関で病死・村は遠くないので飛脚を送り身内の存在引取手を探す・いれば引取らせなければ無宿として碇ヶ関の庵寺に 上に続く
1864年	2月17日	文久4年	正月10日	曇	(碇ヶ関に置いた秋田の死人は身内の者兩人が来て引取る、和徳町の鍛冶職が大砲と鉄玉手堅く出来・武具蔵御用職人江仰せ付けたのかな?)
1864年	2月18日	文久4年	正月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1864年	2月19日	文久4年	正月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積
1864年	2月20日	文久4年	正月13日	曇	今日雪少し降
1864年	2月21日	文久4年	正月14日	晴	下から続く 置かれる、御弦並びに御矢を差上げた御弓師矢市に御祝儀鳥目1貫文宛下し置かれる)
1864年	2月22日	文久4年	正月15日	曇	今日雪降 八寸程積 (人事異動、去々年10月から去年9月迄に精勤の御蔵立会5人と御蔵奉行12人に御賞(金100~200疋)・拵頭巻頭等に御酒代(鳥目300~1貫文)下し 上に続く
1864年	2月23日	文久4年	正月16日	曇	下から続く 8文目ケヘール筒代581文目9分・8文目騎銃代552文目2分・6文目騎銃代536文目6分・イギリス形ミニエール筒代801文目5分)
1864年	2月24日	文久4年	正月17日	曇	(この度御家中100石相当以上の族に100石に1挺宛西洋砲を御貸渡し・ミニエール筒並びにケヘール筒カラヘイン筒は値段が異なる:6文目小銃皆具(以下同)代561文目3分・ 上に続く
1864年	2月25日	文久4年	正月18日	曇	今日雪少し降
1864年	2月26日	文久4年	正月19日	晴	
1864年	2月27日	文久4年	正月20日	晴	昨夜雪少し降
1864年	2月28日	文久4年	正月21日	曇	(昨年10月御徒目付等2人を仙台南部両国見分・南部領罷通りの節は名前等も偽り・後何をしたのかわからない)
1864年	2月29日	文久4年	正月22日	曇	未の刻過より小雨降 酉の刻頃止

(*)酒で内済にした村目明し4人に3鞭居村徘徊これまで通り)

1864年	3月1日	文久4年	正月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日吹雪強し 雪三寸程積
1864年	3月2日	文久4年	正月24日	曇	吹雪強 雪三寸程積 今日雪少し降 (秋田横手の男牢死、去る12月類焼の道中白沢駅御本陣宇梶某から金100両の拝借願・御手当金5両下し置かれる)
1864年	3月3日	文久4年	正月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (十三町願龍寺に能州の胡乱な者が止宿・大間越御關所口に送り返す)
1864年	3月4日	文久4年	正月26日	快晴	下から続く 十三町に無刻印の船大小26艘あり・鮮場行きなど類似例沢山あり・糶米に上方船が1人に付5斗御国松前南部とも2斗宛という古来からの定めで上方名目もある)
1864年	3月5日	文久4年	正月27日	曇	今日雪少し降 (大殿様に御葉差し上げた手塚某に御葉代金1歩下し置かれる、越前越後松前等他国名目で合船あり・当人の御咎めは申すに及ばず……注意させている、 上に続く)
1864年	3月6日	文久4年	正月28日	曇	今日雪降 一寸程積 (武芸締方に銀1枚下し置かれる。去る5日秋田の送り返し男が途中で死亡・連絡したら金が届く、江戸で12月28日非常一番手に22人その他の人事異動)
1864年	3月7日	文久4年	正月29日	曇	今日雪降 二寸程積 (この度鉄払底・差し留めの品ではあるが堺表江鎌注文する)
1864年	3月8日	文久4年	2月1日	快晴	昨夜雪少し降 (近来浜手附共買入代錢を払わない等仕癖悪い・注意する、綿を荒物と偽って送受の例あり注意する、繆ヶ沢湊日付2人を仰せ付ける・不祥事に関する人事異動かな?)
1864年	3月9日	文久4年	2月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 三寸程積 6日から続く 国下がり、去る11月21日大坂大火で御館入山中某等の居宅類焼、年賦銀渡す、江戸で火の元不締りの足軽を押込め)
1864年	3月10日	文久4年	2月3日	曇	今日雪少し降 (御手船青森丸を江戸廻しの節雪中と申しながら過分の金高を申し出た勘定人2人を御目見以下御留守居支配に役下げ)
1864年	3月11日	文久4年	2月4日	快晴	下から続く 542文目7文・イギリス形ミニケール筒835文目5分・フランス形ミニケール筒727文目5分、石高別の年割御差引もある)
1864年	3月12日	文久4年	2月5日	晴	(西洋砲の値段が変わっている:6文目小銃代285文目4分皆具共々567文目7分5厘・以下皆具共8文目ケール筒588文目3分5厘・6文目騎銃筒542文目7文・8文目騎銃筒 上に続く)
1864年	3月13日	文久4年	2月6日	晴	(江戸で人事異動、当月中旬の御発駕を不例に付来月下旬と仰せ出される、公迎にお願いのケール筒500挺の内170挺が神奈川表に届く、石郷岡島を君澤形合船御用で 2日に続く)
1864年	3月14日	文久4年	2月7日	快晴	(百沢御本社御普請で銅板・金箔等が出てくるが分らない)
1864年	3月15日	文久4年	2月8日	晴	(在方帯刀役江砲術(砲術)稽古仰せ付けられ惣組江3刃5分玉筒100挺位拝借の儀申し出・1尺7寸の短筒70挺を合せて都合する、硝石仕込み小屋等を無税・資材人夫も用意している)
1864年	3月16日	文久4年	2月9日	曇	今日雪少し降
1864年	3月17日	文久4年	2月10日	快晴	(京都御守衛で病気になる際の葉代が……箱館詰めにはあるのに、人事異動)
1864年	3月18日	文久4年	2月11日	曇	今日雪降 二寸程積 (人事異動、久渡寺境内に大勢の不法な薪取が入り込む)
1864年	3月19日	文久4年	2月12日	晴	下から続く 一昨年8月の参詣についても脇差を取り上げているが若干軽い罰、尾崎組唐竹村・藤代組廻関村の百姓2人に桑仕立方に御取立て名字帯刀御免)
1864年	3月20日	文久4年	2月13日	快晴	(土留めに入用として無刻印の木を貰い受けた飯詰組手代の木品御取上げ押込30日・関係者にも罰) 下から続く 違法と衣類御取上げ戸々30日・類似例多数、 上に続く)
1864年	3月21日	文久4年	2月14日	曇	辰の刻過より小雨時々降 夜二入同断 下から続く 800文宛・附太鼓打叩き往來の男4人の太鼓御取上げ戸々15日、昨年10月の葬儀の砌に妻等が着用衣類が 上に続く)
1864年	3月22日	文久4年	2月15日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 午の刻過止 (去る8月岩木山参詣の砌:御制禁の脇差を持参した男11人の脇差御取上げ・身分不相応の衣類着用の男女4人に過料1貫 上に続く)
1864年	3月23日	文久4年	2月16日	曇	卯の刻過より雨時々降 未の刻過止 下から続く 金木分御免の申出・それに近いように認めているらしい)
1864年	3月24日	文久4年	2月17日	晴	(闇魚売りを取押え過料錢1貫200文売払い大錢は御取上げ) 下から続く 又は300文下し置かれる、十三小廻船が年々減少・金木・八幡・十三御蔵の小廻米の内 上に続く)
1864年	3月25日	文久4年	2月18日	曇	辰の刻過より雨時々降 未の刻過止 (棟方秀一を高150石に召し直す等の人事異動、稽古出精と32人に御賞銀3両宛・昨年御発駕籠の節骨折りとして御酒代鳥目1貫文 上に続く)
1864年	3月26日	文久4年	2月19日	晴	
1864年	3月27日	文久4年	2月20日	快晴	
1864年	3月28日	文久4年	2月21日	快晴	(能州の胡乱な者(翌日に記述で行念寺二男)を大間越關所外まで同心が付き添い送り返す、馬廻の弟を町同心手で召捕り揚屋入り・病気で医者への添え書きで待っているのかな?)
1864年	3月29日	文久4年	2月22日	快晴	(人事異動、殿様御下向に関して日程が分からず苦労しているらしい、面改めに苦労しているらしい)
1864年	3月30日	文久4年	2月23日	快晴	(引払い後燃え上がった横川御屋敷御庭内箱番所番人を役下げ)
1864年	3月31日	文久4年	2月24日	晴	(馬乗りの諸役人に在方のものが在町往來の節無礼あり叱られる)
1864年	4月1日	文久4年	2月25日	快晴	(勤料増等の多数の人事異動)
1864年	4月2日	文久4年	2月26日	曇	未の刻過より小雨時々降 酉の刻過止
1864年	4月3日	文久4年	2月27日	快晴	(朔日四時前に御目見以上並びに惣与力に登城の触、近年寺院の改修等で華美に流れている・抑えている)
1864年	4月4日	文久4年	2月28日	晴	(一昨年異人共と板の販売で違約の三蔵等の3人に戸々20日仰せ付ける、隠れ居賭の6人に過料1貫200文の上商売差留め・五人組等は御用捨庄屋2人には過料600文、人事異動)
1864年	4月5日	文久4年	2月29日	晴	
1864年	4月6日	文久4年	3月1日	晴	(西洋砲並びに小銃を専ら稽古しろとの御意・5歳以下15歳以上の当勤並びに二三男共砲家入門するよとの触れ、人事異動)
1864年	4月7日	文久4年	3月2日	晴	(豪家の妻子が乗懸馬の際の奴儀の者の長脇差・編笠日傘・衣食住等に規制がかかっている、医学館の印がない消毒薬で葉御取上げの上戸々20日・関係者には注意)
1864年	4月8日	文久4年	3月3日	曇	下から続く 並びに……明り油締方等の新技術の提案があり検討している)
1864年	4月9日	文久4年	3月4日	快晴	(当平館詰者頭明日日出立、武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、焰硝焼方並びにトントロ製方・鉄砲5放打方(機関銃的な物?)そのほか鉄砲受板拵方 上に続く)
1864年	4月10日	文久4年	3月5日	曇	今日雪降 四寸程積
1864年	4月11日	文久4年	3月6日	曇	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、勝手に弘前に家内引き移り住居の男(苗字あり)に帰村の上戸々20日・関係者にも罰)
1864年	4月12日	文久4年	3月7日	快晴	(前々御差留の水油津出が油川湊口等々から密に行われていたらしい・碓ヶ関町奉行油川港目付等に吟味をしっかりと申し付ける)
1864年	4月13日	文久4年	3月8日	快晴	(去る11月12日の大時化で岩崎村磯より100間位沖合に大(高さ1丈1尺5寸廻3丈3尺位)小(高さ9尺廻6尺くらい)二つの岩が現れる・図が書かれている)
1864年	4月14日	文久4年	3月9日	快晴	(江戸で人事異動、縁組願の差し出し方等を簡略化した?、三子ケール(ミニケール・ミニエール?)72挺御買入れ、当月下旬予定の御下向を来月下旬御発駕と仰せ出される)
1864年	4月15日	文久4年	3月10日	曇	辰の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 巳の刻過雷鳴 霰少し降 即刻止 (武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、人事異動、前金を貰い品物を 欄外(*)に続く)
1864年	4月16日	文久4年	3月11日	快晴	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、スツ・詰者頭棟方某が明後20日出立、道中所々江印鑑差出通と公迎からの指示・御留守居印鑑300枚程 16日に続く)
1864年	4月17日	文久4年	3月12日	快晴	(去る7日夜横内組原別村で出火・建屋16軒等焼失・火元百姓他村預け、昨9日黒石表勘定人川村某が火元で400軒余門徒宗円覺寺土蔵10ヶ所位焼失・7人位 欄外(**)に続く)
1864年	4月18日	文久4年	3月13日	快晴	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物)
1864年	4月19日	文久4年	3月14日	快晴	酉の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、人事異動)
1864年	4月20日	文久4年	3月15日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻過止 (宇鉄村に流れ寄せた船から盗みの男2人を捕え揚屋入りとしたが癪癖の由……弘前に届いたが揚屋に入れられないので帰村申し付け……)
1864年	4月21日	文久4年	3月16日	快晴	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物) 18日から続く 送る、人事異動、松前御陣屋江の水油と偽って醤油を送り売っている・御締まりを申し付ける)
1864年	4月22日	文久4年	3月17日	快晴	(箱館詰者頭白取某が明18日日出立、小泊湊目付方から沢山の流失船の報告・定めの通り5日探したら直ぐに報告するように申し付ける、人事異動)
1864年	4月23日	文久4年	3月18日	快晴	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、人事異動、……トントロ方御備え置きホクスメートルと申す……)
1864年	4月24日	文久4年	3月19日	快晴	下から続く 二・三之丸御門……御玄関前・御本城北御門・武者屯・西之御郭・北之御丸の5ヶ所の御門……、繆ヶ沢で米1俵60目立・青森で61文目立に申し付ける)
1864年	4月25日	文久4年	3月20日	晴	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、人事異動) 下から続く 暮六時打ちで御本城の御白砂・武者屯両御門閉開……坂下・北之丸御門…… 上に続く)
1864年	4月26日	文久4年	3月21日	曇	今暁丑の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 (禁裏守衛登の處病気の菊池某を御国下がり申し付ける、人事異動、鮮漁の期間を調べている、御留守中御門閉開の儀: 上に続く)
1864年	4月27日	文久4年	3月22日	曇	(人事異動、昨年潰れた久渡寺の観音堂の御飯殿が皆出来、去月?朔日年号を元治と改元、大殿様の御膳料4100石を1000石増の5100石とする、江戸で人事異動)
1864年	4月28日	文久4年	3月23日	快晴	(武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物)
1864年	4月29日	文久4年	3月24日	曇	(人事異動)
1864年	4月30日	文久4年	3月25日	曇	今暁丑の刻過より小雨時々降 夜二入同断 (明後27日に御目見以上惣与力共麻上下で登城を仰せ付けている、人事異動)

(*)渡さないう舞戸村の男を召捕り吟味中揚屋入り)

(**)焼失か? 繆ヶ沢で1俵65文目等としたら高過ぎと問屋どもが承服しない・今5文目下げたのかな?)

1864年	5月1日	文久4年	3月26日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 申の刻頃止 今暁丑の刻過より雷鳴 寅の刻過止
1864年	5月2日	文久4年	3月27日	晴	(去る朔日年号を元治と改元、文久元年6月に下居宮の御普請中に地面より穿出した石櫃がある・百沢寺の旧記に記載があった・旧記の内容と櫃の形状が書いてある)
1864年	5月3日	文久4年	3月28日	晴	(大清水村の肴間屋の売払い代銭並びに有取り上げ過料銭1貫200文)
1864年	5月4日	文久4年	3月29日	曇	未の刻より雨時々降 夜二入同断 (武場で剣術を御名代家老が見分・大寄合以上見物)
1864年	5月5日	文久4年	3月30日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 (江戸に見習いに登って居残り願いがあったが向後居残り稽古は認めないとの触れ)
1864年	5月6日	元治元年	4月1日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 (今日日食二付月並の登城御用捨) 下から続く 下し置かれる、先月9日黒石大火の難済者に鳴海某・北山某・北山某が米100俵銭3貫目補助)
1864年	5月7日	元治元年	4月2日	快晴	(去月晦日の町年寄り(多分鯉ヶ沢)の報告では前浜緋日市附上高4064俵との報告、鯉ヶ沢で緋大漁・50800駄位、去月7日の原別村の被災者に1軒1俵宛御手当米16俵) 上に続く
1864年	5月8日	元治元年	4月3日	快晴	
1864年	5月9日	元治元年	4月4日	曇	(外馬場で馬術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、人事異動) 下から続く 小泊村から牛60疋を本庄に売る話がある)
1864年	5月10日	元治元年	4月5日	曇	卯の刻過より雨降 申の刻頃止 (舞戸村の男が大阪の男から代金378両を受け取り品物を渡していない・事実は確認したが真正穢多で金はない・正民と異なり……分らん、) 上に続く
1864年	5月11日	元治元年	4月6日	晴	(御廻船上乗として大阪に行き逗留を申し出て断られ帰り際に行方不明になった御留守居支配工藤某の御給分召し上げ永の暇)
1864年	5月12日	元治元年	4月7日	曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (外馬場で馬術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、他邦米価(1俵)追々引下げ・玄米17匁→13文目・白米と玄餅米19→15・白餅米21→17とする)
1864年	5月13日	元治元年	4月8日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜二入同断 (漆仕立執心の男の帯刀御免苗字名乗らせる、人事異動、去月28日癸8日振りの御飛脚到着・当御発駕は来月24日、江戸で人事異動)
1864年	5月14日	元治元年	4月9日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻頃止 (下野国生まれの盗賊と知りながら止宿させた男に27鞭7里四方追放)
1864年	5月15日	元治元年	4月10日	晴	(この度御鉄砲師御下げ・職人や弟子も連れて来る・1人に玄米2斗5升菜銭1歩とする、作成目標が西洋銃2330挺?数年かかる?わからん、必要者は原文を見よ)
1864年	5月16日	元治元年	4月11日	曇	巳の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (来る13日阿部半次郎が五段鉄砲(機関銃か?)撃ち方・武具奉行砲術師範家扱席とも出席仰せ付ける)
1864年	5月17日	元治元年	4月12日	曇	(外馬場で馬術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、御賞(金300疋・銀3両))
1864年	5月18日	元治元年	4月13日	曇	辰の刻小雨降 則刻止 (機関銃のようなもの見分はどうした・記載なし)
1864年	5月19日	元治元年	4月14日	晴	昨夜風烈し
1864年	5月20日	元治元年	4月15日	快晴	(揚屋に入っていた舞戸村の男(真正穢多という)が傷寒(風邪?)で宿下がりを申付ける)
1864年	5月21日	元治元年	4月16日	快晴	
1864年	5月22日	元治元年	4月17日	快晴	下から続く 下し置かれる、北国船手調達金を上納させていたらしいのだがその増をお願いしているのかな?勘定奉行達から様宛の手紙だから・必要なら原文を見よ)
1864年	5月23日	元治元年	4月18日	曇	未の刻過より雨降 戌の刻過止 (外馬場で馬術を御名代家老が見分・大寄合以上見物、諸色高値で座当共に御手当1人に付鳥目1貫文充都合62貫文・1貫33匁3分3厘) 上に続く
1864年	5月24日	元治元年	4月19日	快晴	
1864年	5月25日	元治元年	4月20日	快晴	戌の刻過より雨降
1864年	5月26日	元治元年	4月21日	曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止 (西洋砲の儀イギリス形地板(じいた:小銃の台座?)からくり宜(よろしく)候二付右之鉄物二出来御貸渡し仰せ付けられ候……)
1864年	5月27日	元治元年	4月22日	快晴	(外馬場で馬術を御名代家老が見分・大寄合以上見物)
1864年	5月28日	元治元年	4月23日	快晴	
1864年	5月29日	元治元年	4月24日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (京都詰合の御手当が示されている、庄内様御家中の用達が当月13日三厩で病死・養信庵?に仮葬する)
1864年	5月30日	元治元年	4月25日	曇	昨夜よりの雨今日に及び巳の刻頃止 今日風烈し
1864年	5月31日	元治元年	4月26日	曇	今日卯の刻頃より小雨降 巳の刻過止 (菓草詮議のため医学館の北岡太淳が西海岸等を回る)
1864年	6月1日	元治元年	4月27日	快晴	(今日宇和野で両組頭の御備立見分・見学)
1864年	6月2日	元治元年	4月28日	快晴	(京都の御警衛の出立は御手廻が来月2日御馬廻が4日・そうすると近衛様御警衛は6日出立とする・御手当のことも書いてある)
1864年	6月3日	元治元年	4月29日	曇	(京都御警衛登りの者達に心得が示され御酒御吸い物を下し置かれる)
1864年	6月4日	元治元年	5月1日	曇	
1864年	6月5日	元治元年	5月2日	快晴	(鉄砲師森田小三郎と弟子ども14人到着、去年8月の岩木参詣の砌附太鼓を打ち叩いた御城附足軽の子の太鼓取上げを慎み)
1864年	6月6日	元治元年	5月3日	快晴	
1864年	6月7日	元治元年	5月4日	快晴	
1864年	6月8日	元治元年	5月5日	快晴	
1864年	6月9日	元治元年	5月6日	快晴	
1864年	6月10日	元治元年	5月7日	曇	(具体的な数字はないが自他諸寺社並びに在町の者ども御領内往来の節馬継立賃銭の儀……上げるとのことらしい)
1864年	6月11日	元治元年	5月8日	曇	今暁丑の刻より雨降 午の刻過止 (藤崎村の娘が美服で捕まっている)
1864年	6月12日	元治元年	5月9日	曇	
1864年	6月13日	元治元年	5月10日	曇	(27日出立8日振りの飛脚到着、殿様御不快御全快・去24日御床揚、当御下向道法都合186里8丁の御道中割22日振りが示してある・御発駕は来月4日と仰せ出される、江戸で人事異動)
1864年	6月14日	元治元年	5月11日	晴	
1864年	6月15日	元治元年	5月12日	晴	
1864年	6月16日	元治元年	5月13日	曇	
1864年	6月17日	元治元年	5月14日	晴	
1864年	6月18日	元治元年	5月15日	晴	(人事異動、御賞)
1864年	6月19日	元治元年	5月16日	曇	未の刻過より雨降 夜二入同断 (去る4日江戸発11日振りの飛脚が到着・殿様4日御発駕)
1864年	6月20日	元治元年	5月17日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 申の刻過止
1864年	6月21日	元治元年	5月18日	晴	(人事異動)
1864年	6月22日	元治元年	5月19日	晴	
1864年	6月23日	元治元年	5月20日	快晴	(殿様より先に系譜が到着するはず・相詰候面々膝を屈し不敬なきように・郷士町人御扶持の者漁師頭等は土下座いたし……等の御触れ)
1864年	6月24日	元治元年	5月21日	曇	(昨日の記述より丁寧に家中向けが書いてある、江戸で御中臈2人・御老女2人二御暇・隠居(隠居には生涯金20両5人扶持等を下し置かれる))
1864年	6月25日	元治元年	5月22日	曇	申の刻過より小雨降 酉の刻過止 (碓ヶ岡町同心共に齋藤熊八郎の棒並びに繩術の指導を受けさせる、昨年格別悪作の金木新田の村に中里村の加藤某が補助糶100俵申し出る)
1864年	6月26日	元治元年	5月23日	曇	
1864年	6月27日	元治元年	5月24日	曇	卯の刻過より小雨時々降 午の刻過止
1864年	6月28日	元治元年	5月25日	曇	午の刻過より小雨降 即刻止 (今日殿様御着城のはずが御日柄に付碓ヶ岡江御逗留)
1864年	6月29日	元治元年	5月26日	快晴	(未の刻過ぎ殿様御着城)
1864年	6月30日	元治元年	5月27日	晴	

1864年	7月1日	元治元年	5月28日	晴	
1864年	7月2日	元治元年	5月29日	曇	辰の刻過より小雨降 未の刻頃止
1864年	7月3日	元治元年	5月30日	曇	未の刻過より雨時々降 夜二入同断 (青田之内笛吹くなどの触れ、倅の女房が美服として品物御取り上げ過料銭1貫800文・類似が10人位いる)
1864年	7月4日	元治元年	6月1日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 未の刻過より雨降 夜二入同断 (人事異動)
1864年	7月5日	元治元年	6月2日	曇	昨夜寄よりの雨今暁寅の刻過止 (いろいろな通路で胡乱の者が入っている・管理をしっかりとの申し付け、西洋砲でなければ戦争にならない・しっかり稽古を?と三組頭に申し付ける)
1864年	7月6日	元治元年	6月3日	快晴	下から続く 定例高53342石・大坂35000石(家中扶持米8000・払米27000・定例高37250石)・敦賀600石(京都詰家中扶持米)、江戸で人事異動)
1864年	7月7日	元治元年	6月4日	曇	今日辰の刻過より小雨降 則刻止 (用人山野某と北原某が改名) 下から続く 去る亥年収納当子年廻米の公儀報告:江戸30000石(家中扶持米18000・払米12000・
1864年	7月8日	元治元年	6月5日	曇	(菜種1畝を69文目位に少なからず買い込み過分の小売りを貪り不実の小間物商売の3人に戸≒30日宛、身分不相応の衣類着用の塗師の弟の衣類御取り上げの上戸≒、
1864年	7月9日	元治元年	6月6日	曇	今日未の刻過より雨降 夜二入同断
1864年	7月10日	元治元年	6月7日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 (奈良岡某を小姓組の頭に等の人事異動)
1864年	7月11日	元治元年	6月8日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 巳の刻過地震少し 午の刻過小雨降 則刻止 (スツ・詰者頭秋元某が昨日帰着・今日御目見、人事異動、青森で御制禁の脇差を帯び往来・取押え戸≒)
1864年	7月12日	元治元年	6月9日	曇	(不届きな御家老与力等3人に役下げ・隠居等)
1864年	7月13日	元治元年	6月10日	曇	今暁丑の刻頃より雨降 卯の刻過止 (近衛前関白様御隠殿江御引移二付同所にも警衛派遣願・御手廻番頭と御手廻4人御馬廻5人を増派する)
1864年	7月14日	元治元年	6月11日	曇	(人事異動、昨年8月に宇鉄村領に流れ寄せた無人船から身縄(みなわ:帆の上げ下げに用いる縄)3本を隠しとり他の船に売払った男2人を大赦以前として過料1貫800文・関係者にも罰)
1864年	7月15日	元治元年	6月12日	曇	午の刻頃より雨降 夜二入同断 (西洋兵法修行登りに3人仰せ付けられる) 下から続く 金子等を盗んだ男・東長町で白足袋等を盗んだ男にそれぞれ3鞭弘前お構い)
1864年	7月16日	元治元年	6月13日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 昨夜風雨烈し (塾居中の行動を咎められて山田登を一間所塾居・不届きな伊藤某を御留守居組に役下げ、昨年11月同行の泥酔者から
1864年	7月17日	元治元年	6月14日	晴	(早着の飛脚2人に御酒代鳥目2貫500文宛下し置かれる、御下向の節格別として14人に御酒代鳥目1貫文・300文、人事異動)
1864年	7月18日	元治元年	6月15日	快晴	(長谷川某を深浦町奉行に等の人事異動) 下から続く 提案あり、松崎村に自己破産のような男あり・引当(抵当)に差し遣わした証文を取り上げないようにしている)
1864年	7月19日	元治元年	6月16日	曇	卯の刻過小雨降 即刻止 下から続く 金150疋・100疋下し置かれる、舞戸・繻ヶ沢境界が昔からもめている・足軽目付立ち合いで勘定人郡所役出合い御羊入れの
1864年	7月20日	元治元年	6月17日	晴	(砲術出精・算木立(何でしょうね)並びに野稽古の節行届く大組足軽警固2人を大組与力に役上げ、同様の人事異動、御家中稽古具出来方頭取の4人・手伝17人に御賞
1864年	7月21日	元治元年	6月18日	快晴	(人事異動)
1864年	7月22日	元治元年	6月19日	曇	卯の刻過より雨降 巳の刻過止
1864年	7月23日	元治元年	6月20日	曇	今暁丑の刻頃より雨降 午の刻過止 (今日御目見以上惣与力迄登城、人事異動)
1864年	7月24日	元治元年	6月21日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 卯の刻過止 (此の節稲草生育不勝・明22日神明宮で日和上ヶ御神楽差上げる)
1864年	7月25日	元治元年	6月22日	晴	(人事異動、土壌着の目屋野沢出流木を矢来内江入り盗み取る者あり・見咄めても石打ち等で抵抗する・家中に家来等を出さないよう触れる、祢婦多喧嘩停止の触れ)
1864年	7月26日	元治元年	6月23日	晴	
1864年	7月27日	元治元年	6月24日	晴	(稽古具出来方骨折りとして御賞(金150疋・100疋)、人事異動、頃日天気合い宜しからず四社で風雨順時御祈禱を申付ける・明25日岩木山下居宮で日和上御神楽を差し上げる)
1864年	7月28日	元治元年	6月25日	快晴	(西洋砲並びに訓練の代官に御賞金300疋、人事異動) 下から続く 多分手を打っている、悪巧みの深浦町代屋屋を引取り戸≒15日、倅の妻が美服の諸手足軽警固に慎)
1864年	7月29日	元治元年	6月26日	晴	下から続く 2人(苗字なし)に御賞鳥目500文宛、京都御警衛で北通江州築ヶ瀬と申すところ通行の節予め印鑑を届けていなければ等の御廻船上乗の助言・
1864年	7月30日	元治元年	6月27日	曇	(貴田孫太夫を持筒足軽頭に等の人事異動、出精の前紙御蔵奉行2人に御賞金150疋宛、勤め方が宜しくない深浦町同心3人に慎とその免許、格別出精の紙御蔵掛合
1864年	7月31日	元治元年	6月28日	晴	(人事異動、去る18日江戸発8日振りの飛脚到着、江戸で人事異動、昨17日御普請方下奉行の呼出・本所三笠町新徴組屋敷上地割残725坪余を家作共当分御預け仰せ付けられる)
1864年	8月1日	元治元年	6月29日	晴	
1864年	8月2日	元治元年	7月1日	快晴	(京都表江警衛登りの面々11人江注意事項の伝達?と御酒御吸い物を下し置かれる、木村某を持筒足軽頭格に等の人事異動)
1864年	8月3日	元治元年	7月2日	快晴	(京都登りの番頭を1人減らす(交代すべき人数の勘違い)、北岡太淳が近頃諸生共が怠けて弘前(医学館)に来ないと気合を入れている)
1864年	8月4日	元治元年	7月3日	晴	(先妻出生の男子を手ひどく折檻した青森米町の後妻に3鞭親許永預け)
1864年	8月5日	元治元年	7月4日	晴	(去るスツ・詰の武器の嗜みで御賞金200疋、人事異動)
1864年	8月6日	元治元年	7月5日	晴	(人事異動)
1864年	8月7日	元治元年	7月6日	曇	今日卯の刻頃より小雨降 巳の刻過止
1864年	8月8日	元治元年	7月7日	晴	(森田小三郎を金5両2人扶持の鉄砲師として新規召し抱え)
1864年	8月9日	元治元年	7月8日	晴	(青森町同心警固香林栄次郎病死・その子を町同心に新規召し抱え)
1864年	8月10日	元治元年	7月9日	快晴	
1864年	8月11日	元治元年	7月10日	快晴	(老母に孝行の田舎館村の男に褒美御米5俵下し置かれる、人事異動)
1864年	8月12日	元治元年	7月11日	快晴	(御長柄奉行以上の御役と禄200石以上を除き御家中の面々の親子勤め並びに同居の族とも銘々宿札懸けおくよとの御目付触)
1864年	8月13日	元治元年	7月12日	晴	(当京都御警衛登りの面々の当4月の御手当増・兵士で金5両(到着後と12月渡し)・当6月又々増:兵士で金4両(7月渡し))
1864年	8月14日	元治元年	7月13日	晴	
1864年	8月15日	元治元年	7月14日	晴	
1864年	8月16日	元治元年	7月15日	快晴	
1864年	8月17日	元治元年	7月16日	快晴	
1864年	8月18日	元治元年	7月17日	快晴	
1864年	8月19日	元治元年	7月18日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 卯の刻頃止 (人事異動)
1864年	8月20日	元治元年	7月19日	曇	酉の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1864年	8月21日	元治元年	7月20日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 下から続く 手配をした御目見以下御留守居支配中嶋某の妻子3人江生涯3人扶持(こう読めるがホント?)、江戸で足軽警固と足軽が病死)
1864年	8月22日	元治元年	7月21日	晴	(青森御飯屋を立て直し陣屋と称する、当両郡御廻船上乗払切・14人をあちこちの務めから集める) 下から続く 族の借用分682両余を立替返済し証文を取戻す
1864年	8月23日	元治元年	7月22日	快晴	(菓草の買占役3人を決めている・買占めた菓草は一割の値段増で医学館が買い受ける?、去る7月8日箱館詰200人とスツ・詰100人の交替を公儀に報告、御国引越の
1864年	8月24日	元治元年	7月23日	曇	
1864年	8月25日	元治元年	7月24日	曇	未の刻頃雨降 即刻止 (佐竹様の御廻船が難船の節の取扱いに御礼が来ている)
1864年	8月26日	元治元年	7月25日	曇	今日卯の刻過雨降 辰の刻頃止 (人事異動、京都警衛御賃人として行った雇小人が京都で病死・雇小人の跡目はないが警衛登であり子に2人扶持下し置かれ雇小人に召し抱える)
1864年	8月27日	元治元年	7月26日	曇	(5月28日に揚屋から出奔された町同心を勤料差引御城付足軽格江役下げ)
1864年	8月28日	元治元年	7月27日	晴	(久住某を西洋兵法修行登りとする)
1864年	8月29日	元治元年	7月28日	快晴	(武者屯御門番所下?板敷下に髯狐)
1864年	8月30日	元治元年	7月29日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 (一去年亀甲御蔵立合で抜米等不届きの男(御手廻)を一間所から隠居他出差し留め、不届きな御刀鍛冶の御給分召し上げ永の暇)
1864年	8月31日	元治元年	7月30日	曇	今暁卯の刻頃より小雨降 辰の刻過止 (秋田表に銅買い付けに行った男が(検問が厳しく?)揉めている)

1864年	9月1日	元治元年	8月1日	晴	(昨年警衛登りの11人に御賞、人事異動)
1864年	9月2日	元治元年	8月2日	晴	
1864年	9月3日	元治元年	8月3日	曇	今晩寅の刻過より雨時々降 夜二入同断 6日から続く 公儀から浅草並びに本所御蔵御警衛を命じられる、昨27日近衛殿江御警衛登京10人を増派する)
1864年	9月4日	元治元年	8月4日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻過止 (添田有方を家老職に・領分中乗與御免・北原蔵人を用人に等の人事異動、今日でもよかったが来る7日御初米差上げる)
1864年	9月5日	元治元年	8月5日	晴	(非常の節の大殿様御旗本に大組諸手足軽の内25人増・掃除小人40人増を仰せ付けられる、諸国の御関所通行がが厳しくなっている、御蔵手狭で御取立て)
1864年	9月6日	元治元年	8月6日	曇	今暁寅の刻頃より小雨時々降 戌の刻過止 下から続く 禁裏御所・近衛様に別条なし・西館平馬並びに御警衛御人数御固メ致す、杉山八兵衛一昨26日に急上京、 3日に続く
1864年	9月7日	元治元年	8月7日	曇	戌の刻過より雨時々降 子の刻過止 (水練稽古で13人に御賞(金100疋・銀5両)) 下から続く 出火二相成り追々大火・京都御屋敷御類焼に相成と江戸に連絡あり、 上に続く
1864年	9月8日	元治元年	8月8日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 (去る19日朝六時頃京近辺江江屯する長州の人数が京都江乱妨に押入諸家様御固人数と戦争騒動に及ぶ・大砲等打入より 上に続く)
1864年	9月9日	元治元年	8月9日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く 29人・奇銃隊(御目見以下の子弟?)20人を派遣する)
1864年	9月10日	元治元年	8月10日	晴	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 (江戸に急登り:御固御人数隊頭2人・御警衛(御手廻・御馬廻)21人・御固御用(横岡勝次郎の弟清左衛門など直接の藩士でない者が多数) 上に続く)
1864年	9月11日	元治元年	8月11日	曇	今暁丑の刻頃雷雨 寅の刻頃止 未の刻頃より雨降 申の刻過止 (江戸増登りで大組足軽10人・諸手足軽19人が出立)
1864年	9月12日	元治元年	8月12日	曇	(去月19日長州勢が京都に押入った件は京地大半焼き払ったが諸家出張人数で大凡討鎮めた・御所並びに近衛様御殿に別条なし(蛤御門の変)との口達、江戸に御警衛急登り3人)
1864年	9月13日	元治元年	8月13日	晴	下から続く 焔硝炊出し方に力を入れている・作業で住民と揉めている、御制禁の衣類着用の親子の衣類取り上げ男に戸 30日)
1864年	9月14日	元治元年	8月14日	晴	(江戸急登りに対応して小人も60人必要・手当旅費などが書いてあるが分らない、昨晚到着の飛脚の報告では宇都宮近辺より江戸迄浪士共止宿のため通行差支えとのこと、 上に続く)
1864年	9月15日	元治元年	8月15日	曇	(射芸出精・十三湯新水戸切開きに弦・銀子1枚・烏目800文等の御賞、浅草・本所両御蔵の御警衛を仰せ付けられ人数不足で一方だけを願ったが両方と厳命される、 欄外(*)に続く)
1864年	9月16日	元治元年	8月16日	曇	
1864年	9月17日	元治元年	8月17日	曇	辰の刻過より雨時々降 午の刻過止 (殿様が来月11日御発駕と仰せ出される) 下から続く 通すなどの公辺の仰せ付けがあり対応する)
1864年	9月18日	元治元年	8月18日	曇	今暁寅の刻頃より雨降 辰の刻過止 (長州附属の浪士水戸殿浪士と唱えて御関所に来る者あり・用柄等子細ない者はこれまで通り・胡乱の筋があり切手紙持参ない者は 上に続く)
1864年	9月19日	元治元年	8月19日	曇	
1864年	9月20日	元治元年	8月20日	晴	(手塚茂太夫を御使番武芸締方に等の人事異動) 下から続く 浪岡・増館・常盤の3組で常刀役31人農兵270人の西洋砲並びに訓練・金500疋宛下し置かれる)
1864年	9月21日	元治元年	8月21日	晴	(触見り等隠し商売を規制している・規制の中に「曲わつは」最近では曲げわっぱと言い杉などの薄い板を曲げて弁当箱などの器にしたものあり・半濁点が出て来ないなあ、 上に続く)
1864年	9月22日	元治元年	8月22日	曇	(去る12日江戸発7日振りの飛脚到着) 下から続く 胴薬12貫500目(1放2文目5分込)・トントロ管7500(10放に扣5放)なども記述)
1864年	9月23日	元治元年	8月23日	曇	巳の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 下から続く 大間越は15人)をそれぞれ配置する・碓ヶ関と野内には勘定方も配置・編成人数装備(例:トントロ銃50挺・鉛弾5000・ 上に続く)
1864年	9月24日	元治元年	8月24日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 (浮浪の輩が奥羽に入り込み松前を目指している風聞・御城詰合張番を当分増員・三関所に非常者頭の1組(30人と鉄砲隊21人(野内22人)・ 上に続く)
1864年	9月25日	元治元年	8月25日	曇	辰の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (不穩の形勢もあるのだから諸御門は七半時頃大扉締切・暮六時小くぐりも閉める・夜中に通る場合は鑑札等を渡しておいて通る)
1864年	9月26日	元治元年	8月26日	曇	下から続く 寺社門前100、当4月8日木造新田山田村薬師堂に参詣の砌不相应な衣類で他人の名をかかった女に押込め30日・その夫から衣類取り上げ過料銭1貫800文)
1864年	9月27日	元治元年	8月27日	曇	午の刻過より小雨時々降 戌の刻頃止 (野内御関所に26日昼9時・25日暮頃碓ヶ関御関所に御固人数が着いたとの報告あり) 下から続く 今別町199・所々 上に続く)
1864年	9月28日	元治元年	8月28日	快晴	(人事異動) 下から続く 割付:在方24883人・弘前町2241・青森町1299・鯉ヶ沢町557・深浦町206・十三町182・碓ヶ関町110・大間越町36・野内町97・蟹田町97 上に続く)
1864年	9月29日	元治元年	8月29日	曇	(武芸に怠慢の家中とその倅に憤りを仰せ付ける) 下から続く 修武堂空地に大砲4挺居置かれ砲家一同に稽古仰せ付ける。先年見分の御裏通り范穿立の人夫の 上に続く)
1864年	9月30日	元治元年	8月30日	曇	昨夜戌の刻頃よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 (人事異動、3関所の御固人数の内訳(野内と碓ヶ関は共に者頭以下125人・大間越は組頭?以下29人)あり、 上に続く)
1864年	10月1日	元治元年	9月1日	晴	
1864年	10月2日	元治元年	9月2日	晴	(人事異動)
1864年	10月3日	元治元年	9月3日	曇	
1864年	10月4日	元治元年	9月4日	曇	未の刻頃より小雨時々降 (寺廻普請で大きく作った分を耕春院が取り壊しを申付けられている)
1864年	10月5日	元治元年	9月5日	晴	
1864年	10月6日	元治元年	9月6日	快晴	
1864年	10月7日	元治元年	9月7日	快晴	(楠見某・高倉某を御使番に等の人事異動、昨年御人増で格別小給(25俵未満)の足軽がある・56人に24俵になるように勤料を加える)
1864年	10月8日	元治元年	9月8日	曇	卯の刻過より雨時々降 夜二入同断
1864年	10月9日	元治元年	9月9日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 酉の刻頃止 (御裏通り范穿立の担当者(用人楠見莊司等)決まる・内情も書いてある)
1864年	10月10日	元治元年	9月10日	晴	
1864年	10月11日	元治元年	9月11日	曇	巳の刻過小雨降 即刻止 (この度公辺より出府を仰せ出されている・上京もあれば……と勘定奉行が悩んでいる)
1864年	10月12日	元治元年	9月12日	曇	(御裏通り范穿立の実際の担当者(大工頭・御堀警固等)が決まる、義理の子を折檻(だったと思うが)去々7月に鞭刑のはずが逃亡された親類名主共に戸 30日と15日)
1864年	10月13日	元治元年	9月13日	曇	下から続く 見分・挨拶(お礼か)をしている・積入れ高の処理の詳細も記されている)
1864年	10月14日	元治元年	9月14日	曇	(宇和野の畑作物が何者かに盗み取られる、間道を来た秋田早口村の男を取亂さず止宿させた温湯村の男に過料銭1貫200文) 下から続く 勘定小頭と御徒目付が 上に続く)
1864年	10月15日	元治元年	9月15日	快晴	(人事異動、この度の裏通り御普請場所の内理御門前御堀穿上ケは明年迄見合わせる、青森森で米3184俵余を積んだ江戸廻船の江戸船が南部佐井前浜で難船・ 上に続く)
1864年	10月16日	元治元年	9月16日	快晴	(早瀬野山で過伐があり担当山役人を役下げ・過分の生木伐取の15人に過代(過料に相当?)夫役5人宛仰せ付ける、去る5日江戸発7日振りの飛脚が今暁到着、江戸で人事異動)
1864年	10月17日	元治元年	9月17日	快晴	(三御関所御固御人数引き払い仰せ付けられる、人事異動、御裏通り范穿立人夫の3が2(3分の2)は在方で農事最中・当分町方で……順調ではない)
1864年	10月18日	元治元年	9月18日	快晴	(佐野某を御使番にとの人事異動、御廻米を積み佐井浦で難船の江戸船に関し関係部門に挨拶(金300疋・50疋)) 下から続く 与力・御留守居支配の倅を他出差留親預け)
1864年	10月19日	元治元年	9月19日	曇	今暁卯の刻頃より雨時々降 子の刻過止 (人事異動、三関所御固御人数を引き払い間道に両目付を配置する、当6月岩木川出水の際流木を拾い山役人に抵抗した御手廻 上に続く)
1864年	10月20日	元治元年	9月20日	曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (人事異動)
1864年	10月21日	元治元年	9月21日	快晴	下から続く 銭7文目宛・所化2人に銀1両宛・道心8人に銭2文目宛)
1864年	10月22日	元治元年	9月22日	晴	(類焼に遭った京都詰19人の面々二御手当:西館平馬70両・小宮山藤兵衛20両等最少1両、葉王院御仮殿屋根お手入れに関し御布施:導師葉王院に銀1枚・寺菴3人に 上に続く)
1864年	10月23日	元治元年	9月23日	曇	(人事異動)
1864年	10月24日	元治元年	9月24日	晴	(森田小三郎が手先の者と別居する?:鉄砲師として召し抱えた森田チームが分裂している)
1864年	10月25日	元治元年	9月25日	快晴	(松前から盛岡に罷り越大工働きの鞍師町の久吉の言:当国(南部)より浪人5・60人が江戸江罷り越す企て・頭取の名は不明だが干草並びに福田?)
1864年	10月26日	元治元年	9月26日	晴	(今日宇和野で大砲並びに奇銃隊高覧、16日江戸発7日振りの飛脚到着)
1864年	10月27日	元治元年	9月27日	晴	(松前伊豆守の奥方が江戸に登るらしい・大名の奥方が地方にいた!御本陣をできる家がなく瀧屋某の戸 解解除している)
1864年	10月28日	元治元年	9月28日	曇	昨夜亥の刻過より雨今日に及 辰の刻過止 (人事異動)
1864年	10月29日	元治元年	9月29日	晴	(割付け奉公7か年以上で希望の者を雇小人に御召し抱え、朝日四時以前に御目見以上並びに惣与力とも麻上下で登城の触れ御郡内人別書上方を書いている・結果は中々ない)
1864年	10月30日	元治元年	9月30日	曇	今日未の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (蟹田町奉行から御裏穿上人夫出方御免願・非常の普請なので出せと申し付ける)
1864年	10月31日	元治元年	10月1日	曇	今日岩木山に初而雪見ゆる (殿様が江戸登りにあたり注意事項を伝えて、人事異動・小人数を召し抱えている)

(*)非常分隊御備1番手15人2番手9人を指名、江戸から近衛様御警衛に御手廻等10人を増派)

1864年	11月1日	元治元年	10月2日	曇	(御玄関前より大手御門先まで御掃除見分、別段夜回り御手廻5人御馬廻7人仰せ付ける・他の夜回りは当分御用捨、九浦等の御備御武器改めて鉄砲師代二唐某に御手当1貫500文)
1864年	11月2日	元治元年	10月3日	快晴	(今日四時過ぎ殿様御発駕、松平大膳太夫家来共多人数が上京・非常の節はありあわせの人数を差し出すよう命じられている)
1864年	11月3日	元治元年	10月4日	曇	(十三湖(瀧)水戸口穿変えに骨折りの3人に御酒代鳥目600~800文、不実の水油屋に戸ノ等々の罰、官職登りの神主から金を貸せとの話あり断る・金で官職を売ろうとしているのかな)
1864年	11月4日	元治元年	10月5日	曇	卯の刻過より小雨降 未の刻過止 (去月晦日朝五時頃横内組矢田村で出火・類焼共14軒焼失・火元百姓他村預け)
1864年	11月5日	元治元年	10月6日	曇	今暁卯の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1864年	11月6日	元治元年	10月7日	曇	昨夜よりの雨卯の刻過止 昨夜雪少し降 (無提灯で往来するな等の触れ、永の暇を与えられた刀鍛冶盛宗の後を2人扶持で刀鍛冶を申付ける)
1864年	11月7日	元治元年	10月8日	曇	
1864年	11月8日	元治元年	10月9日	快晴	(母付き添いで御警衛江戸急登りの御免を申し出た角田某をそれほどの病気でないとして御留守居組に役下げ)
1864年	11月9日	元治元年	10月10日	晴	申の刻過小雨降 即刻止 (人事異動、御禁制の身分不相応の衣類着用で取り押さえられた5人の衣類取り上げ一人は戸ノ30日・4人は過料1貫800文・2人に愼)
1864年	11月10日	元治元年	10月11日	快晴	(水戸口切り開きの十三町奉行に銀子3枚下し置かれる、(佐井の破船に関して)南部に送った御金の受取状が届いている、内容不足の炭を売った男に過料銭1貫800文)
1864年	11月11日	元治元年	10月12日	晴	
1864年	11月12日	元治元年	10月13日	快晴	
1864年	11月13日	元治元年	10月14日	快晴	
1864年	11月14日	元治元年	10月15日	晴	(当2月13日深浦出帆の船が14日に破船・乗客女2人水死) 18日から続く 内容の不足な炭の取引者に品物通上げの上戸ノ・過料等の罰)
1864年	11月15日	元治元年	10月16日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 夜に入同断 下から続く 不勝続きにて在方取仕舞手後になる・明春雪消迄御取述べの申し入れあり・そのようにする)
1864年	11月16日	元治元年	10月17日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及ひ時々降 夜に入同断 (三関所御固の人数に御酒御吸物等下し置かれる・多分全員の氏名あり、人事異動、御裏地穿上方出人夫不足・去月中より 上に続く)
1864年	11月17日	元治元年	10月18日	晴	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 (多分昨日と別の三関所御固の人数に御酒御吸物等下し置かれる、不相応の衣類を用い往来した14人に過料1貫800文戸ノ等の罰、 15日に続く)
1864年	11月18日	元治元年	10月19日	晴	
1864年	11月19日	元治元年	10月20日	快晴	(参府の御用出精として御酒代鳥目1貫文宛・300文宛を2人・12人に下し置かれる、人事異動)
1864年	11月20日	元治元年	10月21日	曇	卯の刻過より雨時々降 辰の刻過雷鳴 即刻止 (人事異動)
1864年	11月21日	元治元年	10月22日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 酉の刻過止
1864年	11月22日	元治元年	10月23日	曇	
1864年	11月23日	元治元年	10月24日	晴	(家老が外馬場で御立駒見分・御用人等も罷り出る、人事異動、報恩寺境内に変死の者あり・足軽目付見聞で別状ないので片付けを仰せ付けられる)
1864年	11月24日	元治元年	10月25日	曇	今暁寅の刻過より雨時々降 申の刻頃止
1864年	11月25日	元治元年	10月26日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1864年	11月26日	元治元年	10月27日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1864年	11月27日	元治元年	10月28日	曇	今暁寅の刻頃より雨降 夜二入同断 (奇特な農民を一代郷土等にして、人事異動)
1864年	11月28日	元治元年	10月29日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 戌の刻頃止
1864年	11月29日	元治元年	11月1日	曇	(韃師町の男が女ども取り寄せ内々に小宿・女8人等を他出差留め親類五軒組合見継)
1864年	11月30日	元治元年	11月2日	快晴	(山吹銀と紛らわしいブリッキ(ブリキ:鉄に錫メッキしたもの)で取引した男に戸ノ30日過料銭1貫800文等の罰)
1864年	12月1日	元治元年	11月3日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (江戸で昨夜(10月10日)六時過柳嶋御屋敷北御長屋より出火、長屋4棟焼失)
1864年	12月2日	元治元年	11月4日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 巳の刻頃止 昨夜風強し 今暁子の刻過雷鳴 即刻止 今日雪少し降 (トントロ製法掛合いに出精として御賞銀3両4兩御酒代鳥目1貫文下し置かれる)
1864年	12月3日	元治元年	11月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1864年	12月4日	元治元年	11月6日	曇	
1864年	12月5日	元治元年	11月7日	曇	今暁子の刻頃より雨時々降 酉の刻過止 (作柄に不相当の粉藍値段を決めた御用染屋・それより高く買い占めた染屋に戸ノ15日・30日)
1864年	12月6日	元治元年	11月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (今日修武堂で家老が御名代として種田流槍術見分・大寄合以上見物)
1864年	12月7日	元治元年	11月9日	晴	申の刻過より雨降 夜二入同断
1864年	12月8日	元治元年	11月10日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 (今日屋過ぎ修武堂で家老が御名代として槍術見分・大寄合以上見物、殿様は去月23日御老中様方御廻動の上御着府)
1864年	12月9日	元治元年	11月11日	曇	今日雪降 二寸程積 (人事異動)
1864年	12月10日	元治元年	11月12日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (同居人に戸ノ30日を申付けたいのだが押込30日に変更)
1864年	12月11日	元治元年	11月13日	曇	
1864年	12月12日	元治元年	11月14日	曇	昨夜雪少し降 (屋過ぎ修武堂で御名代家老が槍術見分、人事異動)
1864年	12月13日	元治元年	11月15日	曇	昨夜雪少し降 午の刻過より雨降 夜二入同断 (御徒見習い等多数の人事異動)
1864年	12月14日	元治元年	11月16日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止
1864年	12月15日	元治元年	11月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (大円寺境内の仁王尊が御出汗・武運長久御領内静謐の御祈禱を仰せ付ける)
1864年	12月16日	元治元年	11月18日	曇	(屋過ぎ修武堂で御名代家老が槍術見分、先頃の碇ヶ関御固御用の節武器の嗜みが宜しいと金200疋下し置かれる)
1864年	12月17日	元治元年	11月19日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1864年	12月18日	元治元年	11月20日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 未の刻過止 (屋過ぎ修武堂で御名代家老が槍術見分、人事異動)
1864年	12月19日	元治元年	11月21日	曇	(近年馬飼料高値・1疋に付元値段7文目9分7厘6毛に相当これに2割抜料1文目5分9厘入れ加え9文目5分6厘6毛に……分りません)
1864年	12月20日	元治元年	11月22日	曇	今日雪降 五寸程積 (屋過ぎ修武堂で御名代家老が槍術見分、去月晦日出火(10月5日記述)の矢田村の14軒に御手当米1俵焼14俵下し置かれる)
1864年	12月21日	元治元年	11月23日	晴	(過酒不届きの御中小姓格御徒目付を御留守居支配に役下げ)
1864年	12月22日	元治元年	11月24日	曇	今日雪降 五寸程積 (腰縄付きであった薬師堂村の11人の腰縄御容赦・親類五人組見継とする)
1864年	12月23日	元治元年	11月25日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1864年	12月24日	元治元年	11月26日	曇	未の刻過より雨時々降 亥の刻過止
1864年	12月25日	元治元年	11月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1864年	12月26日	元治元年	11月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1864年	12月27日	元治元年	11月29日	曇	午の刻過より小雨降 即刻止
1864年	12月28日	元治元年	11月30日	晴	
1864年	12月29日	元治元年	12月1日	晴	今暁寅之刻過小雨降 即刻止
1864年	12月30日	元治元年	12月2日	晴	
1864年	12月31日	元治元年	12月3日	晴	

1865年	1月1日	元治元年	12月4日	晴	(篠崎進の星場地の小屋に徒あり、青森湊詰人数をこれまでの60人から300人とする(11月5日付の公儀報告)、江戸で人事異動)
1865年	1月2日	元治元年	12月5日	曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動)
1865年	1月3日	元治元年	12月6日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 下から続く 御手当1両増とする、八月に制禁を犯し脇差を帯びて往来した男に脇差御取り上げ親元で押込30日)
1865年	1月4日	元治元年	12月7日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻過止 午の刻過より雨時々降 亥の刻過止 (人事異動、乞食吉五郎が数十年間別段見聞き御用格別骨折り・皮師格を仰せ付けられ生涯 上に続く
1865年	1月5日	元治元年	12月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1865年	1月6日	元治元年	12月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1865年	1月7日	元治元年	12月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1865年	1月8日	元治元年	12月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (添田恒三郎を御側詰にとの人事異動、野田村で9両余を盗んだ男を三厩口送返し・止宿させた者どもは御用捨)
1865年	1月9日	元治元年	12月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動、9月27日三厩を出帆の濱増毛御出張の船が松前ソッコ濱で破船・庄内様御家老坂部某・鎗持某が海死、人事異動)
1865年	1月10日	元治元年	12月13日	晴	今日雪少し降 下から続く 京都御警衛を公儀から仰せ付けられる・3か月当番で3家宛12家が示されている・国元への飛脚は12月4日立ち道中7日振りに申し付けた)
1865年	1月11日	元治元年	12月14日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 16日から続く 取扱った家中を役下げ・関係庄屋等にもそれなりの罰、12月3日殿様が来年正月から3月まで御在京で 上に続く
1865年	1月12日	元治元年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 (御給人子弟の割付奉公は17歳より10か年で御免・ただし掃除小人に人が少なく8か年で御免とし給代上125文目・中110・下95・小物65文目に値上げする)
1865年	1月13日	元治元年	12月16日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (紺屋町で(多分神官)帯刀の者を縛り打擲の小友村の百姓に鞭計9鞭居村徘徊これまで通り・庄屋五人組は御用捨、萱を不正に 14日に続く
1865年	1月14日	元治元年	12月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (昨夜本多東作が病死)
1865年	1月15日	元治元年	12月18日	曇	申の刻頃より雨降 夜二入同断 (奈良岡某を御徒頭に等の人事異動、寺院に御賞(銀10枚・銀7両)・御宮神主に御賞銀1枚・貨幣の換算は分らないね)
1865年	1月16日	元治元年	12月19日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 卯の刻過止 今日雪少し降
1865年	1月17日	元治元年	12月20日	曇	今日雪降 三寸程積 (人事異動)
1865年	1月18日	元治元年	12月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (隠し肴商売の舳作村の男を着御取り上げの上過料銭1貫200文、竹森某の代官町裏通りの星場日覆い小屋のための資材が盗まれる)
1865年	1月19日	元治元年	12月22日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 下から続く 江戸で人事異動、江戸から京までの道法(みちのり)都合128里半余の道中16日振りの日程・宿泊休憩の予定あり)
1865年	1月20日	元治元年	12月23日	曇	今日雪少し降 下から続く 寛廣院様の石塔工事・溜池の手入れ等で多数に御賞) 25日から続く この度御上京御発駕御日限来る23日と仰せ出される、 上に続く
1865年	1月21日	元治元年	12月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (山上鉄太郎等御人数出張の節行届いた三関所奉行に御酒御吸物引着一種宛・関係の町同心等に御酒代を下し置かれる、 上に続く
1865年	1月22日	元治元年	12月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (公儀の人相書:年齢55歳・中文色白き方・髪並びに月代薄き方等々、京都御警衛に付浅草並びに本所御蔵御警衛御免、 23日に続く
1865年	1月23日	元治元年	12月26日	曇	今日雪降 二寸程積 (鉄砲訓練・硝石取立て等で帯刀御免にしたり郷士にしたり……)
1865年	1月24日	元治元年	12月27日	曇	(人事異動、帯刀御免などがある) 下から続く 拵え方等に御酒代、新製甲冑上納の明珍某等24人に御酒代、表祐筆当分加勢等に御賞(金100疋)
1865年	1月25日	元治元年	12月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (宇和野で出精の大筒隊士鉄砲隊士40人かな?に御賞銀3両・御酒代鳥目700文、御蔵立会と奉行23人に御賞(金200疋・100疋)・関係する 上に続く
1865年	1月26日	元治元年	12月29日	晴	
1865年	1月27日	元治2年	正月1日		(この日から慶応2年12月まで2年間は日記の保存なし)
1865年	1月28日	元治2年	正月2日		
1865年	1月29日	元治2年	正月3日		
1865年	1月30日	元治2年	正月4日		
1865年	1月31日	元治2年	正月5日		
1865年	2月1日	元治2年	正月6日		
1865年	2月2日	元治2年	正月7日		
1865年	2月3日	元治2年	正月8日		
1865年	2月4日	元治2年	正月9日		
1865年	2月5日	元治2年	正月10日		
1865年	2月6日	元治2年	正月11日		
1865年	2月7日	元治2年	正月12日		
1865年	2月8日	元治2年	正月13日		
1865年	2月9日	元治2年	正月14日		
1865年	2月10日	元治2年	正月15日		
1865年	2月11日	元治2年	正月16日		
1865年	2月12日	元治2年	正月17日		
1865年	2月13日	元治2年	正月18日		
1865年	2月14日	元治2年	正月19日		
1865年	2月15日	元治2年	正月20日		
1865年	2月16日	元治2年	正月21日		
1865年	2月17日	元治2年	正月22日		
1865年	2月18日	元治2年	正月23日		
1865年	2月19日	元治2年	正月24日		
1865年	2月20日	元治2年	正月25日		
1865年	2月21日	元治2年	正月26日		
1865年	2月22日	元治2年	正月27日		
1865年	2月23日	元治2年	正月28日		
1865年	2月24日	元治2年	正月29日		
1865年	2月25日	元治2年	正月30日		
1865年	2月26日	元治2年	2月1日		
1865年	2月27日	元治2年	2月2日		
1865年	2月28日	元治2年	2月3日		

1865年	3月1日	元治2年	2月4日	(日記の保存なし)
1865年	3月2日	元治2年	2月5日	
1865年	3月3日	元治2年	2月6日	
1865年	3月4日	元治2年	2月7日	
1865年	3月5日	元治2年	2月8日	
1865年	3月6日	元治2年	2月9日	
1865年	3月7日	元治2年	2月10日	
1865年	3月8日	元治2年	2月11日	
1865年	3月9日	元治2年	2月12日	
1865年	3月10日	元治2年	2月13日	
1865年	3月11日	元治2年	2月14日	
1865年	3月12日	元治2年	2月15日	
1865年	3月13日	元治2年	2月16日	
1865年	3月14日	元治2年	2月17日	
1865年	3月15日	元治2年	2月18日	
1865年	3月16日	元治2年	2月19日	
1865年	3月17日	元治2年	2月20日	
1865年	3月18日	元治2年	2月21日	
1865年	3月19日	元治2年	2月22日	
1865年	3月20日	元治2年	2月23日	
1865年	3月21日	元治2年	2月24日	
1865年	3月22日	元治2年	2月25日	
1865年	3月23日	元治2年	2月26日	
1865年	3月24日	元治2年	2月27日	
1865年	3月25日	元治2年	2月28日	
1865年	3月26日	元治2年	2月29日	
1865年	3月27日	元治2年	3月1日	
1865年	3月28日	元治2年	3月2日	
1865年	3月29日	元治2年	3月3日	
1865年	3月30日	元治2年	3月4日	
1865年	3月31日	元治2年	3月5日	
1865年	4月1日	元治2年	3月6日	
1865年	4月2日	元治2年	3月7日	
1865年	4月3日	元治2年	3月8日	
1865年	4月4日	元治2年	3月9日	
1865年	4月5日	元治2年	3月10日	
1865年	4月6日	元治2年	3月11日	
1865年	4月7日	元治2年	3月12日	(この日に慶応と改元されている)
1865年	4月8日	元治2年	3月13日	
1865年	4月9日	元治2年	3月14日	
1865年	4月10日	元治2年	3月15日	
1865年	4月11日	元治2年	3月16日	
1865年	4月12日	元治2年	3月17日	
1865年	4月13日	元治2年	3月18日	
1865年	4月14日	元治2年	3月19日	
1865年	4月15日	元治2年	3月20日	
1865年	4月16日	元治2年	3月21日	
1865年	4月17日	元治2年	3月22日	
1865年	4月18日	元治2年	3月23日	
1865年	4月19日	元治2年	3月24日	
1865年	4月20日	元治2年	3月25日	
1865年	4月21日	元治2年	3月26日	
1865年	4月22日	元治2年	3月27日	
1865年	4月23日	元治2年	3月28日	
1865年	4月24日	元治2年	3月29日	
1865年	4月25日	慶応元年	4月1日	
1865年	4月26日	慶応元年	4月2日	
1865年	4月27日	慶応元年	4月3日	
1865年	4月28日	慶応元年	4月4日	
1865年	4月29日	慶応元年	4月5日	
1865年	4月30日	慶応元年	4月6日	

1865年	5月1日	慶応元年	4月7日	(日記の保存なし)
1865年	5月2日	慶応元年	4月8日	
1865年	5月3日	慶応元年	4月9日	
1865年	5月4日	慶応元年	4月10日	
1865年	5月5日	慶応元年	4月11日	
1865年	5月6日	慶応元年	4月12日	
1865年	5月7日	慶応元年	4月13日	
1865年	5月8日	慶応元年	4月14日	
1865年	5月9日	慶応元年	4月15日	
1865年	5月10日	慶応元年	4月16日	
1865年	5月11日	慶応元年	4月17日	
1865年	5月12日	慶応元年	4月18日	
1865年	5月13日	慶応元年	4月19日	
1865年	5月14日	慶応元年	4月20日	
1865年	5月15日	慶応元年	4月21日	
1865年	5月16日	慶応元年	4月22日	
1865年	5月17日	慶応元年	4月23日	
1865年	5月18日	慶応元年	4月24日	
1865年	5月19日	慶応元年	4月25日	
1865年	5月20日	慶応元年	4月26日	
1865年	5月21日	慶応元年	4月27日	
1865年	5月22日	慶応元年	4月28日	
1865年	5月23日	慶応元年	4月29日	
1865年	5月24日	慶応元年	4月30日	
1865年	5月25日	慶応元年	5月1日	
1865年	5月26日	慶応元年	5月2日	
1865年	5月27日	慶応元年	5月3日	
1865年	5月28日	慶応元年	5月4日	
1865年	5月29日	慶応元年	5月5日	
1865年	5月30日	慶応元年	5月6日	
1865年	5月31日	慶応元年	5月7日	
1865年	6月1日	慶応元年	5月8日	
1865年	6月2日	慶応元年	5月9日	
1865年	6月3日	慶応元年	5月10日	
1865年	6月4日	慶応元年	5月11日	
1865年	6月5日	慶応元年	5月12日	
1865年	6月6日	慶応元年	5月13日	
1865年	6月7日	慶応元年	5月14日	
1865年	6月8日	慶応元年	5月15日	
1865年	6月9日	慶応元年	5月16日	
1865年	6月10日	慶応元年	5月17日	
1865年	6月11日	慶応元年	5月18日	
1865年	6月12日	慶応元年	5月19日	
1865年	6月13日	慶応元年	5月20日	
1865年	6月14日	慶応元年	5月21日	
1865年	6月15日	慶応元年	5月22日	
1865年	6月16日	慶応元年	5月23日	
1865年	6月17日	慶応元年	5月24日	
1865年	6月18日	慶応元年	5月25日	
1865年	6月19日	慶応元年	5月26日	
1865年	6月20日	慶応元年	5月27日	
1865年	6月21日	慶応元年	5月28日	
1865年	6月22日	慶応元年	5月29日	
1865年	6月23日	慶応元年	閏5月1日	
1865年	6月24日	慶応元年	閏5月2日	
1865年	6月25日	慶応元年	閏5月3日	
1865年	6月26日	慶応元年	閏5月4日	
1865年	6月27日	慶応元年	閏5月5日	
1865年	6月28日	慶応元年	閏5月6日	
1865年	6月29日	慶応元年	閏5月7日	
1865年	6月30日	慶応元年	閏5月8日	

1865年 7月1日 慶応元年閏5月9日 (日記の保存なし)
1865年 7月2日 慶応元年閏5月10日
1865年 7月3日 慶応元年閏5月11日
1865年 7月4日 慶応元年閏5月12日
1865年 7月5日 慶応元年閏5月13日
1865年 7月6日 慶応元年閏5月14日
1865年 7月7日 慶応元年閏5月15日
1865年 7月8日 慶応元年閏5月16日
1865年 7月9日 慶応元年閏5月17日
1865年 7月10日 慶応元年閏5月18日
1865年 7月11日 慶応元年閏5月19日
1865年 7月12日 慶応元年閏5月20日
1865年 7月13日 慶応元年閏5月21日
1865年 7月14日 慶応元年閏5月22日
1865年 7月15日 慶応元年閏5月23日
1865年 7月16日 慶応元年閏5月24日
1865年 7月17日 慶応元年閏5月25日
1865年 7月18日 慶応元年閏5月26日
1865年 7月19日 慶応元年閏5月27日
1865年 7月20日 慶応元年閏5月28日
1865年 7月21日 慶応元年閏5月29日
1865年 7月22日 慶応元年閏5月30日
1865年 7月23日 慶応元年 6月1日
1865年 7月24日 慶応元年 6月2日
1865年 7月25日 慶応元年 6月3日
1865年 7月26日 慶応元年 6月4日
1865年 7月27日 慶応元年 6月5日
1865年 7月28日 慶応元年 6月6日
1865年 7月29日 慶応元年 6月7日
1865年 7月30日 慶応元年 6月8日
1865年 7月31日 慶応元年 6月9日
1865年 8月1日 慶応元年 6月10日
1865年 8月2日 慶応元年 6月11日
1865年 8月3日 慶応元年 6月12日
1865年 8月4日 慶応元年 6月13日
1865年 8月5日 慶応元年 6月14日
1865年 8月6日 慶応元年 6月15日
1865年 8月7日 慶応元年 6月16日
1865年 8月8日 慶応元年 6月17日
1865年 8月9日 慶応元年 6月18日
1865年 8月10日 慶応元年 6月19日
1865年 8月11日 慶応元年 6月20日
1865年 8月12日 慶応元年 6月21日
1865年 8月13日 慶応元年 6月22日
1865年 8月14日 慶応元年 6月23日
1865年 8月15日 慶応元年 6月24日
1865年 8月16日 慶応元年 6月25日
1865年 8月17日 慶応元年 6月26日
1865年 8月18日 慶応元年 6月27日
1865年 8月19日 慶応元年 6月28日
1865年 8月20日 慶応元年 6月29日
1865年 8月21日 慶応元年 7月1日
1865年 8月22日 慶応元年 7月2日
1865年 8月23日 慶応元年 7月3日
1865年 8月24日 慶応元年 7月4日
1865年 8月25日 慶応元年 7月5日
1865年 8月26日 慶応元年 7月6日
1865年 8月27日 慶応元年 7月7日
1865年 8月28日 慶応元年 7月8日
1865年 8月29日 慶応元年 7月9日
1865年 8月30日 慶応元年 7月10日
1865年 8月31日 慶応元年 7月11日

1865年	9月1日	慶応元年	7月12日	(日記の保存なし)
1865年	9月2日	慶応元年	7月13日	
1865年	9月3日	慶応元年	7月14日	
1865年	9月4日	慶応元年	7月15日	
1865年	9月5日	慶応元年	7月16日	
1865年	9月6日	慶応元年	7月17日	
1865年	9月7日	慶応元年	7月18日	
1865年	9月8日	慶応元年	7月19日	
1865年	9月9日	慶応元年	7月20日	
1865年	9月10日	慶応元年	7月21日	
1865年	9月11日	慶応元年	7月22日	
1865年	9月12日	慶応元年	7月23日	
1865年	9月13日	慶応元年	7月24日	
1865年	9月14日	慶応元年	7月25日	
1865年	9月15日	慶応元年	7月26日	
1865年	9月16日	慶応元年	7月27日	
1865年	9月17日	慶応元年	7月28日	
1865年	9月18日	慶応元年	7月29日	
1865年	9月19日	慶応元年	7月30日	
1865年	9月20日	慶応元年	8月1日	
1865年	9月21日	慶応元年	8月2日	
1865年	9月22日	慶応元年	8月3日	
1865年	9月23日	慶応元年	8月4日	
1865年	9月24日	慶応元年	8月5日	
1865年	9月25日	慶応元年	8月6日	
1865年	9月26日	慶応元年	8月7日	
1865年	9月27日	慶応元年	8月8日	
1865年	9月28日	慶応元年	8月9日	
1865年	9月29日	慶応元年	8月10日	
1865年	9月30日	慶応元年	8月11日	
1865年	10月1日	慶応元年	8月12日	
1865年	10月2日	慶応元年	8月13日	
1865年	10月3日	慶応元年	8月14日	
1865年	10月4日	慶応元年	8月15日	
1865年	10月5日	慶応元年	8月16日	
1865年	10月6日	慶応元年	8月17日	
1865年	10月7日	慶応元年	8月18日	
1865年	10月8日	慶応元年	8月19日	
1865年	10月9日	慶応元年	8月20日	
1865年	10月10日	慶応元年	8月21日	
1865年	10月11日	慶応元年	8月22日	
1865年	10月12日	慶応元年	8月23日	
1865年	10月13日	慶応元年	8月24日	
1865年	10月14日	慶応元年	8月25日	
1865年	10月15日	慶応元年	8月26日	
1865年	10月16日	慶応元年	8月27日	
1865年	10月17日	慶応元年	8月28日	
1865年	10月18日	慶応元年	8月29日	
1865年	10月19日	慶応元年	8月30日	
1865年	10月20日	慶応元年	9月1日	
1865年	10月21日	慶応元年	9月2日	
1865年	10月22日	慶応元年	9月3日	
1865年	10月23日	慶応元年	9月4日	
1865年	10月24日	慶応元年	9月5日	
1865年	10月25日	慶応元年	9月6日	
1865年	10月26日	慶応元年	9月7日	
1865年	10月27日	慶応元年	9月8日	
1865年	10月28日	慶応元年	9月9日	
1865年	10月29日	慶応元年	9月10日	
1865年	10月30日	慶応元年	9月11日	
1865年	10月31日	慶応元年	9月12日	

1865年	11月1日	慶応元年	9月13日	(日記の保存なし)
1865年	11月2日	慶応元年	9月14日	
1865年	11月3日	慶応元年	9月15日	
1865年	11月4日	慶応元年	9月16日	
1865年	11月5日	慶応元年	9月17日	
1865年	11月6日	慶応元年	9月18日	
1865年	11月7日	慶応元年	9月19日	
1865年	11月8日	慶応元年	9月20日	
1865年	11月9日	慶応元年	9月21日	
1865年	11月10日	慶応元年	9月22日	
1865年	11月11日	慶応元年	9月23日	
1865年	11月12日	慶応元年	9月24日	
1865年	11月13日	慶応元年	9月25日	
1865年	11月14日	慶応元年	9月26日	
1865年	11月15日	慶応元年	9月27日	
1865年	11月16日	慶応元年	9月28日	
1865年	11月17日	慶応元年	9月29日	
1865年	11月18日	慶応元年	10月1日	
1865年	11月19日	慶応元年	10月2日	
1865年	11月20日	慶応元年	10月3日	
1865年	11月21日	慶応元年	10月4日	
1865年	11月22日	慶応元年	10月5日	
1865年	11月23日	慶応元年	10月6日	
1865年	11月24日	慶応元年	10月7日	
1865年	11月25日	慶応元年	10月8日	
1865年	11月26日	慶応元年	10月9日	
1865年	11月27日	慶応元年	10月10日	
1865年	11月28日	慶応元年	10月11日	
1865年	11月29日	慶応元年	10月12日	
1865年	11月30日	慶応元年	10月13日	
1865年	12月1日	慶応元年	10月14日	
1865年	12月2日	慶応元年	10月15日	
1865年	12月3日	慶応元年	10月16日	
1865年	12月4日	慶応元年	10月17日	
1865年	12月5日	慶応元年	10月18日	
1865年	12月6日	慶応元年	10月19日	
1865年	12月7日	慶応元年	10月20日	
1865年	12月8日	慶応元年	10月21日	
1865年	12月9日	慶応元年	10月22日	
1865年	12月10日	慶応元年	10月23日	
1865年	12月11日	慶応元年	10月24日	
1865年	12月12日	慶応元年	10月25日	
1865年	12月13日	慶応元年	10月26日	
1865年	12月14日	慶応元年	10月27日	
1865年	12月15日	慶応元年	10月28日	
1865年	12月16日	慶応元年	10月29日	
1865年	12月17日	慶応元年	10月30日	
1865年	12月18日	慶応元年	11月1日	
1865年	12月19日	慶応元年	11月2日	
1865年	12月20日	慶応元年	11月3日	
1865年	12月21日	慶応元年	11月4日	
1865年	12月22日	慶応元年	11月5日	
1865年	12月23日	慶応元年	11月6日	
1865年	12月24日	慶応元年	11月7日	
1865年	12月25日	慶応元年	11月8日	
1865年	12月26日	慶応元年	11月9日	
1865年	12月27日	慶応元年	11月10日	
1865年	12月28日	慶応元年	11月11日	
1865年	12月29日	慶応元年	11月12日	
1865年	12月30日	慶応元年	11月13日	
1865年	12月31日	慶応元年	11月14日	

1866年 1月1日 慶応元年 11月15日 (日記の保存なし)
1866年 1月2日 慶応元年 11月16日
1866年 1月3日 慶応元年 11月17日
1866年 1月4日 慶応元年 11月18日
1866年 1月5日 慶応元年 11月19日
1866年 1月6日 慶応元年 11月20日
1866年 1月7日 慶応元年 11月21日
1866年 1月8日 慶応元年 11月22日
1866年 1月9日 慶応元年 11月23日
1866年 1月10日 慶応元年 11月24日
1866年 1月11日 慶応元年 11月25日
1866年 1月12日 慶応元年 11月26日
1866年 1月13日 慶応元年 11月27日
1866年 1月14日 慶応元年 11月28日
1866年 1月15日 慶応元年 11月29日
1866年 1月16日 慶応元年 11月30日
1866年 1月17日 慶応元年 12月1日
1866年 1月18日 慶応元年 12月2日
1866年 1月19日 慶応元年 12月3日
1866年 1月20日 慶応元年 12月4日
1866年 1月21日 慶応元年 12月5日
1866年 1月22日 慶応元年 12月6日
1866年 1月23日 慶応元年 12月7日
1866年 1月24日 慶応元年 12月8日
1866年 1月25日 慶応元年 12月9日
1866年 1月26日 慶応元年 12月10日
1866年 1月27日 慶応元年 12月11日
1866年 1月28日 慶応元年 12月12日
1866年 1月29日 慶応元年 12月13日
1866年 1月30日 慶応元年 12月14日
1866年 1月31日 慶応元年 12月15日
1866年 2月1日 慶応元年 12月16日
1866年 2月2日 慶応元年 12月17日
1866年 2月3日 慶応元年 12月18日
1866年 2月4日 慶応元年 12月19日
1866年 2月5日 慶応元年 12月20日
1866年 2月6日 慶応元年 12月21日
1866年 2月7日 慶応元年 12月22日
1866年 2月8日 慶応元年 12月23日
1866年 2月9日 慶応元年 12月24日
1866年 2月10日 慶応元年 12月25日
1866年 2月11日 慶応元年 12月26日
1866年 2月12日 慶応元年 12月27日
1866年 2月13日 慶応元年 12月28日
1866年 2月14日 慶応元年 12月29日
1866年 2月15日 慶応2年 正月1日
1866年 2月16日 慶応2年 正月2日
1866年 2月17日 慶応2年 正月3日
1866年 2月18日 慶応2年 正月4日
1866年 2月19日 慶応2年 正月5日
1866年 2月20日 慶応2年 正月6日
1866年 2月21日 慶応2年 正月7日
1866年 2月22日 慶応2年 正月8日
1866年 2月23日 慶応2年 正月9日
1866年 2月24日 慶応2年 正月10日
1866年 2月25日 慶応2年 正月11日
1866年 2月26日 慶応2年 正月12日
1866年 2月27日 慶応2年 正月13日
1866年 2月28日 慶応2年 正月14日

(日記の保存なし)

1866年	3月1日	慶応2年	正月15日
1866年	3月2日	慶応2年	正月16日
1866年	3月3日	慶応2年	正月17日
1866年	3月4日	慶応2年	正月18日
1866年	3月5日	慶応2年	正月19日
1866年	3月6日	慶応2年	正月20日
1866年	3月7日	慶応2年	正月21日
1866年	3月8日	慶応2年	正月22日
1866年	3月9日	慶応2年	正月23日
1866年	3月10日	慶応2年	正月24日
1866年	3月11日	慶応2年	正月25日
1866年	3月12日	慶応2年	正月26日
1866年	3月13日	慶応2年	正月27日
1866年	3月14日	慶応2年	正月28日
1866年	3月15日	慶応2年	正月29日
1866年	3月16日	慶応2年	正月30日
1866年	3月17日	慶応2年	2月1日
1866年	3月18日	慶応2年	2月2日
1866年	3月19日	慶応2年	2月3日
1866年	3月20日	慶応2年	2月4日
1866年	3月21日	慶応2年	2月5日
1866年	3月22日	慶応2年	2月6日
1866年	3月23日	慶応2年	2月7日
1866年	3月24日	慶応2年	2月8日
1866年	3月25日	慶応2年	2月9日
1866年	3月26日	慶応2年	2月10日
1866年	3月27日	慶応2年	2月11日
1866年	3月28日	慶応2年	2月12日
1866年	3月29日	慶応2年	2月13日
1866年	3月30日	慶応2年	2月14日
1866年	3月31日	慶応2年	2月15日
1866年	4月1日	慶応2年	2月16日
1866年	4月2日	慶応2年	2月17日
1866年	4月3日	慶応2年	2月18日
1866年	4月4日	慶応2年	2月19日
1866年	4月5日	慶応2年	2月20日
1866年	4月6日	慶応2年	2月21日
1866年	4月7日	慶応2年	2月22日
1866年	4月8日	慶応2年	2月23日
1866年	4月9日	慶応2年	2月24日
1866年	4月10日	慶応2年	2月25日
1866年	4月11日	慶応2年	2月26日
1866年	4月12日	慶応2年	2月27日
1866年	4月13日	慶応2年	2月28日
1866年	4月14日	慶応2年	2月29日
1866年	4月15日	慶応2年	3月1日
1866年	4月16日	慶応2年	3月2日
1866年	4月17日	慶応2年	3月3日
1866年	4月18日	慶応2年	3月4日
1866年	4月19日	慶応2年	3月5日
1866年	4月20日	慶応2年	3月6日
1866年	4月21日	慶応2年	3月7日
1866年	4月22日	慶応2年	3月8日
1866年	4月23日	慶応2年	3月9日
1866年	4月24日	慶応2年	3月10日
1866年	4月25日	慶応2年	3月11日
1866年	4月26日	慶応2年	3月12日
1866年	4月27日	慶応2年	3月13日
1866年	4月28日	慶応2年	3月14日
1866年	4月29日	慶応2年	3月15日
1866年	4月30日	慶応2年	3月16日

1866年	5月1日	慶応2年	3月17日	(日記の保存なし)
1866年	5月2日	慶応2年	3月18日	
1866年	5月3日	慶応2年	3月19日	
1866年	5月4日	慶応2年	3月20日	
1866年	5月5日	慶応2年	3月21日	
1866年	5月6日	慶応2年	3月22日	
1866年	5月7日	慶応2年	3月23日	
1866年	5月8日	慶応2年	3月24日	
1866年	5月9日	慶応2年	3月25日	
1866年	5月10日	慶応2年	3月26日	
1866年	5月11日	慶応2年	3月27日	
1866年	5月12日	慶応2年	3月28日	
1866年	5月13日	慶応2年	3月29日	
1866年	5月14日	慶応2年	3月30日	
1866年	5月15日	慶応2年	4月1日	
1866年	5月16日	慶応2年	4月2日	
1866年	5月17日	慶応2年	4月3日	
1866年	5月18日	慶応2年	4月4日	
1866年	5月19日	慶応2年	4月5日	
1866年	5月20日	慶応2年	4月6日	
1866年	5月21日	慶応2年	4月7日	
1866年	5月22日	慶応2年	4月8日	
1866年	5月23日	慶応2年	4月9日	
1866年	5月24日	慶応2年	4月10日	
1866年	5月25日	慶応2年	4月11日	
1866年	5月26日	慶応2年	4月12日	
1866年	5月27日	慶応2年	4月13日	
1866年	5月28日	慶応2年	4月14日	
1866年	5月29日	慶応2年	4月15日	
1866年	5月30日	慶応2年	4月16日	
1866年	5月31日	慶応2年	4月17日	
1866年	6月1日	慶応2年	4月18日	
1866年	6月2日	慶応2年	4月19日	
1866年	6月3日	慶応2年	4月20日	
1866年	6月4日	慶応2年	4月21日	
1866年	6月5日	慶応2年	4月22日	
1866年	6月6日	慶応2年	4月23日	
1866年	6月7日	慶応2年	4月24日	
1866年	6月8日	慶応2年	4月25日	
1866年	6月9日	慶応2年	4月26日	
1866年	6月10日	慶応2年	4月27日	
1866年	6月11日	慶応2年	4月28日	
1866年	6月12日	慶応2年	4月29日	
1866年	6月13日	慶応2年	5月1日	
1866年	6月14日	慶応2年	5月2日	
1866年	6月15日	慶応2年	5月3日	
1866年	6月16日	慶応2年	5月4日	
1866年	6月17日	慶応2年	5月5日	
1866年	6月18日	慶応2年	5月6日	
1866年	6月19日	慶応2年	5月7日	
1866年	6月20日	慶応2年	5月8日	
1866年	6月21日	慶応2年	5月9日	
1866年	6月22日	慶応2年	5月10日	
1866年	6月23日	慶応2年	5月11日	
1866年	6月24日	慶応2年	5月12日	
1866年	6月25日	慶応2年	5月13日	
1866年	6月26日	慶応2年	5月14日	
1866年	6月27日	慶応2年	5月15日	
1866年	6月28日	慶応2年	5月16日	
1866年	6月29日	慶応2年	5月17日	
1866年	6月30日	慶応2年	5月18日	

1866年	7月1日	慶応2年	5月19日	(日記の保存なし)
1866年	7月2日	慶応2年	5月20日	
1866年	7月3日	慶応2年	5月21日	
1866年	7月4日	慶応2年	5月22日	
1866年	7月5日	慶応2年	5月23日	
1866年	7月6日	慶応2年	5月24日	
1866年	7月7日	慶応2年	5月25日	
1866年	7月8日	慶応2年	5月26日	
1866年	7月9日	慶応2年	5月27日	
1866年	7月10日	慶応2年	5月28日	
1866年	7月11日	慶応2年	5月29日	
1866年	7月12日	慶応2年	6月1日	
1866年	7月13日	慶応2年	6月2日	
1866年	7月14日	慶応2年	6月3日	
1866年	7月15日	慶応2年	6月4日	
1866年	7月16日	慶応2年	6月5日	
1866年	7月17日	慶応2年	6月6日	
1866年	7月18日	慶応2年	6月7日	
1866年	7月19日	慶応2年	6月8日	
1866年	7月20日	慶応2年	6月9日	
1866年	7月21日	慶応2年	6月10日	
1866年	7月22日	慶応2年	6月11日	
1866年	7月23日	慶応2年	6月12日	
1866年	7月24日	慶応2年	6月13日	
1866年	7月25日	慶応2年	6月14日	
1866年	7月26日	慶応2年	6月15日	
1866年	7月27日	慶応2年	6月16日	
1866年	7月28日	慶応2年	6月17日	
1866年	7月29日	慶応2年	6月18日	
1866年	7月30日	慶応2年	6月19日	
1866年	7月31日	慶応2年	6月20日	
1866年	8月1日	慶応2年	6月21日	
1866年	8月2日	慶応2年	6月22日	
1866年	8月3日	慶応2年	6月23日	
1866年	8月4日	慶応2年	6月24日	
1866年	8月5日	慶応2年	6月25日	
1866年	8月6日	慶応2年	6月26日	
1866年	8月7日	慶応2年	6月27日	
1866年	8月8日	慶応2年	6月28日	
1866年	8月9日	慶応2年	6月29日	
1866年	8月10日	慶応2年	7月1日	
1866年	8月11日	慶応2年	7月2日	
1866年	8月12日	慶応2年	7月3日	
1866年	8月13日	慶応2年	7月4日	
1866年	8月14日	慶応2年	7月5日	
1866年	8月15日	慶応2年	7月6日	
1866年	8月16日	慶応2年	7月7日	
1866年	8月17日	慶応2年	7月8日	
1866年	8月18日	慶応2年	7月9日	
1866年	8月19日	慶応2年	7月10日	
1866年	8月20日	慶応2年	7月11日	
1866年	8月21日	慶応2年	7月12日	
1866年	8月22日	慶応2年	7月13日	
1866年	8月23日	慶応2年	7月14日	
1866年	8月24日	慶応2年	7月15日	
1866年	8月25日	慶応2年	7月16日	
1866年	8月26日	慶応2年	7月17日	
1866年	8月27日	慶応2年	7月18日	
1866年	8月28日	慶応2年	7月19日	
1866年	8月29日	慶応2年	7月20日	
1866年	8月30日	慶応2年	7月21日	
1866年	8月31日	慶応2年	7月22日	

1866年	9月1日	慶応2年	7月23日	(日記の保存なし)
1866年	9月2日	慶応2年	7月24日	
1866年	9月3日	慶応2年	7月25日	
1866年	9月4日	慶応2年	7月26日	
1866年	9月5日	慶応2年	7月27日	
1866年	9月6日	慶応2年	7月28日	
1866年	9月7日	慶応2年	7月29日	
1866年	9月8日	慶応2年	7月30日	
1866年	9月9日	慶応2年	8月1日	
1866年	9月10日	慶応2年	8月2日	
1866年	9月11日	慶応2年	8月3日	
1866年	9月12日	慶応2年	8月4日	
1866年	9月13日	慶応2年	8月5日	
1866年	9月14日	慶応2年	8月6日	
1866年	9月15日	慶応2年	8月7日	
1866年	9月16日	慶応2年	8月8日	
1866年	9月17日	慶応2年	8月9日	
1866年	9月18日	慶応2年	8月10日	
1866年	9月19日	慶応2年	8月11日	
1866年	9月20日	慶応2年	8月12日	
1866年	9月21日	慶応2年	8月13日	
1866年	9月22日	慶応2年	8月14日	
1866年	9月23日	慶応2年	8月15日	
1866年	9月24日	慶応2年	8月16日	
1866年	9月25日	慶応2年	8月17日	
1866年	9月26日	慶応2年	8月18日	
1866年	9月27日	慶応2年	8月19日	
1866年	9月28日	慶応2年	8月20日	
1866年	9月29日	慶応2年	8月21日	
1866年	9月30日	慶応2年	8月22日	
1866年	10月1日	慶応2年	8月23日	
1866年	10月2日	慶応2年	8月24日	
1866年	10月3日	慶応2年	8月25日	
1866年	10月4日	慶応2年	8月26日	
1866年	10月5日	慶応2年	8月27日	
1866年	10月6日	慶応2年	8月28日	
1866年	10月7日	慶応2年	8月29日	
1866年	10月8日	慶応2年	8月30日	
1866年	10月9日	慶応2年	9月1日	
1866年	10月10日	慶応2年	9月2日	
1866年	10月11日	慶応2年	9月3日	
1866年	10月12日	慶応2年	9月4日	
1866年	10月13日	慶応2年	9月5日	
1866年	10月14日	慶応2年	9月6日	
1866年	10月15日	慶応2年	9月7日	
1866年	10月16日	慶応2年	9月8日	
1866年	10月17日	慶応2年	9月9日	
1866年	10月18日	慶応2年	9月10日	
1866年	10月19日	慶応2年	9月11日	
1866年	10月20日	慶応2年	9月12日	
1866年	10月21日	慶応2年	9月13日	
1866年	10月22日	慶応2年	9月14日	
1866年	10月23日	慶応2年	9月15日	
1866年	10月24日	慶応2年	9月16日	
1866年	10月25日	慶応2年	9月17日	
1866年	10月26日	慶応2年	9月18日	
1866年	10月27日	慶応2年	9月19日	
1866年	10月28日	慶応2年	9月20日	
1866年	10月29日	慶応2年	9月21日	
1866年	10月30日	慶応2年	9月22日	
1866年	10月31日	慶応2年	9月23日	

1866年	11月1日	慶応2年	9月24日	(日記の保存なし)
1866年	11月2日	慶応2年	9月25日	
1866年	11月3日	慶応2年	9月26日	
1866年	11月4日	慶応2年	9月27日	
1866年	11月5日	慶応2年	9月28日	
1866年	11月6日	慶応2年	9月29日	
1866年	11月7日	慶応2年	10月1日	
1866年	11月8日	慶応2年	10月2日	
1866年	11月9日	慶応2年	10月3日	
1866年	11月10日	慶応2年	10月4日	
1866年	11月11日	慶応2年	10月5日	
1866年	11月12日	慶応2年	10月6日	
1866年	11月13日	慶応2年	10月7日	
1866年	11月14日	慶応2年	10月8日	
1866年	11月15日	慶応2年	10月9日	
1866年	11月16日	慶応2年	10月10日	
1866年	11月17日	慶応2年	10月11日	
1866年	11月18日	慶応2年	10月12日	
1866年	11月19日	慶応2年	10月13日	
1866年	11月20日	慶応2年	10月14日	
1866年	11月21日	慶応2年	10月15日	
1866年	11月22日	慶応2年	10月16日	
1866年	11月23日	慶応2年	10月17日	
1866年	11月24日	慶応2年	10月18日	
1866年	11月25日	慶応2年	10月19日	
1866年	11月26日	慶応2年	10月20日	
1866年	11月27日	慶応2年	10月21日	
1866年	11月28日	慶応2年	10月22日	
1866年	11月29日	慶応2年	10月23日	
1866年	11月30日	慶応2年	10月24日	
1866年	12月1日	慶応2年	10月25日	
1866年	12月2日	慶応2年	10月26日	
1866年	12月3日	慶応2年	10月27日	
1866年	12月4日	慶応2年	10月28日	
1866年	12月5日	慶応2年	10月29日	
1866年	12月6日	慶応2年	10月30日	
1866年	12月7日	慶応2年	11月1日	
1866年	12月8日	慶応2年	11月2日	
1866年	12月9日	慶応2年	11月3日	
1866年	12月10日	慶応2年	11月4日	
1866年	12月11日	慶応2年	11月5日	
1866年	12月12日	慶応2年	11月6日	
1866年	12月13日	慶応2年	11月7日	
1866年	12月14日	慶応2年	11月8日	
1866年	12月15日	慶応2年	11月9日	
1866年	12月16日	慶応2年	11月10日	
1866年	12月17日	慶応2年	11月11日	
1866年	12月18日	慶応2年	11月12日	
1866年	12月19日	慶応2年	11月13日	
1866年	12月20日	慶応2年	11月14日	
1866年	12月21日	慶応2年	11月15日	
1866年	12月22日	慶応2年	11月16日	
1866年	12月23日	慶応2年	11月17日	
1866年	12月24日	慶応2年	11月18日	
1866年	12月25日	慶応2年	11月19日	
1866年	12月26日	慶応2年	11月20日	
1866年	12月27日	慶応2年	11月21日	
1866年	12月28日	慶応2年	11月22日	
1866年	12月29日	慶応2年	11月23日	
1866年	12月30日	慶応2年	11月24日	
1866年	12月31日	慶応2年	11月25日	

1867年	1月1日	慶応2年	11月26日	(日記の保存なし)
1867年	1月2日	慶応2年	11月27日	
1867年	1月3日	慶応2年	11月28日	
1867年	1月4日	慶応2年	11月29日	
1867年	1月5日	慶応2年	11月30日	
1867年	1月6日	慶応2年	12月1日	
1867年	1月7日	慶応2年	12月2日	
1867年	1月8日	慶応2年	12月3日	
1867年	1月9日	慶応2年	12月4日	
1867年	1月10日	慶応2年	12月5日	
1867年	1月11日	慶応2年	12月6日	
1867年	1月12日	慶応2年	12月7日	
1867年	1月13日	慶応2年	12月8日	
1867年	1月14日	慶応2年	12月9日	
1867年	1月15日	慶応2年	12月10日	
1867年	1月16日	慶応2年	12月11日	
1867年	1月17日	慶応2年	12月12日	
1867年	1月18日	慶応2年	12月13日	
1867年	1月19日	慶応2年	12月14日	
1867年	1月20日	慶応2年	12月15日	
1867年	1月21日	慶応2年	12月16日	
1867年	1月22日	慶応2年	12月17日	
1867年	1月23日	慶応2年	12月18日	
1867年	1月24日	慶応2年	12月19日	
1867年	1月25日	慶応2年	12月20日	
1867年	1月26日	慶応2年	12月21日	
1867年	1月27日	慶応2年	12月22日	
1867年	1月28日	慶応2年	12月23日	
1867年	1月29日	慶応2年	12月24日	
1867年	1月30日	慶応2年	12月25日	
1867年	1月31日	慶応2年	12月26日	
1867年	2月1日	慶応2年	12月27日	
1867年	2月2日	慶応2年	12月28日	
1867年	2月3日	慶応2年	12月29日	
1867年	2月4日	慶応2年	12月30日	(元治元年12月末から2年間は日記の保存なし)
1867年	2月5日	慶応3年	正月1日	快晴 昨夜雪降 一寸程積 (昨夜吉屋某方で品川町の妻が頭一ヶ所2寸5歩右腕1ヶ所2寸位の金瘡と医者が報告)
1867年	2月6日	慶応3年	正月2日	曇 今晩寅之刻頃地震 今日雪少し降 (旧臘晦日長柄の者福田某が持病で火中に転び大怪我・親類が集まり相談していると夜中に某が刃傷に及ぶ・殺人2人・傷害1人・本人は切腹死亡)
1867年	2月7日	慶応3年	正月3日	晴 (昨日の件の見分の記録あり)
1867年	2月8日	慶応3年	正月4日	晴
1867年	2月9日	慶応3年	正月5日	曇 今暁子の刻過より雨時々降 午の刻頃止
1867年	2月10日	慶応3年	正月6日	曇 昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (日記がないので事情不明だが木造村西教寺・飯詰村法林寺・小泊村西願寺並びに豊岡村光勝寺が禁足御免になっている)
1867年	2月11日	慶応3年	正月7日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 四寸程積 (七種の御祝儀・御由緒の面々登城)
1867年	2月12日	慶応3年	正月8日	曇 昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積 下から続く 7万744石余・外二新田損耗17万1162石余・潰家25軒・半潰れ家40軒・土蔵5か所人馬怪我なし、御系譜で御賞金200疋)
1867年	2月13日	慶応3年	正月9日	曇 今日雪降 四寸程積 (去ル5日二条御城江参入正二位権大納言御位記宣旨御頂戴引続き將軍宣下大?近衛大将宣旨等御頂戴、公儀へ当年の損耗報告:高10万石の内 上に続く)
1867年	2月14日	慶応3年	正月10日	曇 昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1867年	2月15日	慶応3年	正月11日	曇 昨夜雪少し降
1867年	2月16日	慶応3年	正月12日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (数年出精の和学士等に御賞(金300疋・200疋・100疋))
1867年	2月17日	慶応3年	正月13日	晴
1867年	2月18日	慶応3年	正月14日	曇 今日雪降 二尺程積
1867年	2月19日	慶応3年	正月15日	曇 昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積 (御弓師御矢師とも例年の通り御弦並びに御矢差し上げる・御祝儀鳥目1貫文宛下し置かれる)
1867年	2月20日	慶応3年	正月16日	曇 昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積
1867年	2月21日	慶応3年	正月17日	快晴
1867年	2月22日	慶応3年	正月18日	快晴
1867年	2月23日	慶応3年	正月19日	快晴
1867年	2月24日	慶応3年	正月20日	快晴 (人事異動)
1867年	2月25日	慶応3年	正月21日	快晴 (五所川原村玄光寺・鶴田村教願寺・桑野木田村最勝寺・藤崎村称名寺・木造村慶惣寺・藻川村善照寺の慎み御免・事情不明)
1867年	2月26日	慶応3年	正月22日	快晴 (殿様が一昨26日御機嫌伺いに(江戸城に)登城、(献上物御免の例外だった)御鷹も追って相達するまで以来献上に及ばないと老中より申し渡される、近衛家との縁組を進めている)
1867年	2月27日	慶応3年	正月23日	快晴
1867年	2月28日	慶応3年	正月24日	曇 (人事異動)

1867年	3月1日	慶応3年	正月25日	快晴	(旧臘29日(12月29日)主上崩御:主上は平出・崩御も平出だが主上の下に書かれている場合は欠字すらない・この辺りのルールは分からない)
1867年	3月2日	慶応3年	正月26日	晴	
1867年	3月3日	慶応3年	正月27日	晴	
1867年	3月4日	慶応3年	正月28日	曇	今日雪少し降 (人事異動)
1867年	3月5日	慶応3年	正月29日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積
1867年	3月6日	慶応3年	2月1日	晴	昨夜雪少し降 (去る4月大間越御関所近くに松前様御廻米積破船の挨拶が来て返事を出す・多分入ってきた金を担当者に分けている、人事異動)
1867年	3月7日	慶応3年	2月2日	曇	巳の刻過より雨時々降 酉の刻過止
1867年	3月8日	慶応3年	2月3日	曇	今日雪少し降
1867年	3月9日	慶応3年	2月4日	曇	午の刻過より雨降 戌の刻過止
1867年	3月10日	慶応3年	2月5日	晴	戌の刻頃より雨降
1867年	3月11日	慶応3年	2月6日	曇	昨夜よりの雨今日二及 巳の刻過止 今日雪降 三寸程積り
1867年	3月12日	慶応3年	2月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (昨年晦日に殺人自殺の長柄の者福田某の御給分召し上げられる)
1867年	3月13日	慶応3年	2月8日	曇	昨夜雪少し降 辰の刻過より小雨降 巳の刻過止
1867年	3月14日	慶応3年	2月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1867年	3月15日	慶応3年	2月10日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (清水森村の郷蔵に盗賊が忍び入り鎌様の物で8俵抜き取られる・庄屋五人組に過料1貫500文1貫200文、人事異動)
1867年	3月16日	慶応3年	2月11日	曇	寅の刻過より雨時々降 申の刻過止 (山形平八を長柄奉行格・棟方秀一を御使番に等多数の人事異動)
1867年	3月17日	慶応3年	2月12日	曇	巳の刻過より雨時々降 申の刻過止 (修武道で種田流槍術御名代御家老が見分・大寄合以上見物、人事異動)
1867年	3月18日	慶応3年	2月13日	曇	
1867年	3月19日	慶応3年	2月14日	曇	未の刻過より雨時々降 酉の刻過止 (去る23日夜藤崎村で出火・類焼27人?(当該日には出火の記事が見えたらない)の者ども1人に1俵充7俵の御手下し置かれる)
1867年	3月20日	慶応3年	2月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (修武道で槍術を御名代御家老が見分・大寄合以上見物)
1867年	3月21日	慶応3年	2月16日	曇	午の刻頃地震少し (去る8月19日本町で御手廻与力が成田某に深手を負わせ自害した・自害の方は無罪深手の成田は半知50石とし申し立てにより身寄の養子に残す)
1867年	3月22日	慶応3年	2月17日	曇	亥の刻頃より雨降 (昨年御国元違作・御領民の撫育のため殿様が暫時御下向をお願いしていた・来る13日江戸御発駕と仰せ出される、2月6日発の7日振りの飛脚が今日到着)
1867年	3月23日	慶応3年	2月18日	曇	(2月18日から30日までの日記の保存なし)
1867年	3月24日	慶応3年	2月19日		
1867年	3月25日	慶応3年	2月20日		
1867年	3月26日	慶応3年	2月21日		
1867年	3月27日	慶応3年	2月22日		
1867年	3月28日	慶応3年	2月23日		
1867年	3月29日	慶応3年	2月24日		
1867年	3月30日	慶応3年	2月25日		
1867年	3月31日	慶応3年	2月26日		
1867年	4月1日	慶応3年	2月27日		
1867年	4月2日	慶応3年	2月28日		
1867年	4月3日	慶応3年	2月29日		
1867年	4月4日	慶応3年	2月30日		(2月18日から30日までの日記の保存なし)
1867年	4月5日	慶応3年	3月1日	晴	(不明日に横内組筒井・野尻・大矢沢・横内4ヶ村の流木伐取並びに炭焼釜江え登山の10人中6人が頓死4人が中風様の病気になる、殿様は13日御発駕籠今は道中、江戸で人事異動)
1867年	4月6日	慶応3年	3月2日	曇	未の刻過より雨時々降 夜二入同断
1867年	4月7日	慶応3年	3月3日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 (御在中御城御番人を増やす、安済丸の出納は士官(の仕事だったものを)から勘定人とする、豊島川の出水で殿様が遅れている)
1867年	4月8日	慶応3年	3月4日	曇	
1867年	4月9日	慶応3年	3月5日	曇	今日雪少し降 亥の刻過より雨降
1867年	4月10日	慶応3年	3月6日	曇	昨夜よりの雨今日二及 巳の刻過止 (今日未の刻過殿様御着城)
1867年	4月11日	慶応3年	3月7日	快晴	
1867年	4月12日	慶応3年	3月8日	快晴	(西洋砲詮索砲隊精錬等に付人事異動、京都近衛様御警衛登りの者達に御賞・御酒代、割付奉公から逃れるなどの御目付触)
1867年	4月13日	慶応3年	3月9日	曇	午の刻過より雨時々降 夜二入同断
1867年	4月14日	慶応3年	3月10日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止
1867年	4月15日	慶応3年	3月11日	晴	(去る5日暮六時頃赤石組金井ヶ沢で出火・鴨村を含め類焼とも35軒焼失)
1867年	4月16日	慶応3年	3月12日	曇	巳の刻過より小雨降
1867年	4月17日	慶応3年	3月13日	晴	
1867年	4月18日	慶応3年	3月14日	曇	申の刻頃より小雨降 夜二入同断 下から続く 主上崩御も平出、3日立ち12日振りの飛脚が今日到着)
1867年	4月19日	慶応3年	3月15日	曇	昨夜よりの小雨今日二及 時々降 申の刻頃止 今日西南の風強し (小山内清之丞を郡奉行に等の人事異動、安済丸合船御用で小山等に銀子2・3枚下し置かれている、 上に続く)
1867年	4月20日	慶応3年	3月16日	曇	
1867年	4月21日	慶応3年	3月17日	晴	卯の刻過小雨降 即刻止 (殿様が先年上京後永々御在府遊ばされ候に付……御救いに下される米10000俵:割合弘前1700・青森1200・在方5500・惣寺社300俵等)
1867年	4月22日	慶応3年	3月18日	曇	(人事異動、去る29日大鱈組居土村での類焼3軒に1俵死痛家5軒に2斗宛御手当米計5俵2斗下し置かれる、昨17日夕七時過ぎ長柄の者の祖母が大久保村で 欄外(*)に続く)
1867年	4月23日	慶応3年	3月19日	曇	未の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1867年	4月24日	慶応3年	3月20日	晴	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止
1867年	4月25日	慶応3年	3月21日	晴	(下向の節格別として12人に御酒代、18日に記述の殺人者の親(手廻与力)が切腹?多分生きている)
1867年	4月26日	慶応3年	3月22日	晴	(自分物入りで悪路の街道を盛土した御城付足軽格の男に御酒代鳥目1貫文下し置かれる)
1867年	4月27日	慶応3年	3月23日	曇	未の刻過雨降 即刻止
1867年	4月28日	慶応3年	3月24日	晴	(18日の死亡者(45歳)の傷の状況あり:右の手甲刀疵(人指ゆひより無名指迄切付1ヶ所)等・他の持ち物の詳細・濁点半濁点なし、京都の前関白様等13人に蠟燭唐塗等の御進物あり)
1867年	4月29日	慶応3年	3月25日	快晴	(革製甲冑師鉄金具師を本役にとの人事異動)
1867年	4月30日	慶応3年	3月26日	快晴	

(*)御手廻与力の二男に切害される・殺人者は自害、去る5日出火の金井ヶ沢・鴨村の35軒に御手当米35俵を下し置かれる)

1867年	5月1日	慶応3年	3月27日 曇 今暁亥の刻頃より小雨降 辰の刻過止 下から続く 良かった2人に御賞金300疋・関係者に御酒代500文～1貫500文下し置かれる、人事異動、帯刀御免)
1867年	5月2日	慶応3年	3月28日 快晴 (山中兵部を家老職に領分中乗與免許・沢與左衛門を留守居組頭・相馬佐左衛門を用人に等の大物多数の人事異動、一昨年5月の朱之丸御用銅船破船に対応が 上に続く
1867年	5月3日	慶応3年	3月29日 晴
1867年	5月4日	慶応3年	4月1日 晴
1867年	5月5日	慶応3年	4月2日 晴 (去月29日朝五時頃より広田組喰川村で出火・類焼とも36軒焼失屋九時頃鎮火)
1867年	5月6日	慶応3年	4月3日 曇
1867年	5月7日	慶応3年	4月4日 曇 (御賞) 下から続く 岩木山参詣に御触れに反した大きな幟・太鼓打ちたたき往来等の5人に過料1貫200文宛・脇差を取り上げる)
1867年	5月8日	慶応3年	4月5日 曇 未の刻過より雨降 夜二入同断 (去る9月19日夜郷蔵から米を盗まれた諏訪堂村の郷蔵守に過料銭1貫800文、当年柄米価格別引登り小者共難渋……、去る8月の 上に続く
1867年	5月9日	慶応3年	4月6日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻過止
1867年	5月10日	慶応3年	4月7日 快晴 (人事異動)
1867年	5月11日	慶応3年	4月8日 曇 卯の刻過より小雨降 即刻止 (医学館で望みの族に種痘をしていたがしない者も多かった・昨年新田在より麻疹流行・頃日に至り弘前にも・領内全員に種痘を手配する)
1867年	5月12日	慶応3年	4月9日 晴 ((平出)將軍(欠字)宣下……、(平出)主上(そのまま続けて)崩御……)
1867年	5月13日	慶応3年	4月10日 快晴 (人事異動)
1867年	5月14日	慶応3年	4月11日 晴 (御賞)
1867年	5月15日	慶応3年	4月12日 晴 午の刻過より雨時々降 夜二入同断
1867年	5月16日	慶応3年	4月13日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 未の刻過止 下から続く 100人余に御賞・御酒代等、不明日に浪岡組高館村で出火・類焼とも11軒・1軒に1俵宛御手当米11俵下し置かれる)
1867年	5月17日	慶応3年	4月14日 曇 巳の刻過より小雨時々降 未の刻過止 (大間越町の補助者等に御酒代銀5両・鳥目1貫文・700文を下し置かれる) 下から続く 他の安済丸合船関係者にも昇任・ 上に続く
1867年	5月18日	慶応3年	4月15日 晴 (稽古館御用掛数年出精・殊に安済丸合船掛合の処最初凶引きより皆出来まで悉皆引擔その上航海方上締りに骨折りの石郷岡鼎に勤料1両増御中小姓格に仰せ付ける、 上に続く
1867年	5月19日	慶応3年	4月16日 晴
1867年	5月20日	慶応3年	4月17日 晴
1867年	5月21日	慶応3年	4月18日 晴 (津軽廷尉を馬廻組頭にとの人事異動、栗橋御閑所番人御出入りの2人に御手当500疋宛下され方仰せ付けられる(2人は多分幕府役人で袖の下?)
1867年	5月22日	慶応3年	4月19日 晴 下から続く 関し取るべき措置あり・大行天皇と書いてある)
1867年	5月23日	慶応3年	4月20日 快晴 (宇和野で両組頭の内習高覧、去る10日江戸表発道中8日振りの飛脚到着、月並御礼の節麻上下又は上下だったものを羽織袴に簡素化との御目付触れ、主上崩御に 上に続く
1867年	5月24日	慶応3年	4月21日 晴 (人事異動)
1867年	5月25日	慶応3年	4月22日 曇 (昨年の領内出奔者9人の名あり)
1867年	5月26日	慶応3年	4月23日 快晴
1867年	5月27日	慶応3年	4月24日 晴 (今日宇和野で大組御持筒の野稽古高覧、実貞に39年務めた五人組に御酒代鳥目700文) 下から続く 酒屋江押入抜き身で強盗・これを白状したもの)
1867年	5月28日	慶応3年	4月25日 曇 (飛脚で早着の大組足軽に御酒代鳥目700文、この度京都詰合の石山・成田・高木・七戸・三上が御貸人の雇小人5人を手打ちに・去月27日夜御長屋を忍び出下加茂村の 上に続く
1867年	5月29日	慶応3年	4月26日 曇 午の刻頃より雨降 申の刻過止
1867年	5月30日	慶応3年	4月27日 曇 (昨九時頃繆ヶ沢釣町より出火・新町濱町迄40軒位類焼・御蔵に別条なし、新庄領舟形駅・小国郷より仙台を廻って通る面々あり・やめるとの御目付触)
1867年	5月31日	慶応3年	4月28日 快晴 (去る24日夜赤田組鶴田村で出火・類焼とも29軒焼失)
1867年	6月1日	慶応3年	4月29日 快晴 (子供が沢山いて何人か死亡し同じ名前を付けた不埒な御旗警固の勤料15俵差引御城付足軽格に役下げ)
1867年	6月2日	慶応3年	4月30日 快晴
1867年	6月3日	慶応3年	5月1日 曇 未の刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動、去る26日夜九時半頃繆ヶ沢釣町の出火は翌朝六時半頃鎮火・本家33軒・仮屋15軒・漬家3軒・半焼1軒・土蔵1ヶ所焼失)
1867年	6月4日	慶応3年	5月2日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 (人事異動)
1867年	6月5日	慶応3年	5月3日 晴 (当検見で場違いの場所に案内した深郷田村の百姓9人に鞭刑3鞭宛……関係者多数に御役取放・押込30日・過料銭1貫800文等々の罰)
1867年	6月6日	慶応3年	5月4日 曇 午の刻過より雨降 則刻止 (土場掛合出精に御賞金500疋、町奉行所田植米11俵余を足米して皮師共並びに裏小屋の者共江1人5升宛補助を申付ける、人事異動)
1867年	6月7日	慶応3年	5月5日 快晴 (人事異動、この度焼失の繆ヶ沢の52軒に1軒に付2斗宛・昨年焼失の者共江御払い受け材木の内50本宛御手当を申付ける)
1867年	6月8日	慶応3年	5月6日 曇 卯の刻過より雨降 夜に入同断
1867年	6月9日	慶応3年	5月7日 曇 昨夜よりの雨及今日 時々降 夜二入同断 (家老等風気の者多し、人事異動、南溜池土居通りの木に徒するなどの御目付触)
1867年	6月10日	慶応3年	5月8日 晴 昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 (人事異動)
1867年	6月11日	慶応3年	5月9日 曇 辰の刻頃より雨降 巳の刻過止 (宇和野で諸手者頭の野稽古高覧のはずが雨天で延引)
1867年	6月12日	慶応3年	5月10日 晴
1867年	6月13日	慶応3年	5月11日 晴 下から続く 荒しがあった入内村観音堂境内に植えた小杉が折れ伐り取りがあり木品取り上げ社司に慎)
1867年	6月14日	慶応3年	5月12日 快晴 (深浦町の難渋のものに補助塩を差し出した男に御酒代銀5両を下し置かれる、日記物書当分見習い等の人事異動、当3月19日脇元村領で朱之丸御城米破船、杉伐 上に続く
1867年	6月15日	慶応3年	5月13日 快晴
1867年	6月16日	慶応3年	5月14日 快晴 (不行き届きの座頭頭に戸へ) 16日から続く 居村の秣場に他村の者が仕立た松杉545本を伐り荒した嘉瀬村の男に鞭計3鞭)
1867年	6月17日	慶応3年	5月15日 晴 (外馬場で馬術高覧、西館字膳等に御刀拝領を仰せ付ける、剣術出精等で人事異動、去月24日赤田組鶴田村の出火で4軒を除く25軒に1俵宛25俵の御手当を下し置かれる)
1867年	6月18日	慶応3年	5月16日 快晴 (当2月朔日木造御蔵より駄下げ米8俵を事故で2俵を濡れ米にし干して駄下げをしたが2俵より2升5合抜米の手段をした廻閤村の男に鞭計6鞭居村徘徊これまで通り、 14日に続く
1867年	6月19日	慶応3年	5月17日 快晴 申の刻過より雨降 即刻止 卯の刻過より雨時々降 (別段御用出精に御賞金50疋) 下から続く 御取上げの上鞭刑15鞭居村徘徊これまで通り、 欄外(*)に続く
1867年	6月20日	慶応3年	5月18日 曇 昨夜よりの雨及今日 時々降 巳の刻過止 下から続く 鞭刑3鞭・五軒組合庄屋等の関係者に過料銭900文の罰、政徳院(津軽家11代の殿様と言われる順承)三回 上に続く
1867年	6月21日	慶応3年	5月19日 曇 (当2月8日夜郷蔵焼失の際に居眠りしていた番人を鞭刑15鞭居村徘徊これまで通り・穿出560俵焼失302俵余、無刻印の木品を買った柏木町村の男に木品御取り上げの上 上に続く
1867年	6月22日	慶応3年	5月20日 曇 申の刻頃より小雨降 卯の刻頃止 (慈雲院境内庭廻で焚火鉄砲打ち放し座敷に入り込み酒等あり・止めるよう御目付触れ・無住だったのかな)
1867年	6月23日	慶応3年	5月21日 曇 卯の刻過より雨降 即刻止 (十三町奉行碓ヶ間町奉行から御救い米を申し出る・申付ける) 下から続く 御取上げの上鞭刑15鞭居村徘徊これまで通り、 欄外(*)に続く
1867年	6月24日	慶応3年	5月22日 晴 (黒石から有事の際の支援を求めて来ている) 下から続く 鞭刑30鞭10里四方追放大場並びに鉄山銅鉛山働御構い、杉隠伐り代金3両2歩に売払った男に売払い代 上に続く
1867年	6月25日	慶応3年	5月23日 快晴 未の刻過地震少し (宇和野で諸手足軽の野稽古高覧、去る(この場合去年?)5月18日今泉鉄山の番子が板倉より米4俵を盗み取り内1俵を95文目で売った・この男に 上に続く
1867年	6月26日	慶応3年	5月24日 曇 (当3月小泊で朱之丸御城米積船破船の節の対応で湊目付等に御賞金300疋等・多数の関係者に御酒代300文～1貫500文、人事異動、支配取扱不行届きの座当頭綾之一を昨晚戸へ)
1867年	6月27日	慶応3年	5月25日 曇 今暁丑の刻過より雨降 辰の刻頃止
1867年	6月28日	慶応3年	5月26日 曇 (伊予の国の僧を永々止宿させた法立寺を禁足、御検見が不適切の御家中の勤中扶持差引御留守居組江役下げ、16日発道中8日振りの飛脚到着・殿様御機嫌能、江戸で人事異動)
1867年	6月29日	慶応3年	5月27日 曇 申の刻頃より雨降 戌の刻頃止 酉の刻頃雷鳴 即刻止 (赤石礼次郎を京都御留守居兼役に等の人事異動、青田の内笛吹くなどの触)
1867年	6月30日	慶応3年	5月28日 晴

(*)去る9月26日江戸大川端で御廻米より抜米・隠売りの男の御給分召上げ3里四方追放・この仲間も3里四方追放・これを見抜けなかった上乗下乗に押込等の罰)

1867年	7月1日	慶応3年	5月29日	晴
1867年	7月2日	慶応3年	6月1日	晴 (人事異動)
1867年	7月3日	慶応3年	6月2日	快晴
1867年	7月4日	慶応3年	6月3日	晴 (願い出なしに境内の雑木を切り薪にした百沢寺を禁足)
1867年	7月5日	慶応3年	6月4日	晴 下から続く 之内牛溝・車力・豊田・富范の4か村で(水)湛になり繰り返したが何とかしている)
1867年	7月6日	慶応3年	6月5日	快晴 (和徳・藤崎・柏木・赤田・広田・金木・飯詰・広須・木造・藤代・高杉各組の植付は5月節句前後より・昨年より相応・少々苗不足・去月18日の出水の折西風烈しく木造新田 上に続く)
1867年	7月7日	慶応3年	6月6日	曇 巳の刻頃より雨時々降 申の刻過止
1867年	7月8日	慶応3年	6月7日	晴 申の刻頃小雨降 即刻止 下から続く この件については関係者多数に御賞)
1867年	7月9日	慶応3年	6月8日	晴 (長谷川某を碇ヶ間町奉行に等の人事異動、去る秋御廻船が南部領釜石で窮民押買いの見分が適切だった男(多分勘定小頭)に俵子5俵1人扶持料下し置かれる。上に続く)
1867年	7月10日	慶応3年	6月9日	曇
1867年	7月11日	慶応3年	6月10日	曇 辰の刻頃より小雨降 即刻止 (過酒・他寺と争論の京徳寺を禁足)
1867年	7月12日	慶応3年	6月11日	晴 (赤石組久田村獅師半次郎・大間越村獅師基四郎が昨年当春熊取る・下々位の熊皮1枚と鳥目3貫文ツツ下し置かれる)
1867年	7月13日	慶応3年	6月12日	晴 (武場で剣術高覧、これまでの引越は支配の庄屋名主より引越先の庄屋名主江人別送状にて引越す・今後はいろいろ書いてあるが分らない)
1867年	7月14日	慶応3年	6月13日	曇 今晩寅の刻過より雨降 夜二入同断 15日から続く 御酒代銀5両下し置かれる、両親江孝行の子に御褒美御米2俵下し置かれる)
1867年	7月15日	慶応3年	6月14日	晴 昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止 (今日剣術高覧、大坂御館入四家年賦御渡米昨年より作跡に付減少渡し……(西館)平馬殿より……御渡米値段1石に付銀450目立にて……)
1867年	7月16日	慶応3年	6月15日	曇 (人事異動、当4月の鰻ヶ沢出火に補助を差し出した御用?今村某・舞戸村郷士月永某・御用達戸沼?某に御賞金500・700疋、難洪の者共に塩30俵補助の深浦町の男に 13日に続く)
1867年	7月17日	慶応3年	6月16日	曇 午の刻頃小雨降 則刻止 19日から続く 高37250石、当年は御馬献上の年らしい・この度御厩廃止に付……馬衣を小倉織紅から縞を用いていたものを有り合せの舶来品とする)
1867年	7月18日	慶応3年	6月17日	曇 (今日槍術高覧) 下から続く 至るまで不進(ふしん)之者あり……早速種痘を受けるように)
1867年	7月19日	慶応3年	6月18日	曇 午の刻過より小雨降 未の刻頃止 (御目付触:昨年新田在より痘瘡流行・当4月医学館で日々種痘を行うとした・今もって御家中の族は勿論近在之者その他町々の者に 上に続く)
1867年	7月20日	慶応3年	6月19日	晴 (今日槍術高覧、8日江戸表発の9日振り飛脚が今日到着、当江戸廻米8000石(全て家中扶持米・定例廻米高53342石)・大坂開米6000石(全て家中扶持米・定例廻米 16日に続く)
1867年	7月21日	慶応3年	6月20日	快晴
1867年	7月22日	慶応3年	6月21日	晴 (この度痘瘡流行・24日より大行院で痘瘡安全の御祈禱を仰せ付ける、去る朝日青森町から内真部村まで届ける秋田男病人が病死・手代が死骸を見分し別条なく同所墓所に仮葬)
1867年	7月23日	慶応3年	6月22日	曇 酉の刻過より雨降 (革秀寺御霊屋外廻の小杉等を切り荒らす者あり・御家中の二三男らしい・入り込まないよう父兄に申し付ける)
1867年	7月24日	慶応3年	6月23日	曇 昨夜よりの雨及今日 辰の刻過止
1867年	7月25日	慶応3年	6月24日	快晴 (人事異動)
1867年	7月26日	慶応3年	6月25日	晴 (今日三之丸御馬場で射芸高覧・大寄合以上見物) 下から続く 大振り手込細工等禁止・惣年の者が頭取り致し他町まで金銭差し出させるように聞こえるが止めろとの触)
1867年	7月27日	慶応3年	6月26日	曇 今日辰の刻過より雨時々降 戌の刻頃止 下から続く 語らひ取った男が逃亡・盗徒で揚屋から大赦で出た者・見当て次第召捕よう申し付ける、祢婦たの喧嘩口論・ 上に続く)
1867年	7月28日	慶応3年	6月27日	晴 (金銭無心で市中騒々しくした男(諸手足軽の伯父)を揚屋入り、短刀持参の気遣いを兄預け親類見継の上他出させないよう申付ける、去月3日御家中の御切米2俵等を 上に続く)
1867年	7月29日	慶応3年	6月28日	曇 卯の刻頃より雨時々降 申の刻過止
1867年	7月30日	慶応3年	6月29日	曇 (不行跡増長一間所で養生中の山屋某の半知召上げ隠居の上他出差留婿養子を御留守居組とする) 下から続く 13人に出精として金100疋下し置かれる)
1867年	7月31日	慶応3年	7月1日	曇 午の刻過より雨降 則刻止 (本多八郎左衛門を諸手足軽頭に等の人事異動、近衛様御警衛から帰った葛巻某等16人に金100~150疋下し置かれる、京都詰合から帰った 上に続く)
1867年	8月1日	慶応3年	7月2日	晴 (今日三之丸御馬場で射芸高覧・大寄合以上見物)
1867年	8月2日	慶応3年	7月3日	晴
1867年	8月3日	慶応3年	7月4日	曇 今晩寅の刻より雨時々降 申の刻頃止 (進藤某を城付足軽頭に等の人事異動)
1867年	8月4日	慶応3年	7月5日	晴 (代官町の面々が称ふた差出すので和徳町に人夫50人差出すように申付けたとの噂を聞き人夫を出さないよう申し付けている)
1867年	8月5日	慶応3年	7月6日	曇 (瓦丁の面々大なる・覚仙丁で30人持位・和徳町子供組合で持つとして二三十人持位の称ふたができた・早速取り潰し候用厳重に申し付ける)
1867年	8月6日	慶応3年	7月7日	曇 (近衛様御警衛両組月々菜銭:番頭金2両→金2両2歩・両組1人金1両3歩→2両仁(2)朱・御徒目付金1両2歩→1両3歩1朱・掃除小人等1人金1歩3朱→2歩1朱、6月9日將軍宣下の通知)
1867年	8月7日	慶応3年	7月8日	曇 辰の刻頃より雨時々降 巳の刻過止
1867年	8月8日	慶応3年	7月9日	晴
1867年	8月9日	慶応3年	7月10日	曇 未の刻頃雨降 則刻止 (今日宇和野で調練並びに小銃高覧)
1867年	8月10日	慶応3年	7月11日	曇 卯の刻頃より雨降 (この度大浦浜で焚き出した塩はとも使い物にならない)
1867年	8月11日	慶応3年	7月12日	晴 (江戸表より返す家中の屋敷を古学校構の内・蔵主丁明地・富田御屋敷跡に計画している、拝屋敷1軒に付表裏口8間宛裏行20間宛等)
1867年	8月12日	慶応3年	7月13日	曇 午の刻過小雨降 即刻止
1867年	8月13日	慶応3年	7月14日	晴 申の刻過雨降 戌の刻過止 18日から続く 7×796文迄引下・不釣合に付21日より両替金1両に付112文目立定価とする)
1867年	8月14日	慶応3年	7月15日	曇 下から続く 医者と検使御徒目付を依頼する)
1867年	8月15日	慶応3年	7月16日	晴 下から続く 村払いとする、人事異動、昨晚踊り見物中の御家中の弟が山道町より土手町江通る際踊り子様の25人位の刀抜散した者に右の腕3か所疵つけられる。上に続く)
1867年	8月16日	慶応3年	7月17日	晴 (去る15日の晩本町大津屋店に踊り子共大勢入り込み乱妨・御家中の二三男も・町同心を配置する、喰川村の日雇が人寄の上娘兩人を売女同様にする・家内8人 上に続く)
1867年	8月17日	慶応3年	7月18日	快晴 (御持筒足軽頭格に藤田浅之丞等の人事異動、当年格別金銀払底、一昨年より不作にて銭相場格別引下げ江戸表茂両二8×100文・丁銭(ちようせん:銀100目?) 14日に続く)
1867年	8月18日	慶応3年	7月19日	晴
1867年	8月19日	慶応3年	7月20日	快晴 (15日の踊り見物傷害事件の報告あり)
1867年	8月20日	慶応3年	7月21日	快晴
1867年	8月21日	慶応3年	7月22日	晴
1867年	8月22日	慶応3年	7月23日	快晴
1867年	8月23日	慶応3年	7月24日	快晴 下から続く 樋口左馬之助(藩が江戸に派遣した海軍用員の1人)を海軍奉行並軍艦奉行として幕府の軍艦組出役になる、江戸で山田源吾再雇用等の人事異動)
1867年	8月24日	慶応3年	7月25日	快晴 (人事異動、直印の寺請状差出方不届きとして木造村西教寺・中里村真勝寺・藤崎村称名寺の隠居等を禁足としたが免許、堀五郎左衛門等を御婚禮御用懸とする、 上に続く)
1867年	8月25日	慶応3年	7月26日	快晴 下から続く 礼金が届いている、昨夜家老添田有方殿が病死・三日の内鳴物停止)
1867年	8月26日	慶応3年	7月27日	曇 今晩寅の刻頃雷鳴 則刻止 辰の刻過より雨降 未の刻過止 巳の刻頃雷鳴 則刻止 (去月10日箱館表を出た南部船が12日夜に青森に着岸し世話になったと礼状・ 上に続く)
1867年	8月27日	慶応3年	7月28日	晴
1867年	8月28日	慶応3年	7月29日	曇
1867年	8月29日	慶応3年	8月1日	曇 巳の刻過雨降 則刻止 (人事異動、水練稽古川方取扱い並びに教授方格別骨折りの4人に御賞金50・100疋・10人に銀3両・5両宛下し置かれる)
1867年	8月30日	慶応3年	8月2日	快晴
1867年	8月31日	慶応3年	8月3日	晴

1867年	9月1日	慶応3年	8月4日	快晴	(京都詰合の14人に御酒御吸物内1人に銀子1枚を下し置かれる) 下から続く 打擲され負傷、京都下りの掃除小人が道中赤塚駅で同僚に傷を付け・逃亡・負傷者の迎え出す)
1867年	9月2日	慶応3年	8月5日	曇	今暁寅の刻過より雨降 辰の刻頃止 (南部表で銃新4文銭鑄立てる・裏に盛の字あり・悪銭であり御国入り差し留める、医者報告:沖館村の6人が草刈山で唐竹村の者に 上に続く)
1867年	9月3日	慶応3年	8月6日	曇	下から続く 男に襲われ金を奪われたとのこと・疵も詳細に記載されている)
1867年	9月4日	慶応3年	8月7日	曇	(津島才吉が横岡才吉と改名・寛政9年に不調法で御殿の横岡伊八郎の後を継ぎたいとのこと、去月27日朝油川村領に袖乞体の者19歳が九死に一生の様子、袖乞同行の 上に続く)
1867年	9月5日	慶応3年	8月8日	曇	(去月20日新谷某の親・去月8日夜箱館詰の御徒が出奔)
1867年	9月6日	慶応3年	8月9日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 午の刻過止
1867年	9月7日	慶応3年	8月10日	曇	巳の刻過雨降 則刻止 (人事異動、昨夜四時頃御家中宅で出火・西側の隣家残らず東側屋根廻少々類焼・預かっていた他出差し留めの弟は親類に移す)
1867年	9月8日	慶応3年	8月11日	曇	(人を欺き金子借用木綿売り捌いた御家中の隠居の倅を一問所で償)
1867年	9月9日	慶応3年	8月12日	曇	(工藤嘉左衛門を大寄合格用人に等の人事異動、大和沢村作左衛門事件十郎等樹芸見継の者多数に御免引きや帯刀御免)
1867年	9月10日	慶応3年	8月13日	曇	
1867年	9月11日	慶応3年	8月14日	曇	午の刻頃より雨降 酉の刻過止 (昨13日佐々木弥太八の星場に御取立て仰せ付けられた日覆い小屋が残らず焼失)
1867年	9月12日	慶応3年	8月15日	曇	(今日八幡宮御祭礼・神輿通御二付五時過之御供揃で三之丸江入る)
1867年	9月13日	慶応3年	8月16日	曇	
1867年	9月14日	慶応3年	8月17日	曇	辰の刻過より小雨時々降 未の刻過止 23日から続く 昨年12月に金木屋手代より木綿を奪い取った倅(隠居)の親(御家中)の御奉公遠慮・関係者は大赦以前として御用捨)
1867年	9月15日	慶応3年	8月18日	晴	(大浦塩濱懸合い精勤の男に5人扶持下し置かれる)
1867年	9月16日	慶応3年	8月19日	曇	亥の刻頃より雨時々降 下から続く 元寺町で酒狂いの上町民に手傷を負わせた大組足軽の子を親預け嫡子に立てないよう申し付ける、異人と材木取組の違約男を永牢)
1867年	9月17日	慶応3年	8月20日	曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 (去月26日より仙台岩屋堂村の男が大坂の者に傷をつけられた(7日記述)が快活・希望により野内御開所口江送り返す、一昨年3月7日 上に続く)
1867年	9月18日	慶応3年	8月21日	曇	今暁子の刻頃より雨降 丑の刻過止 辰の刻頃より雨降 巳の刻過止 (人事異動、小銃新規巻張り方を仰せ付けられ細工に手抜き等の御鉄砲師2人に戸)
1867年	9月19日	慶応3年	8月22日	曇	辰の刻過雨降 即刻止 (別段御用懸勤に格別の3人に御賞(金50・100疋)、御手船左宝丸の代わりの幸福丸・豊久丸の合船に行届いた掃除小人に御酒代鳥目1貫500文、人事異動)
1867年	9月20日	慶応3年	8月23日	晴	(昨年11月茂森町玉田屋等々に忍入り金銭等を盗みの真土村の男に15鞭庄屋江引渡、当4月売払った筈に不正の青森蜆貝町の男に鞭刑・内容は青森町奉行が決める、 17日に続く)
1867年	9月21日	慶応3年	8月24日	曇	(京都詰の高木某が病死・跡式を相違なく倅に下し置かれる、当新酒売出しに客が列をなし揉めている・事情不明)
1867年	9月22日	慶応3年	8月25日	快晴	(木曾道中人馬賃銭近来割増・取調べの上変更・賃銭の記述は省略)
1867年	9月23日	慶応3年	8月26日	曇	(今日宇和野で砲術師範家の大砲並びに地雷火等高覧、この度御鷹野仰せ付けられ各地の人員の配置など12ページほど書いてある)
1867年	9月24日	慶応3年	8月27日	曇	午の刻頃小雨降 即刻止 (真土村一代郷士を駒越組手代に起用している)
1867年	9月25日	慶応3年	8月28日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 (御目見より多数の人事異動) 9月1日から続く 金300疋下し置かれる、去月28・9日馬を引き賃金を用いて目屋野沢で諸品買受の者あり)
1867年	9月26日	慶応3年	8月29日	曇	(昨年6月19日馬に乗り往來の者江怪我させた御旗營固の子を押込・療治代を親より差し遣わさせる) 下から続く 深手を負わせた御家中の子弟3人を他出差留め父兄預け)
1867年	9月27日	慶応3年	8月30日	曇	今暁寅之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (去る24日御備立内々習で大筒隊員が怪我・筒葉消え残りの処江葉込めと見える、去月17日晩土手山道町小路で平井某に 上に続く)
1867年	9月28日	慶応3年	9月1日	曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止 (御小姓組銀3枚3人扶持等11人等の人事異動、昨年の御手船幸福丸・豊久丸の合船懸合に骨折りに骨折りの御手廻与力等に御賞 8月28日に続く)
1867年	9月29日	慶応3年	9月2日	曇	今暁寅之刻より雨時々降 (人事異動) 下から続く 蝦夷地鞆固箱館詰200人並びにスツ・詰100人の交替が済んだことを6月27日に公儀報告)
1867年	9月30日	慶応3年	9月3日	曇	辰の刻雷鳴 則刻止 辰の刻過雨降 則刻止 下から続く 人事異動、去月29日夜金木村妙乗寺が香炉の焼残りより出火・寺中焼失百姓家3軒類焼・火元禁足、 上に続く)
1867年	10月1日	慶応3年	9月4日	曇	(別段御用懸の御中小姓に御賞金50疋、遠馬時に骨折の大組足軽に御酒代鳥目1貫文、新茶畑丁転居予定の石郷岡鼎等8人が大円寺末寺普光寺境内に住続している、 上に続く)
1867年	10月2日	慶応3年	9月5日	晴	(不明年に造酒が差止め・密に酒造し密売した男5人の売払代(例酒6升代銭60目等)等御取り上げの上戸 30日・密造酒を造り飲んだ多数に御用捨、人事異動)
1867年	10月3日	慶応3年	9月6日	快晴	今暁子の刻過地震少し 16日から続く 所々で衣類を盗んだ他領者2人を乞食小屋引廻しの上碓ヶ関口送り返し、揚屋を出て又盗みの男2人を乞食手下ヶ、 欄外(*)に続く)
1867年	10月4日	慶応3年	9月7日	曇	巳の刻より雨降 酉の刻過止 (人事異動) 下から続く 親預け・押込め30日等の罰)
1867年	10月5日	慶応3年	9月8日	晴	申の刻過雨降 夜二入同断 10日から続く 南部鮫ヶ浦で手段米した行方不明者を捕えたとの仙台からの通知、材木取引の詐欺?男を押込50日、博奕の男女に 上に続く)
1867年	10月6日	慶応3年	9月9日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻過止 今日岩木山江雪初而見ゆる (殿様が先陣遠馬中に極賞の者9人に御米2斗宛下されるようにしている)
1867年	10月7日	慶応3年	9月10日	曇	亥の刻過雨降 (人事異動、最近痘瘡が再流行・種痘を受けても痘瘡の気を受け無益有害と触れる者あり・種痘を受けるようにとの触、昨年江戸廻船の米を破船に事よせ 8日に続く)
1867年	10月8日	慶応3年	9月11日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 未の刻過止 (この度新明宮・八幡宮で痘瘡安全の御祈禱が済み次第御守り札を御家中並びに在町浦々江下し置かれる)
1867年	10月9日	慶応3年	9月12日	晴	(組拵ふた出来押して差し出し候節頭取した御家中2人に御奉公遠慮)
1867年	10月10日	慶応3年	9月13日	晴	下から続く 小売米買入れ等に骨折りの岩見屋等の7人に御賞銀10・20両・窮民共に補助米差出の5人の郷士に御酒御吸物干菓子を下し置かれる・これに準ずる例多数あり)
1867年	10月11日	慶応3年	9月14日	曇	午の刻過より雨降 則刻止 雷鳴 則刻止 下から続く 御賞300疋宛・小売米代銭調達の御用達今村某・武田某・野村某等に御料理御紋形御上下を下し置かれる・ 上に続く)
1867年	10月12日	慶応3年	9月15日	曇	午の刻過より雨降 戌の刻頃雷鳴 則刻止 夜に入同断 (赤松某に金2両1人扶持の勤料増で徒頭格学問所小司取扱等の人事異動、一昨年昨年打続く違作……代官?に 上に続く)
1867年	10月13日	慶応3年	9月16日	曇	(語取り盗取りの男2人に鞭計3鞭弘前御構い、盗みの子に3鞭親引渡、盗みの男に3鞭村役引渡、何所が不届きか不明の男に3鞭町役引渡、衣類盗みの男に6鞭親引渡、 6日に続く)
1867年	10月14日	慶応3年	9月17日	曇	(人事異動、去る13日明け八時頃脇元村で出火・17・8軒も類焼) 下から続く 四方追放大場御構い)
1867年	10月15日	慶応3年	9月18日	曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (楠見荘司の御用人御免) 下から続く 通り、路用が不足して預かった金子を使いこんだ諸手足軽の御給分召上げ永の暇5里 上に続く)
1867年	10月16日	慶応3年	9月19日	曇	昨夜よりの雨巳之刻頃止 (当2月9日夜初を3儀盗みの男に3鞭親引渡・仲間に過料銭1貫800文・盗まれた方も胡散臭い、米銭過取し私腹の庄屋に12鞭居村徘徊これ迄 上に続く)
1867年	10月17日	慶応3年	9月20日	晴	(先陣深浦に難船で入った船の折精勤として15人に御賞鳥目500文~1貫200文、去る12日夜脇元村の火災は類焼とも19疋焼失馬1疋焼斃・火元他村預け)
1867年	10月18日	慶応3年	9月21日	曇	亥の刻頃雨降 (今日馬術高覧・大寄合以上見物、人事異動)
1867年	10月19日	慶応3年	9月22日	曇	昨夜よりの雨及今日 時々降 亥の刻頃止 (弘木の御印に墨付け書替えの男に過料銀1枚で御印を書替えて渡す、宇和野並びに大星場で大砲打方の節猿二人込み打玉拾うなどの触)
1867年	10月20日	慶応3年	9月23日	晴	(一昨年来劣作相続く・領民撫育のため今しばらく……と8月11日に公儀あてに申し込んでいる)
1867年	10月21日	慶応3年	9月24日	曇	卯の刻頃より雨時々降 巳の刻頃止 酉の刻頃より雨降 亥の刻頃止 (当7月17日暁手傷を負った平井某が昨夜死亡)
1867年	10月22日	慶応3年	9月25日	曇	
1867年	10月23日	慶応3年	9月26日	快晴	
1867年	10月24日	慶応3年	9月27日	快晴	29日から続く 用意しておく・代金は御給分より差し引く、去月27日白戸某の弟友衛(7月17日に平井某に手傷を負わせ死亡させた男)が出奔・同日その仲間菊池某も出奔)
1867年	10月25日	慶応3年	9月28日	曇	今暁寅の刻頃雨降 則刻止 (人事異動、去る21日夜浪岡組高館村で出火・類焼とも2軒焼失・火元高無他村預け)
1867年	10月26日	慶応3年	9月29日	曇	卯の刻頃雨時々降 未の刻頃止 10月3日から続く 御役にかかわらず1軒に付菜漬1斗入り一つ・宅庵漬(沢庵漬)2斗入り一つ・味噌1軒に付10文目代ツツを 27日に続く)
1867年	10月27日	慶応3年	10月1日	曇	今暁丑の刻頃より雨降 寅乃刻過止 今日雪少降 (添田常三郎を大寄合格に等多数の人事異動)
1867年	10月28日	慶応3年	10月2日	晴	(今夜四時過ぎ富田町辺り出火・御家中諸士寄場に相詰める、人事異動、去月10日青森浜町同心共が米1俵取り押さえる)
1867年	10月29日	慶応3年	10月3日	曇	下から続く ただし御賞人は翌日以降なし、このほかに別段賄量:長柄奉行已上金3疋2朱・これ以下御中小姓格迄金2歩1朱・これ以下御目見以上金1歩2朱、 9月29日に続く)
1867年	10月30日	慶応3年	10月4日	曇	未の刻頃より雨降 申の刻過止 (常府御家中の御国引越の賄銭:弘前着の日1人1飯に付:御中小姓格以上7文目5分それ未満6文目・翌日から2日間12文目と10文目 上に続く)
1867年	10月31日	慶応3年	10月5日	晴	(痘瘡流行・五山で痘瘡安全患愚退却の重き御祈禱を仰せ付け)

(*)盗米と知らず1俵に付130目で4俵・その後136文目5分で4俵買入の男の代金御取上、榎木舞袖取掛合で不届きの御中小姓の俵子5俵1人扶持召上げ御目見以上御留守居支配に役下げ)

1867年	11月1日	慶応3年	10月6日	曇	今暁丑乃刻頃より雨降 午の刻過止 (当2月17日鷹匠達が館山村の者共ともめる・鷹匠達は御目見以下に等の役下げ館山村の庄屋役取返し21鞭3里四方追放・村人にも相当な罰)
1867年	11月2日	慶応3年	10月7日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (山田登と笠原虎之助の詮議の筋ありとして親類たりとも対面させないよう仰せ付ける、当熟作……)
1867年	11月3日	慶応3年	10月8日	曇	昨夜より乃雨今日及 時々降 夜二入同断 (佐藤源太左衛門を用人兼帯等の人事異動、先年駒代料を1疋13両までとしたが30両積りを以って……)
1867年	11月4日	慶応3年	10月9日	曇	昨夜よりの雨今日二及 申の刻過止 下から続く 脇元村の29軒に1軒に付1俵宛の御手当米都合29俵を下し置かれる)
1867年	11月5日	慶応3年	10月10日	晴	(今朝5時頃成田某宅に鹿内某が切り込み取り押さえられる・双方負傷、30年余り精勤の月行事と5人組に御賞鳥目1貫文と700文下し置かれる、去月12日夜出火の金木組 上に続く)
1867年	11月6日	慶応3年	10月11日	曇	申の刻頃より小雨降 酉の刻過止 (昨日の刃傷沙汰で鹿内某は召捕り入牢・双方に文書の授受があったらしく牢奉行に渡し置く)
1867年	11月7日	慶応3年	10月12日	曇	卯の刻過より雨時々降 戌の刻過止 (一昨日負傷の成田八郎太の傷の見分記録、所々で盗み作事方江忍び入り大工道具盗みの長柄の者を御給分召し上げ入牢)
1867年	11月8日	慶応3年	10月13日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1867年	11月9日	慶応3年	10月14日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午の刻過止 亥の刻頃より雨時々降 (丹後者詮議・送り返しの触)
1867年	11月10日	慶応3年	10月15日	曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 夜に入同断 (安藤秀吾を御小姓組の頭に等の人事異動)
1867年	11月11日	慶応3年	10月16日	曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 戌の刻頃止
1867年	11月12日	慶応3年	10月17日	晴	(天気不正続きで稲草村納にならない・岩木山より硫黄を穿取ったためと諸人申し唱える・硫黄作業を御取延とする)
1867年	11月13日	慶応3年	10月18日	晴	亥の刻過より雨降
1867年	11月14日	慶応3年	10月19日	晴	昨夜より乃雨今暁寅の刻過止
1867年	11月15日	慶応3年	10月20日	快晴	(京都詰合の14人に御酒御吸い物内1人に銀子1枚を下し置かれる、人事異動、笹森儀助等の役儀召込1間所入り・諸書物封印の上……とある)
1867年	11月16日	慶応3年	10月21日	曇	未乃刻小雨降 酉乃刻過止
1867年	11月17日	慶応3年	10月22日	曇	(一昨年昨年の遺作に適切に対応した竹内某(例えば代官?)に御賞金300疋) 29日から続く 御鑑札を取り上げる、去る27日下飯詰村長円寺境内に40歳位の男縊死)
1867年	11月18日	慶応3年	10月23日	曇	下から続く 観覧・禁裏等も平出、江戸で人事異動、この度五街道宿々人馬賃銭是迄の割増しに拘わらず来月朔日より元賃銭江六倍五割増(意味不明)に仰せ付けられる)
1867年	11月19日	慶応3年	10月24日	晴	(去月12日の公儀申渡:魯西亜コンシュル(領事)出府の処近々箱館表江帰る節陸路を通りたいとのことで差し許す・青森表より渡海との事、朝廷江貢献物の順年らしい・ 上に続く)
1867年	11月20日	慶応3年	10月25日	曇	今日戌の刻頃より雨降 (人事異動、油川村付近に死骸寄せる・去月9日海死の野内町同心の二男である、御家中丁割りで新寺町裏通り幅2間を3間に等の改修を行う)
1867年	11月21日	慶応3年	10月26日	曇	昨夜より乃雨今日二及 時々降 亥の刻頃止 今日霰降 (不束な所業の中田某を隠居、高200石は碎御手廻に) 下から続く 破船の船頭筆箭の取扱が不届きな男を揚屋入り)
1867年	11月22日	慶応3年	10月27日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (御矢竹林上締役堀内某を帯刀御免の上苗字相名乗らせる) 下から続く 御酒代鳥目1貫文下し置かれる、当3月脇元村で 上に続く)
1867年	11月23日	慶応3年	10月28日	晴	(木立要馬を御近習番に等の人事異動、御賞、16年前に松前に行き当正月に帰国したが家元死絶え諸品語らい取り等の男を当分の内揚屋入り、19年間精勤の漆大仕立に 上に続く)
1867年	11月24日	慶応3年	10月29日	晴	下から続く 中旬より盗み徒の男を揚屋入り、松前まで飛脚の今別町同心の御手当が43文目2分だった・箱館にも廻るようになり2歩12文目とする、不埒な造酒屋の 22日に続く)
1867年	11月25日	慶応3年	10月30日	曇	今暁子刻頃より雨時々降 亥の刻頃止 今日雪少し降 (御城米積の船(詳細不明)が男鹿浦沖合辺りで荷打破船・乗廻し困難であり金170両で売払う様申し出る、当4月 上に続く)
1867年	11月26日	慶応3年	11月1日		(11月1日から1か月間日記の保存なし)
1867年	11月27日	慶応3年	11月2日		
1867年	11月28日	慶応3年	11月3日		
1867年	11月29日	慶応3年	11月4日		
1867年	11月30日	慶応3年	11月5日		
1867年	12月1日	慶応3年	11月6日		
1867年	12月2日	慶応3年	11月7日		
1867年	12月3日	慶応3年	11月8日		
1867年	12月4日	慶応3年	11月9日		
1867年	12月5日	慶応3年	11月10日		
1867年	12月6日	慶応3年	11月11日		
1867年	12月7日	慶応3年	11月12日		
1867年	12月8日	慶応3年	11月13日		
1867年	12月9日	慶応3年	11月14日		
1867年	12月10日	慶応3年	11月15日		
1867年	12月11日	慶応3年	11月16日		
1867年	12月12日	慶応3年	11月17日		
1867年	12月13日	慶応3年	11月18日		
1867年	12月14日	慶応3年	11月19日		
1867年	12月15日	慶応3年	11月20日		
1867年	12月16日	慶応3年	11月21日		
1867年	12月17日	慶応3年	11月22日		
1867年	12月18日	慶応3年	11月23日		
1867年	12月19日	慶応3年	11月24日		
1867年	12月20日	慶応3年	11月25日		
1867年	12月21日	慶応3年	11月26日		
1867年	12月22日	慶応3年	11月27日		
1867年	12月23日	慶応3年	11月28日		
1867年	12月24日	慶応3年	11月29日		
1867年	12月25日	慶応3年	11月30日		(11月1日から1か月間日記の保存なし) 下から続く 家の取立て計画:大矢場江100石家2軒50石家2軒・富田御屋敷跡江100石家2軒50石家8軒右(本書では左)以下8軒)
1867年	12月26日	慶応3年	12月1日	曇	酉の刻より雨降 亥の刻頃止 (工藤某を寄合格に等の人事異動、神孝之助が一間所に入られていた、去月26日山田登が実家小笠原に返され一間所入り、引越家中の 上に続く)
1867年	12月27日	慶応3年	12月2日	曇	(今日剣術高覧、諸事去月28日の通り、山田登の米・菜銭・流木・油・その他が示されている、人事異動、嘉瀬村の郷蔵切破り糶盗み・尾別村の生木盗伐りを家財欠所(財産没収))
1867年	12月28日	慶応3年	12月3日	曇	午の刻頃より雨時々降 戌の刻過止
1867年	12月29日	慶応3年	12月4日	曇	(今日剣術高覧、山田登の倅又一郎は新たに俵子50俵3人扶持御目見以上御留守居支配に)
1867年	12月30日	慶応3年	12月5日	曇	今日雪降 六寸程積 (人事異動)
1867年	12月31日	慶応3年	12月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降

1868年	1月1日	慶応3年	12月7日	曇	(検見御用格別として7人に御賞(金100・150・500疋))
1868年	1月2日	慶応3年	12月8日	曇	(宇佐美平馬を御手廻組に等の人事異動、9月の御城米積船難船(10月30日に記述)に付鯉ヶ沢湊目付に御賞金300疋・別段締役等に銀5両～鳥目500文、御家中の弟を手錠の上預け)
1868年	1月3日	慶応3年	12月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (藤崎村の郷士川越某を他出差留)
1868年	1月4日	慶応3年	12月10日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 三寸程積 (別段御用出精として一戸某に御賞金50疋、人事異動)
1868年	1月5日	慶応3年	12月11日	曇	今日雪少し降 (人事異動)
1868年	1月6日	慶応3年	12月12日	曇	昨夜雪降 二寸位積 (去る丑寅兩年(今年は卯年)御検見の砌葺計を巧私曲した代庄屋等4人を揚屋から入牢とする)
1868年	1月7日	慶応3年	12月13日	曇	下から続く 入札払い、人事異動、年頭社参仏参の行先と金額等の表あり)
1868年	1月8日	慶応3年	12月14日	曇	今日雪少し降 午の刻過より雨降 申の刻過止 (行列方精勤の瓜田某に御賞金200疋、手段米を取押え犯人が不明の御締まり引擔(引っ担ぎ)に戸ノ5日・玄米1俵3斗は 上に続く)
1868年	1月9日	慶応3年	12月15日	曇	(成田某を徒頭に・ヶヘール台出来方格別早くした須藤某を御目見以上御留守居支配に役上げ等の人事異動、10月6日屋九時頃赤石村に70歳余の女が参り病死・ 正月2日に続く)
1868年	1月10日	慶応3年	12月16日	曇	今日雪少し降
1868年	1月11日	慶応3年	12月17日	晴	(青森丸・安済丸(ともに西洋型帆船)合船の製造チャン製法等心得の長柄之者を勤料5俵増等の人事異動、不埒な広須組蓮花田村普請奉行三戸某を押込30日)
1868年	1月12日	慶応3年	12月18日	曇	今日雪少し降 (射芸格別の39人に弦8・12・13筋・3人に御酒代600文下し置かれる、人事異動) 下から続く 当9月江戸で不屈者の国下がり付添中に出奔された雇小人を押込)
1868年	1月13日	慶応3年	12月19日	快晴	(御武具奉行仕切に不行届きの男3人を使番格・御手廻・御馬廻に役下げ) 下から続く 新屋町村の類焼者の上納御免:米71石2斗4升8合・銀78文目3分6厘、上に続く)
1868年	1月14日	慶応3年	12月20日	晴	(人事異動) 下から続く 夫食米を願ひ断られて村方救助に御蔵糶309俵を4度差出貸し付けた柳村代庄屋・同村五人組に贖銭40貫文等の罰、去月29日大光寺組 上に続く)
1868年	1月15日	慶応3年	12月21日	曇	今日雪少し降 (大道寺源之進を徒頭格鯉ヶ沢町奉行兼役に等の人事異動、召捕った盗人を取逃がした飯詰村の庄屋・親類・五軒組合に過料銭1貫800文等の罰、上に続く)
1868年	1月16日	慶応3年	12月22日	曇	(人事異動、手段米の水主を捕えてくれた仙台藩に挨拶(礼状と金500～100疋)、今般登京御人数葉銭渡しを先年の1割5歩増とする、掃除小人を京都からの飛脚度々・早着・勤料増)
1868年	1月17日	慶応3年	12月23日	曇	昨夜雪少し降
1868年	1月18日	慶応3年	12月24日	曇	今晩丑の刻頃より雨降 巳の刻過止 (斎藤某を御使番に等の人事異動、当10月27日江戸で出奔し召捕られた勘定所小使を御国下がり・揚屋入り)
1868年	1月19日	慶応3年	12月25日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (人事異動、当10月松前表に渡海し贖金で支払いの男・脇本村の男から入手のこと・当8月目屋野沢の事件と同一人か、秋田 正月3日に続く)
1868年	1月20日	慶応3年	12月26日	曇	今日雪少し降
1868年	1月21日	慶応3年	12月27日	曇	(古田某を御使番に等の人事異動、米287俵余等々を補助の郷士に御賞木綿羽織地下し置かれる、漆仕立奇特の男を並一代郷士に・御酒等を下し置かれ等々多数、 正月4日に続く)
1868年	1月22日	慶応3年	12月28日	曇	(武芸出精の5人に御酒御吸物並びに金200疋宛下し置かれる、小山内某を青森町奉行に等の人事異動、所々22人の御蔵立会・奉行に御賞金105又は100疋・ 正月5日に続く)
1868年	1月23日	慶応3年	12月29日	曇	卯の刻頃より雨時々降 午の刻頃止 今日雪少し降 (五街道と同様来正月より諸国脇往還とも一般人馬賃銭6倍5割増を仰せ付ける・数値が書いてるが分らない)
1868年	1月24日	慶応3年	12月30日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 八寸程積 未の刻過雷鳴 即刻止 (一(家老山中)兵部其前(用人工藤)嘉左衛門大目付壱人罷出候、一 松浦吉郎右衛門 正月6日に続く)
1868年	1月25日	慶応4年	正月1日		
1868年	1月26日	慶応4年	正月2日	12月15日から続く	持参品37品あり、鉄の陣笠を持ち合わせない家中に御賞渡し・兵士(以上?)用代131文目・供陣笠代79文目1分)
1868年	1月27日	慶応4年	正月3日	12月25日から続く	土崎湊の男を止宿させたとして青森堤町の男を押込30日・関係者に戸ノ15日)
1868年	1月28日	慶応4年	正月4日	12月27日から続く	武芸怠惰の御手廻・御馬廻の6人?を組外とする、28年間実貞の庄屋が病氣になり御賞(御酒代鳥目700文)・庄屋御免)
1868年	1月29日	慶応4年	正月5日	12月28日から続く	収納が早かった代官・手代に御賞金200疋等の御賞、別段締勤番目付等が取り押さえた金品に関する御賞(金30匹～銭500文))
1868年	1月30日	慶応4年	正月6日	12月30日から続く	申出候御城付三番組足軽明跡有之二付長柄之者佐藤東?右衛門儀是迄之金給勤料共俵子二召直され外二並合之勤料増下置かれ同組足軽申付之、 下に続く)
1868年	1月31日	慶応4年	正月7日	上から続く	一 寺社奉行山口定衛申出候大行院配下龍王院儀宝蔵院と相名乗度旨申出候旨申出達之、一 今日御城当番北原蔵人勤之:最終日だけはできるだけ原文通りにした)
1868年	2月1日	慶応4年	正月8日		
1868年	2月2日	慶応4年	正月9日		
1868年	2月3日	慶応4年	正月10日		
1868年	2月4日	慶応4年	正月11日		
1868年	2月5日	慶応4年	正月12日		
1868年	2月6日	慶応4年	正月13日		
1868年	2月7日	慶応4年	正月14日		
1868年	2月8日	慶応4年	正月15日		
1868年	2月9日	慶応4年	正月16日		
1868年	2月10日	慶応4年	正月17日		
1868年	2月11日	慶応4年	正月18日		
1868年	2月12日	慶応4年	正月19日		
1868年	2月13日	慶応4年	正月20日		
1868年	2月14日	慶応4年	正月21日		
1868年	2月15日	慶応4年	正月22日		
1868年	2月16日	慶応4年	正月23日		
1868年	2月17日	慶応4年	正月24日		
1868年	2月18日	慶応4年	正月25日		
1868年	2月19日	慶応4年	正月26日		
1868年	2月20日	慶応4年	正月27日		
1868年	2月21日	慶応4年	正月28日		
1868年	2月22日	慶応4年	正月29日		
1868年	2月23日	慶応4年	2月1日		
1868年	2月24日	慶応4年	2月2日		
1868年	2月25日	慶応4年	2月3日		
1868年	2月26日	慶応4年	2月4日		
1868年	2月27日	慶応4年	2月5日		
1868年	2月28日	慶応4年	2月6日		
1868年	2月29日	慶応4年	2月7日		